4 北陸の地域づくり活動のレベルアップ

４－１ 地域づくり活動レベルアップの実施内容

（１）実施事項

地域づくりの課題

■北陸らしさを活かし、旅行者の**新しいニーズに対応する新しい観光スタイルの推進**が一体的に進んでいない。
■着地型観光プログラムなど**新しい観光スタイルの地域内の連携が弱く**、３６５日体験可能な地域になっていない。
■着地型観光等の**新しい観光スタイルと、既存の観光資源の連携が弱く**、一体となって旅行者を迎える地域になっていない。
■北陸としての戦略的な観光マーケティング調査が少なく、実施しているプロジェクトの効果や次の仕掛けの検討が行いにくい。

方向性　北陸の魅力を高める・旅行者の満足度を高める

北陸らしさを活かした観光まちづくり（リピーター創出）

○旅行者のニーズが成熟化、多様化する中で、着地型観光等、地域の風土を感じさせる取り組みが重要な役割を担う。
○着地型観光等の情報を総合的に発信するとともに、集客力の高い観光資源との連携を強化し、旅行者の満足度を総合的に高める取り組みを進める。

検討機関	○北陸地域づくり研究会
目　　的	・新幹線延伸による首都圏等からの集客拡大を念頭に、魅力あふれる地域づくりを目指し、各地域における観光振興に関して議論を深め、**新幹線延伸までに取り組むべき地域の課題を整理**する。 ・地域づくり研究会の委員のみならず、各開催地域において地域づくりに尽力しているキーマン等の参加を募り、**人材育成・ネットワークづくりの実践的な**場とする。
プログラム	①現地視察（着地型プログラム等を中心とする現地視察） ②地域の現状についての報告（データ分析） ③最近のまちづくりの取り組み、地元の取り組みの報告 ④地元参加者を交えたディスカッション ⑤総括

（２）開催スケジュール

12 月 1 日	第１回北陸地域づくり研究会（高岡・氷見） 現地視察参加者　委員１７名　地元１２名 会議参加者　委員１８名　地元１８名　合計３６名
12 月 22 日	第２回北陸地域づくり研究（にいかわ地域） 現地視察参加者　委員１６名　地元１８名 会議参加者　委員１６名　地元３０名　合計４６名
2 月 15 日	第３回北陸地域づくり研究（能登半島地域） 現地視察参加者　委員１８名　地元１２名 会議参加者　委員１８名　地元２１名　合計３９名

※委員にはオブザーバーを含む

４－２ 地域づくり研究会の実施結果

（１）第１回地域づくり研究会（高岡・氷見）の結果概要

①実施プログラム

10:00	**集合**
10:10～ 10:50	**貸し切りバスにて氷見へ** 【車内にて】 最近の氷見の観光振興の取り組みについて説明。 （氷見市商工観光課・薮田）
10:50～ 12:40	**氷見市内視察（フィールドワーク）** **着地型観光として商品化が進められている「氷見ゆったりまちなか巡り」を体験。**
12:40～ 13:30	**貸し切りバスにて高岡へ（雨晴海岸経由）** 【車内にて】 最近の高岡の取り組みについて説明。 （高岡市観光戦略室長・蒲田）
13:30～ 14:50	**高岡市内視察（フィールドワーク）** ボランティアアガイドによる山町、金屋町散策を体験。
15:00～ 17：00	**地域づくり研究会会議（会場：高岡商工会議所）** ●データ分析 ●ディスカッション 論点　①新幹線延伸までに､各地で魅力的な着地型観光プログラムを用意していくために必要な取り組み（本日の視察をふまえ） ②各キーマンが観光振興を進めていく際で抱えている課題等（意見交換） ③その他、行政機関と市民が一体となった観光まちづくり

②氷見市視察の様子

氷見市より最近の取り組みについてプレゼンテーション

観光ボランティア「つままの会」による「氷見ゆったりまちなかめぐり」を体験視察

「氷見市潮騒ギャラリー」氷見出身の藤子不二雄Ａ氏の漫画展が開催

藤子不二雄Ａ氏ゆかりの光禅寺の見学

カラクリ時計の見学

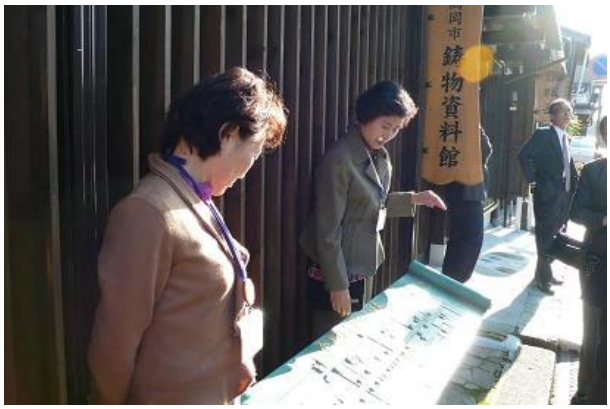
氷見漁港内にある「海寶」にて昼食

③高岡市視察の様子

高岡市より最近の取り組みについてプレゼンテーション

山町を観光ボランティア「あいの風」に案内いただき散策

山町にある町家を改装したギャラリーを見学



金屋町の観光ボランティア「町なみを考える藤グループ」に案内をいただき散策

金屋町の様子

金屋町の町屋を改装したギャラリーを見学。建物の特徴もよく分かる。

④基礎データ分析（抜粋）

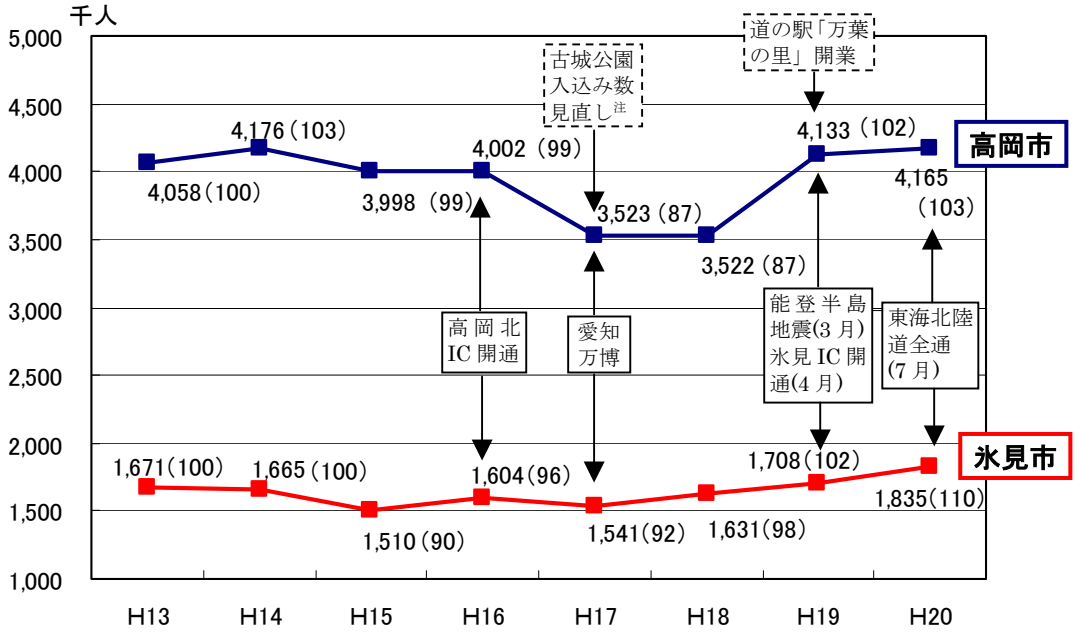
１）観光客数の推移

(a)地域の入込み

・平成 20 年の入込み客数は、高岡市は約 417 万人、氷見市は約 184 万人である。

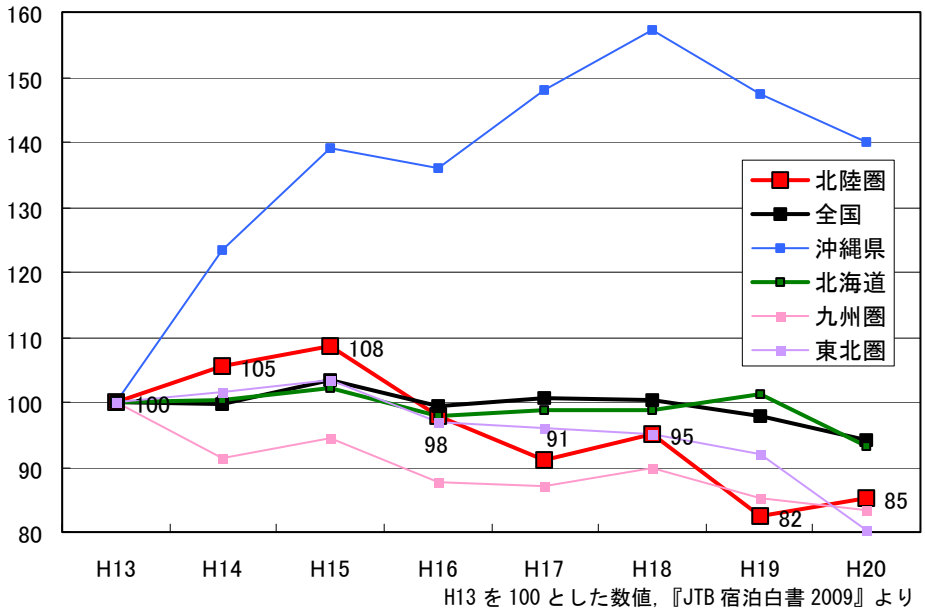
・平成 13 年を 100 とした平成 20 年の入込み客数は、北陸圏全体が 85 と落ち込んでいるが、**高岡市は 103 と横ばい、氷見市は 110 と増加**傾向がみられる。

・特に平成 19 年度以降は、能登半島地震があったものの、**能越自動車道の延伸や、東海北陸道の全通など交通インフラの整備効果が要因**の一つと考えられる。



出所：富山県観光・地域振興局観光課
注：古城公園の入込み客数の算出方法をより実態に合うように精査

図　氷見・高岡の入込み客数の推移



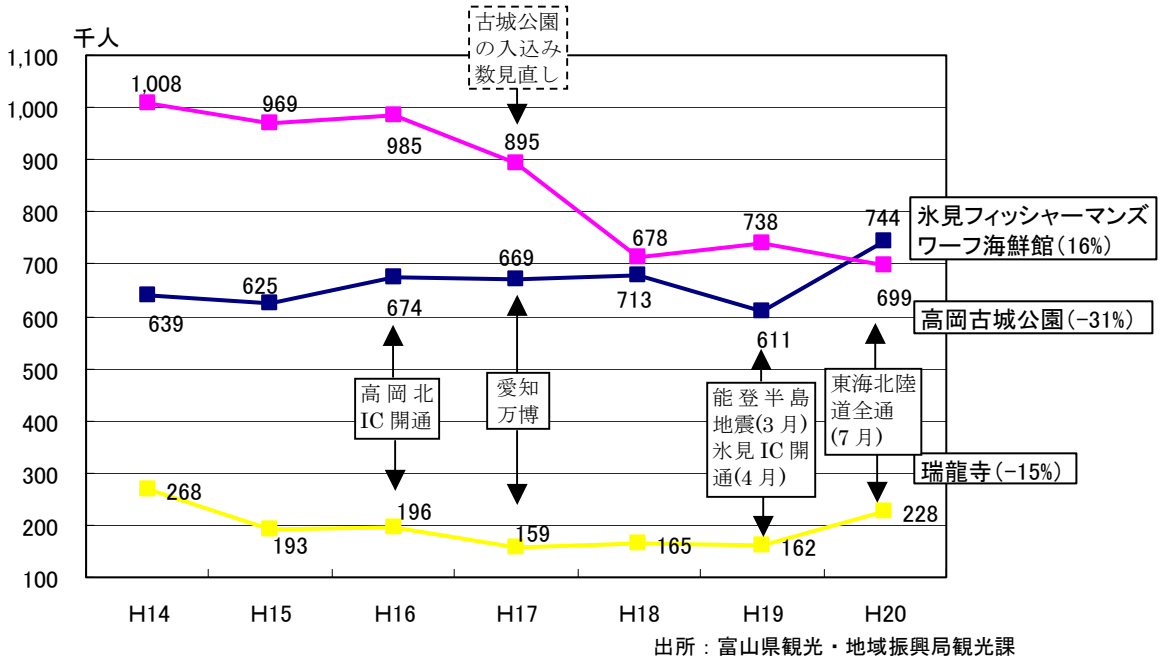
H13 を 100 とした数値，『JTB 宿泊白書 2009』より

（参考）宿泊者数の推移（広域圏域比較）

(b)主要観光地の入込み

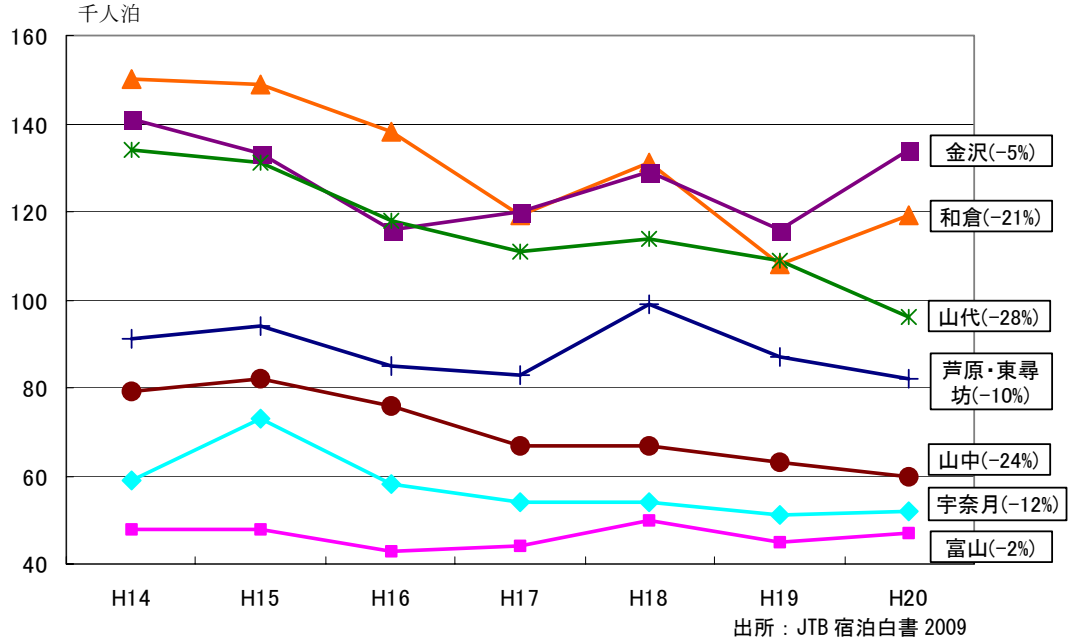
・平成 20 年の入込み客数をみると、氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館は約 74 万人、高岡古城公園は約 70 万人、瑞龍寺が約 23 万人である。

・入込み客数の変化をみると、北陸の主要観光地が軒並み減少しているなか、**氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館が増加傾向**にある。また**瑞龍寺はいったん落ち込みをみせたものの、平成 17 年以降再び増加**しており、それぞれの活性化の取り組みに加え、**東海北陸自動車道全線開通の効果も要因**として考えられる。



出所：富山県観光・地域振興局観光課

氷見・高岡の主要観光地入込み客数の推移



出所：JTB 宿泊白書 2009

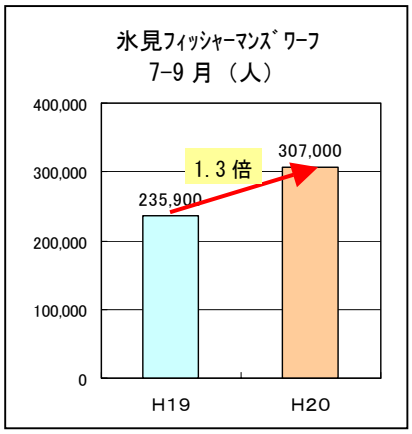
（参考）主要観光地　延べ宿泊人数の推移（除く学生団体）

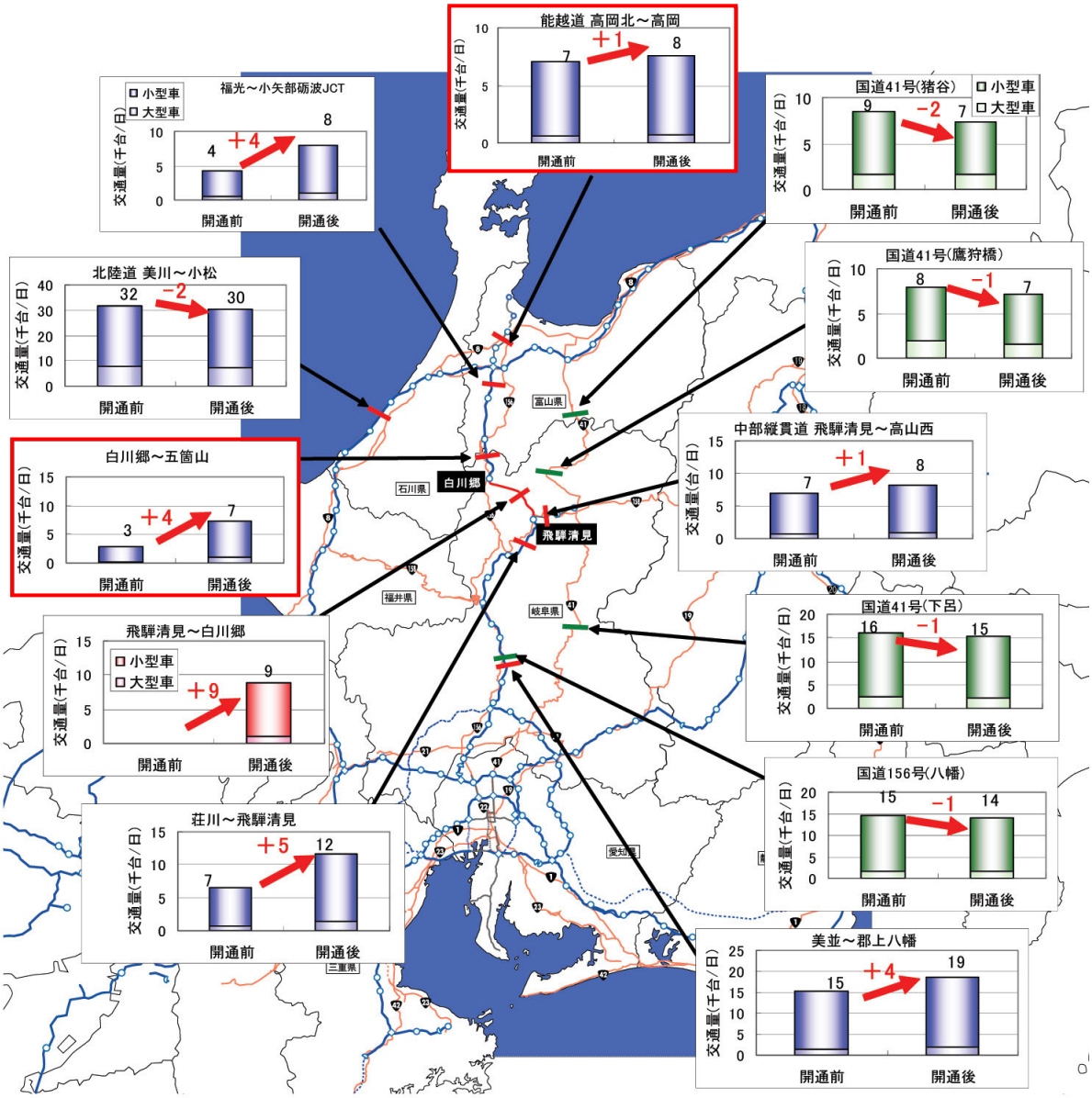
(c)東海北陸自動車道全線開通の効果

・東海北陸道（白川郷～五箇山）の交通量は、3 千台/日(開通前)から 7 千台/日(開通後)へと、**全線開通により 2 倍強になっており、東海地方と北陸地方の流動が増加**している。

・能越道（高岡北～高岡）の交通量は 7 千台/日(開通前)から 8 千台/日(開通後)へと、**1 日あたり 1 千台**の増加である。

・氷見フィッシャーマンズワーフでは、入込み客数が前年同時期と比べ**1.3 倍**になり効果が現れている。





出所：中日本高速株式会社発表の東海北陸道全通の整備効果

図　東海北陸自動車道及び周辺道路の交通量

(d)ボランティアガイド

・高岡市はボランティアガイドの団体数、ガイド人数が多く、**年間あたり約 8 万人の案内を行っており、**金沢市との比較でも案内人数、入込み客数あたりの案内人数ともに多く、**ボランティアガイドが観光の大きな力になっている。**

・氷見市は 1 団体 25 名であり、年間あたり約 1,200 人の案内を行っている。

表　高岡市・氷見市のボランティアガイド

	団体数	ガイド人数（人）	案内件数（件）	案内人数（人）	案内人数÷入込み客数
高岡市	5	97	3,734 （631）	79,411 （25,781）	1.9%
氷見市	1	25	37	1,231	0.1%
金沢市（参考）	3	約 290 注		約 36,500 注	0.5%注

資料：高岡市のデータは高岡市商業観光課，（　）の数値は観光協会の紹介
　　氷見市のデータは氷見市商工観光課
注：金沢市のガイド人数、案内人数はボランティアガイド「まいどさん」の数値
　　他二団体は、兼六園・金沢城公園専門の団体と、外国人専門のため含めていない

２）高岡・氷見のポジション

(a)北陸三県における訪問率からみたポジション

・三大都市圏の居住者が北陸に観光旅行した際の訪問率注をみると、**高岡市は 3.5%、氷見市は 4.3%**である。

・集客力の高い金沢（40.7%）、あわら温泉・東尋坊（17.7%）、加賀温泉（16.4%）と比較すると**訪問率が低く、金沢（あるいは和倉温泉・七尾）との近接性を活かした**集客向上が望まれる。

注）訪問率は、対象となる旅行でその地域を訪れた回答者数を、全体の回答者数で割っている。

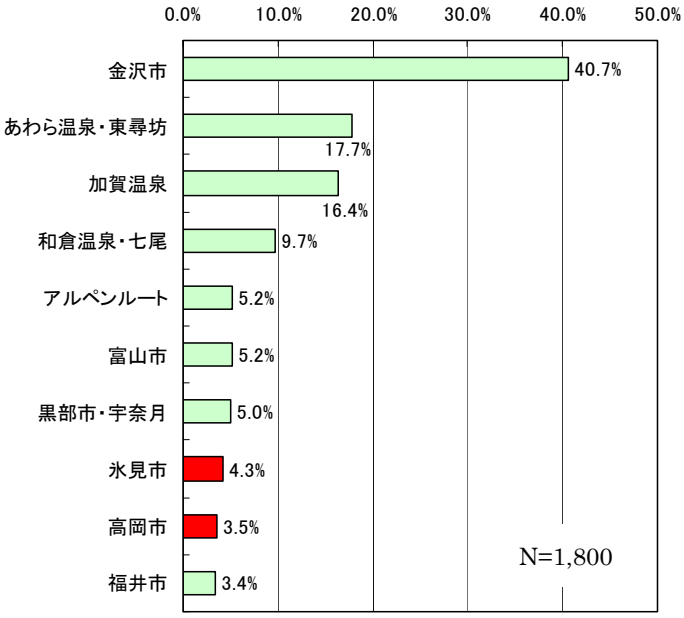


図　三大都市圏居住者の北陸への旅行における訪問率
資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート※

(b)北陸三県における宿泊率からみたポジション

■宿泊率（三大都市圏居住者）

・三大都市圏の居住者が北陸に観光旅行した際の宿泊率注をみると、**高岡市は 0.8%、氷見市は 1.8%**である。

・集客力の高い金沢（15.3%）、加賀温泉（14.0%）、あわら温泉・東尋坊（7.3%）と比較すると**宿泊地としてあまり選ばれていない**.

・また、**来訪者の宿泊率をみると、氷見市は 4 割を越えており高い**が、高岡市は 24%である。

注）宿泊率は、対象となる旅行でその地域で宿泊した回答者数を、全体の回答者数で割っている。

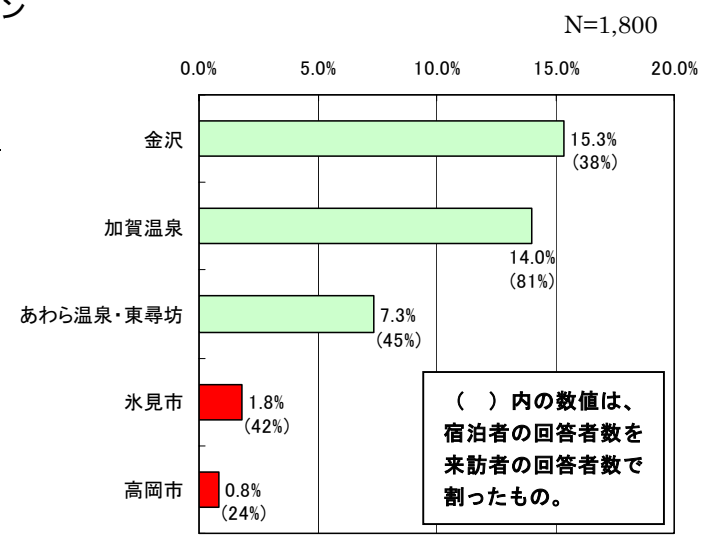


図　三大都市圏居住者の北陸への旅行における宿泊率
資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

注：インターネットアンケート，首都圏・中京圏・関西圏毎に 600 サンプル，2008 年 2 月実施
2006 年以降に北陸三県を観光旅行したことがある日本人を対象に、北陸を訪れた観光旅行のうち最も新しい旅行に対する内容を聞いている

■高岡市・氷見市の宿泊収容人員

・高岡市はホテルの収容人員が約 1,500 人であり、民宿は少ない。氷見市は民宿が 54 軒、収容人員が 2,135 人と多い点が特徴である。

表　高岡市・氷見市の宿泊収容人員

	高岡市		氷見市		合計	
区分	軒数	収容人員	軒数	収容人員	軒数	収容人員
ホ テ ル	10	1,502	10	447	20	1,949
旅　　館	21	905	11	1,040	32	1,945
民　　宿	7	151	54	2,135	61	2,286
その他(公的施設)	4	350			4	350
合　　計	42	2,908	75	3,622	117	6,530

注：平成 20 年　　資料：高岡市商業観光課、氷見市商工観光課

■高岡市・氷見市の宿泊者数

・高岡市の宿泊者数は約 28 万人、氷見市の宿泊者数は約 26 万人であり、富山県の宿泊者に占める割合は 5.5%前後である。

・高岡市では、三大都市圏の観光客の宿泊率が低いことからも、ビジネス客の宿泊需要があり、氷見市とほぼ同様の宿泊者数になっていると考えられる。

表　高岡市・氷見市の宿泊者数

	宿泊者数(H20)	富山県の宿泊者に占める割合	収容人員あたり稼働率
高岡市	278,418	5.6%	26.2%
氷見市	262,500	5.3%	19.9%

注：高岡市宿泊者数は平成 21 年 5 月記者発表資料（高岡駅周辺で 100 人以上収容できるホテル旅館のうち、協力いただけた 8 社の合計をもとに算出）
氷見市宿泊者数は、氷見市商工観光課データ（宿泊施設による実数報告）
富山県宿泊者数は「平成 20 年富山県観光客入込数（推計）」
収容人員あたりの稼働率は、宿泊者数÷（収容人員×365）で算出。

３）高岡・氷見への来訪者の特性（現在の顧客の構造）

(a)観光目的の流動（北陸からの入込みを除く）

・高岡地域（高岡市・氷見市・射水市・小矢部市）への休日の観光目的流動（人の流れ）をみると、**大阪、岐阜、東京、京都**が多い。これは平日も同様の傾向にある。

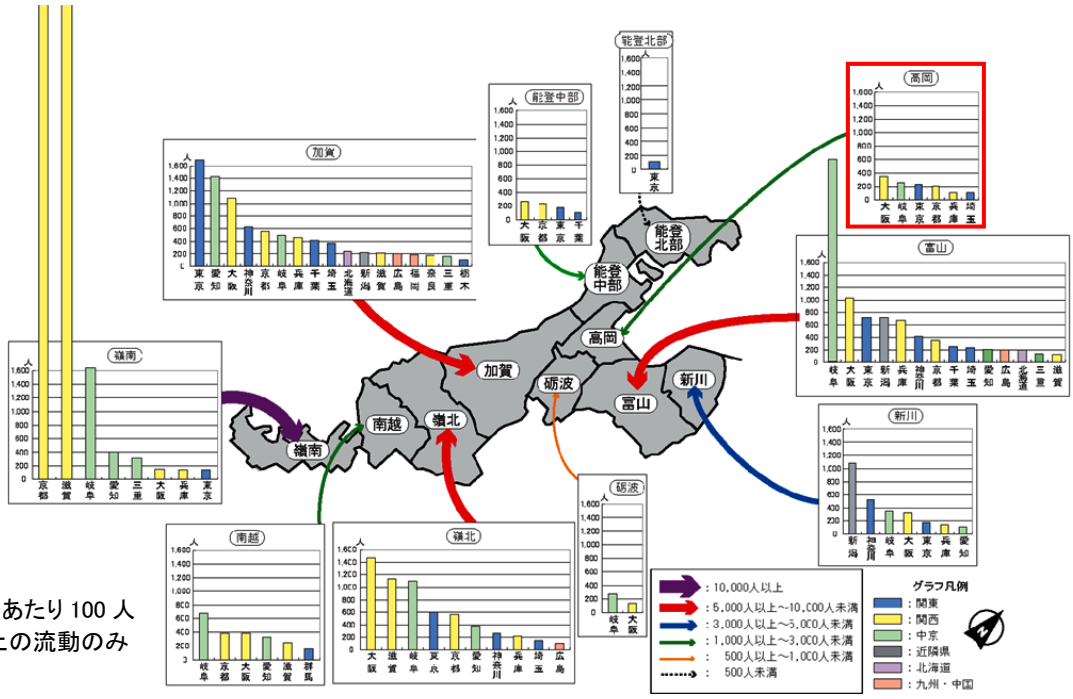


図　休日の北陸三県内の旅行目的地における発地（北陸三県外居住者）

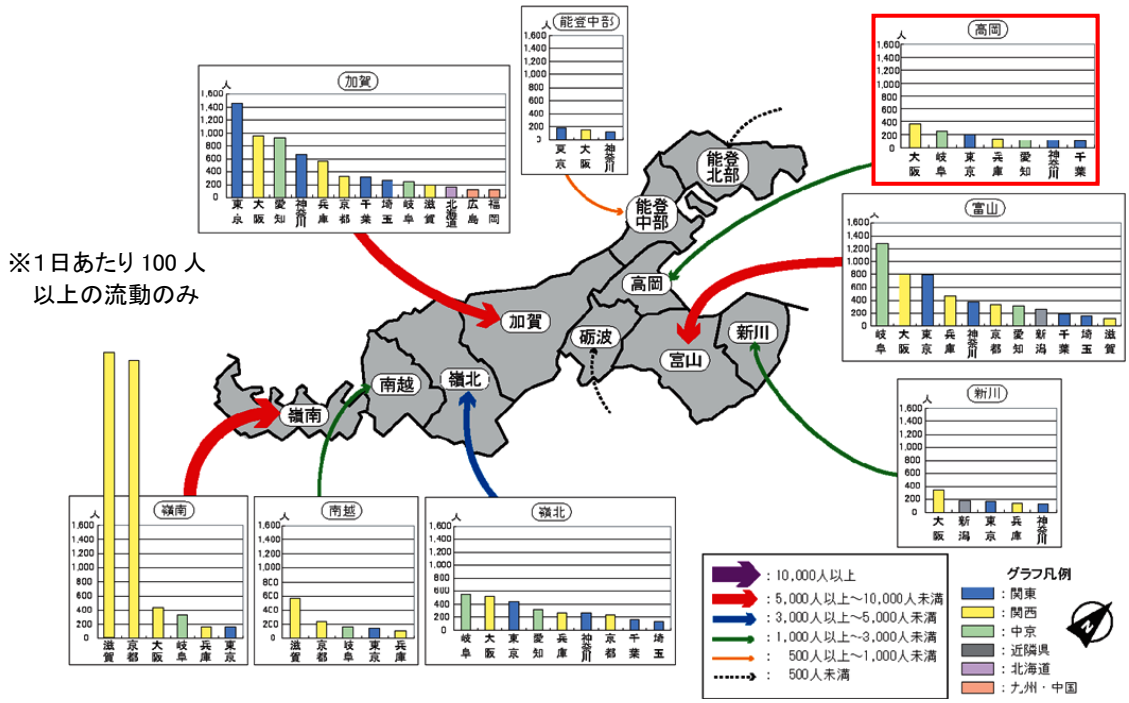


図　平日の北陸三県内の旅行目的地における発地（北陸三県外居住者）

出所　2005 全国幹線旅客純流動調査

(b)来訪者の年齢の特性

・高岡市の来訪者の年齢特性を全サンプルとの比較でみると、50 代・60 代以降の割合が高く、20 代・30 代の割合が低いことから、**中高年にシフトした年齢特性**である。
・氷見市の来訪者の年齢特性を全サンプルとの比較でみると、**30 代の割合が高く出ている**。

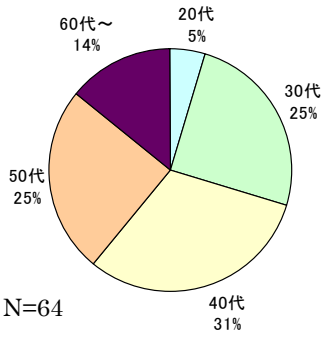


図　高岡の来訪者の年齢特性

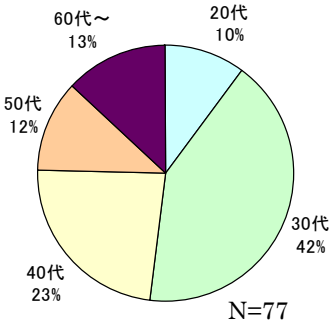
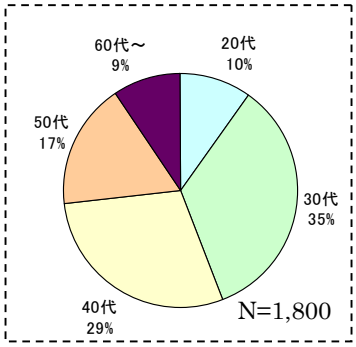


図　氷見の来訪者の年齢特性



（参考）全サンプルの年齢特性

(c)同伴者のタイプ

・高岡市の来訪者の同伴者タイプを全サンプルとの比較でみると、「ひとり旅」・「夫婦旅行」の割合が高い。年齢特性とあわせると、**「中高年」の「夫婦」・「ひとり旅」が多い**点が特性である。
・氷見市の来訪者の同伴者タイプを全サンプルとの比較でみると、「友人」の割合が高い。年齢特性とあわせると、**「30 代」の「友人旅行」**が多い点が特徴である。

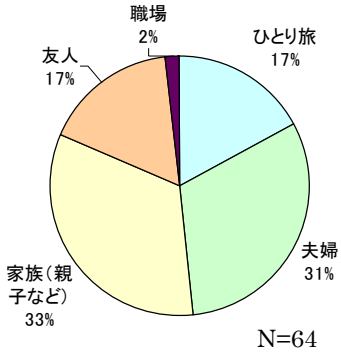


図　高岡の来訪者の同伴者のタイプ

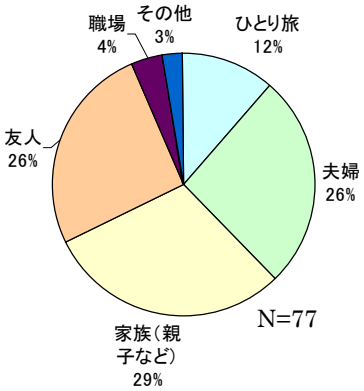
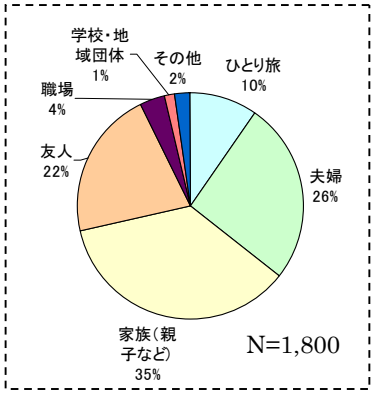


図　氷見の来訪者の同伴者のタイプ



（参考）全サンプルの同伴者のタイプ

資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート
三大都市圏の居住者へのインターネットアンケート調査の結果を用いているため、実際の来訪者の特性とは異なる。

(d)旅行タイプ

・高岡市の来訪者の旅行タイプを全サンプルとの比較でみると、**「旅行業者の関わらない個人旅行」の割合が高く、氷見市も同様**である。

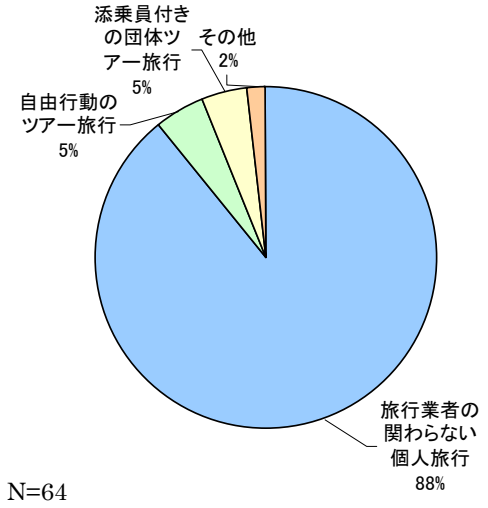


図　高岡の来訪者の旅行タイプ

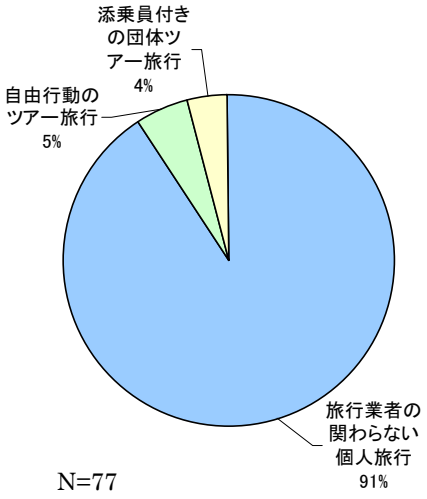
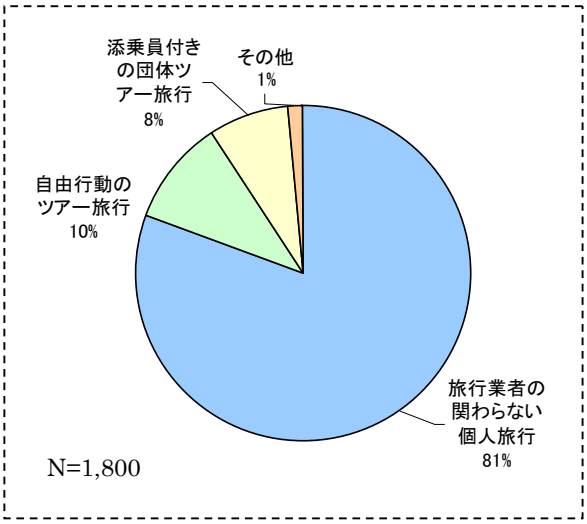


図　氷見の来訪者の旅行タイプ



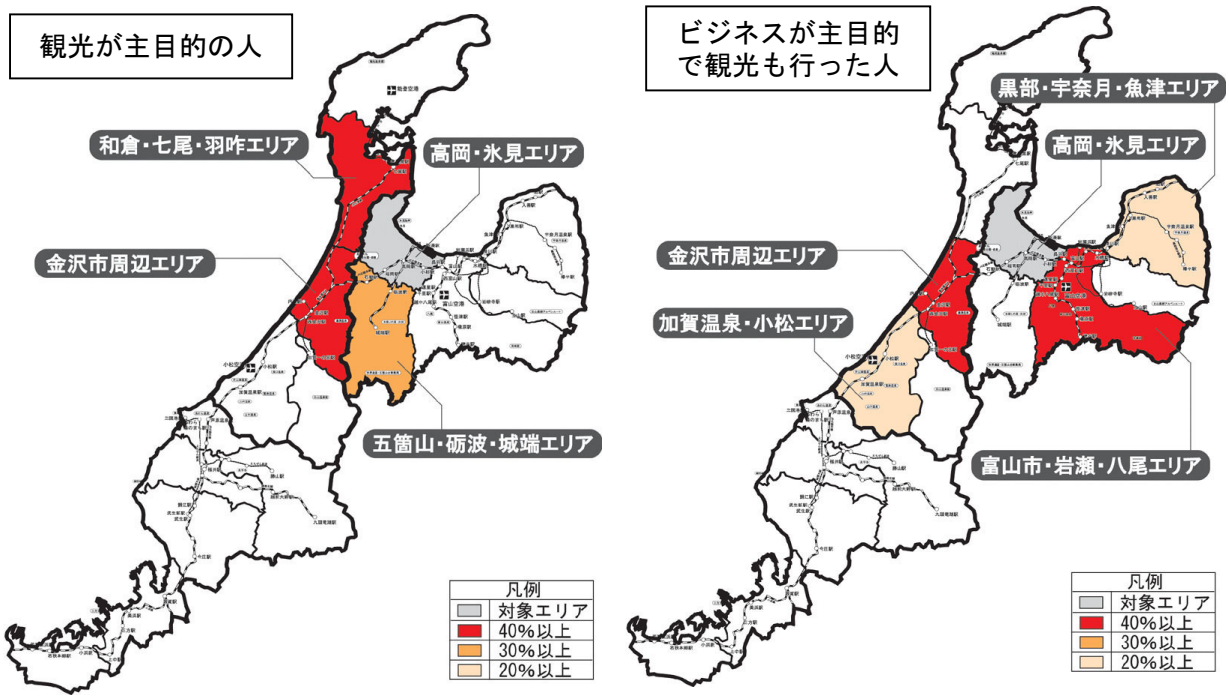
（参考）全サンプルの旅行タイプ

資料：平成 19 年度国土施策創発調査
国内旅行者アンケート
三大都市圏の居住者へのインターネットアンケート調査の結果を用いているため、実際の来訪者の特性とは異なる。

４）北陸圏内の周遊性

・北陸圏以外の居住者が北陸を訪れた際に、高岡・氷見エリアとあわせてどのエリアを訪れているかをみると、観光が目的の人は**「金沢周辺エリア」、「和倉・七尾・羽咋エリア」が 40%以上**であり高い周遊性を示している。また東海北陸道でつながっている「五箇山・砺波・城端エリア」が 30%以上である。

・ビジネスが主目的で観光も行った人の場合は、「富山・岩瀬・八尾エリア」、「金沢市周辺エリア」が 40%以上であり、**ビジネス拠点である富山県、石川県の県庁所在地との連携が強い**。また、「黒部・宇奈月・魚津エリア」、「加賀温泉、小松エリア」との周遊もみられ、ビジネス目的のほうが広域に移動する特性がみられる。



資料：平成 20 年度国土施策創発調査
北陸における移動・旅行に関するアンケート

図　高岡・氷見エリアを訪れた人の他のエリアの周遊率（北陸圏以外の居住者）

注：主要交通結節点でアンケートを配布　調査日平成 20 年 11 月 16 日（日）、20 日（木）
配布数 25,526　（回収：北陸圏外の居住者 1,570、北陸圏内の居住者 2,237）

５）認知度

(a)市区ブランドランキング

・2008 年のブランドランキングをみると**氷見市が 154 位、で 2006 年の 183 位からやや上昇**している。ランキングが近い都市は、**甲賀市、瀬戸内市、米子市、盛岡市**など知名度がある都市が並んでいる。

・**高岡市は 369 位であり、2006 年の 265 位から順位を大きく下げ**ている。地域資源や歴史の豊かさがブランドにつながっていない。

表　400 以内の北陸圏の地域

2008順位	地域名	2006順位
9	金沢市	11
26	輪島市	50
34	加賀市	68
76	富山市	124
89	黒部市	104
130	越前市	219
137	福井市	369
154	氷見市	183
191	魚津市	152
214	小浜市	477
218	敦賀市	265
246	七尾市	276
250	鯖江市	331
320	小松市	265
353	あわら市	380
358	勝山市	510
369	高岡市	265
394	珠洲市	349
394	羽咋市	359

地域ブランド戦略サーベイ

・株式会社日経リサーチ「地域ブランド戦略サーベイ」より引用

・独自性、愛着度、購入意向、訪問意向、居住意向から算出した総合指標を用い、地域をランキングしている。

※全国 802 の市区を対象とする。

表　氷見市のランキング周辺地域

2008順位	地域名	2006順位
149	甲賀市	215
150	瀬戸内市	189
150	御殿場市	101
152	鳥羽市	179
152	南魚沼市	195
154	氷見市	183
154	米子市	213
154	盛岡市	63
157	日南市	183
157	苫小牧市	112
157	富士宮市	240

表　高岡市のランキング周辺地域

2008順位	地域名	2006順位
358	米原市	477
358	岸和田市	419
358	高梁市	358
358	三次市	459
358	大野城市	446
358	栗原市	614
358	伊達市(北海道)	456
358	上山市	531
358	三沢市	614
358	勝山市	510
358	韮崎市	380
369	高岡市	265
369	伊丹市	192
369	洲本市	308
369	府中市(広島県)	319
369	八幡浜市	310
369	鹿島市	377

(b)特産品ブランドランキング（北陸内のポジション）

・水産部門で**氷見ぶりが 41 位**に、郷土料理部門で**氷見うどんが 80 位**に入っており、氷見では食が魅力のひとつになっているといえる。

表　野菜部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
46	加賀野菜	石川県	32
55	加賀太きゅうり	石川県	37
61	能登大納言	石川県	―
69	福井産ハナエチゼン	福井県	―
70	黒部米	富山県	―

表　果物部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
38	入善ジャンボ西瓜	富山県	―

表　水産部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
6	越前がに	福井県	9
41	氷見ぶり	富山県	39
46	若狭かれい	福井県	41

表　畜産部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
56	能登牛	石川県	―

表　菓子部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
19	羽二重餅	福井県	―

表　郷土料理部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
13	富山ます寿し	富山県	11
54	若狭浜焼き鯖	福井県	34
72	福井ソースカツ丼	福井県	44
74	越前おろしそば	福井県	42
75	三國バーガー	福井県	―
80	氷見うどん	富山県	51

地域ブランド戦略サーベイ

・株式会社日経リサーチ「地域ブランド戦略サーベイ」より引用。

・独独自性、愛着度、プレミアム、推奨意向から算出した総合指標算出した総合指標を用い、地域をランキングしている。

６）今後の期待度

(a)北陸新幹線金沢延伸の効果

・首都圏からの効果は、**高岡で約１時間の短縮**である。
・特に長野―北陸間の時間短縮効果は大きく、**高岡－長野間は延伸後 1 時間でアクセス可能**となり、2 時間以上の時間短縮効果を見込むことができる。
・関西圏－長野は、現在東海道新幹線経由であるが、金沢延伸後は北陸本線（サンダーバード）→金沢乗換→北陸新幹線ルートに変り、**北陸と長野が一つの周遊圏となる。それにより関西圏から北陸・長野周遊、首都圏から長野・北陸周遊**が新しく生まれる可能性がある。
・北陸内の時間短縮効果も大きく、三県の一体性が高まる。
・一方時間短縮により、特にビジネス客においては、**東京～北陸が日帰り圏内となり北陸での宿泊数は減少**する恐れがある。

表　北陸新幹線金沢延伸による時間短縮効果

	区間	現状	新幹線延伸後	短縮効果
首都圏より	富山－東京間	約 3 時間 10 分	約 2 時間 10 分	約 60 分
	高岡－東京間	約 3 時間 30 分	約 2 時間 20 分注	約 70 分
	金沢―東京間	約 3 時間 50 分	約 2 時間 30 分	約 80 分
長野より	富山―長野間	約 2 時間 50 分	約 45 分	約 2 時間 05 分
	高岡―長野間	約 3 時間 00 分	約 55 分注	約 2 時間 05 分
	金沢―長野間	約 3 時間 25 分	約 60 分	約 2 時間 25 分
関西圏～長野	大阪―長野	約 4 時間 40 分 東海道新幹線経由	約 3 時間 30 分 北陸本線経由	約 1 時間 10 分
高岡～氷見	高岡―氷見	約 30 分	約 35 分	
北陸内	金沢―富山	約 40 分	約 15 分	約 25 分
	金沢―高岡	約 25 分	約 10 分	約 15 分
	金沢―黒部	約 1 時間 5 分	約 25 分	約 40 分

出所：北陸新幹線建設促進同盟会資料より

注：新幹線延伸後の高岡までの時間は、富山市までの所要時間に 10 分を加え算出している。

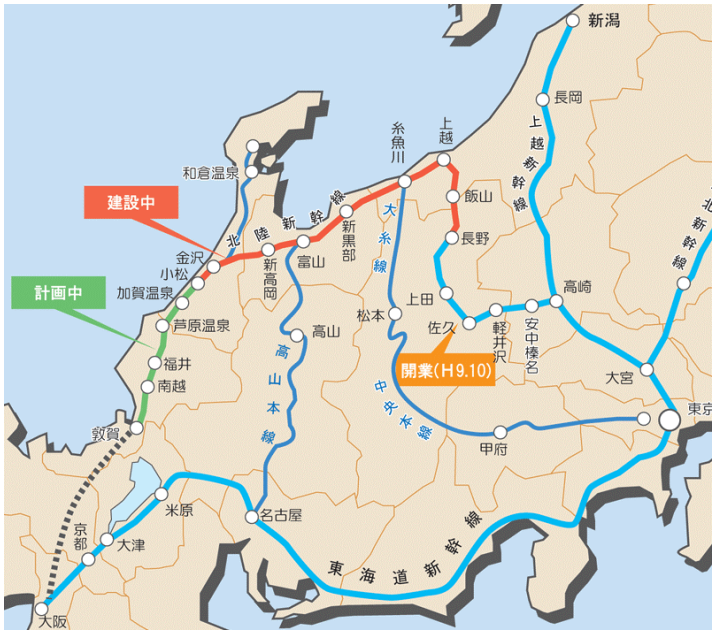
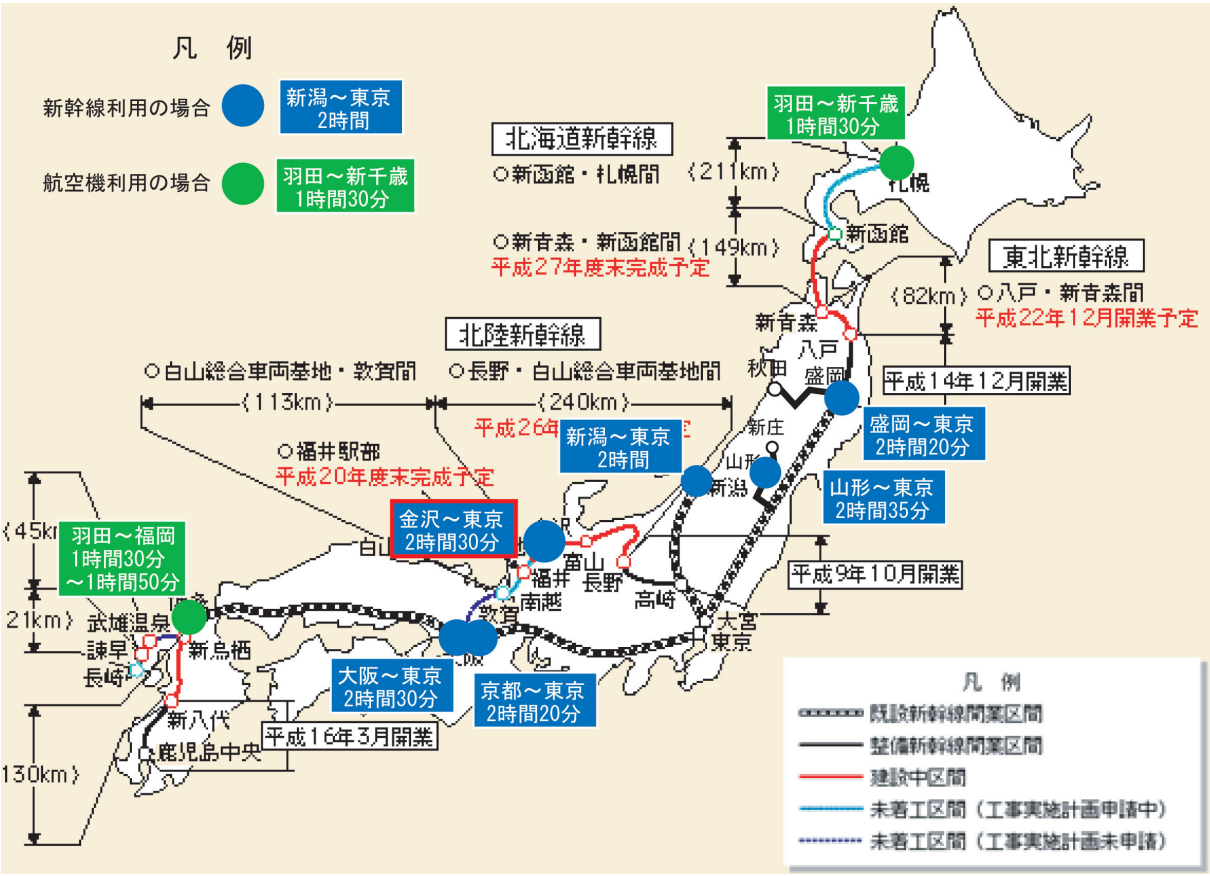


図　北陸新幹線の整備状況

(b)首都圏から他地域へのアクセス状況（競合）

・首都圏から 2 時間 30 分でアクセス可能な地域をみると、東北新幹線では**盛岡（2 時間 20 分）**、山形新幹線では**山形（2 時間 35 分）**、上越新幹線では**新潟（2 時間）**、東海道新幹線では**京都（2 時間 20 分）、大阪（2 時間 30 分）**であり、金沢延伸後の金沢・富山と時間距離が同様な**競合地域が多い**。

・また航空機利用では、**札幌・小樽**（羽田～新千歳，1 時間 30 分）、**福岡・博多**（羽田～福岡，1 時間 30 分～1 時間 50 分）があり、首都圏から 1 泊 2 日、2 泊 3 日の旅行先として、多くの有力地が並んでおり、新幹線延伸だけでは交流人口増加は限定的になる可能性が高い。



『国土国通白書 2009』を一部加工

図 首都圏から他地域へのアクセス

(c)今後訪れてみたい地域（三大都市圏）

・今後訪れてみたい地域として、**立山黒部アルペンルートと黒部峡谷・トロッコ列車が半数以上**の人に選ばれている。

・氷見温泉**・氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館が約 12%、瑞龍寺が約 6%、金屋・土蔵造りの町並みが約 4%**である。首都圏に限定した場合でも同様の傾向にある。

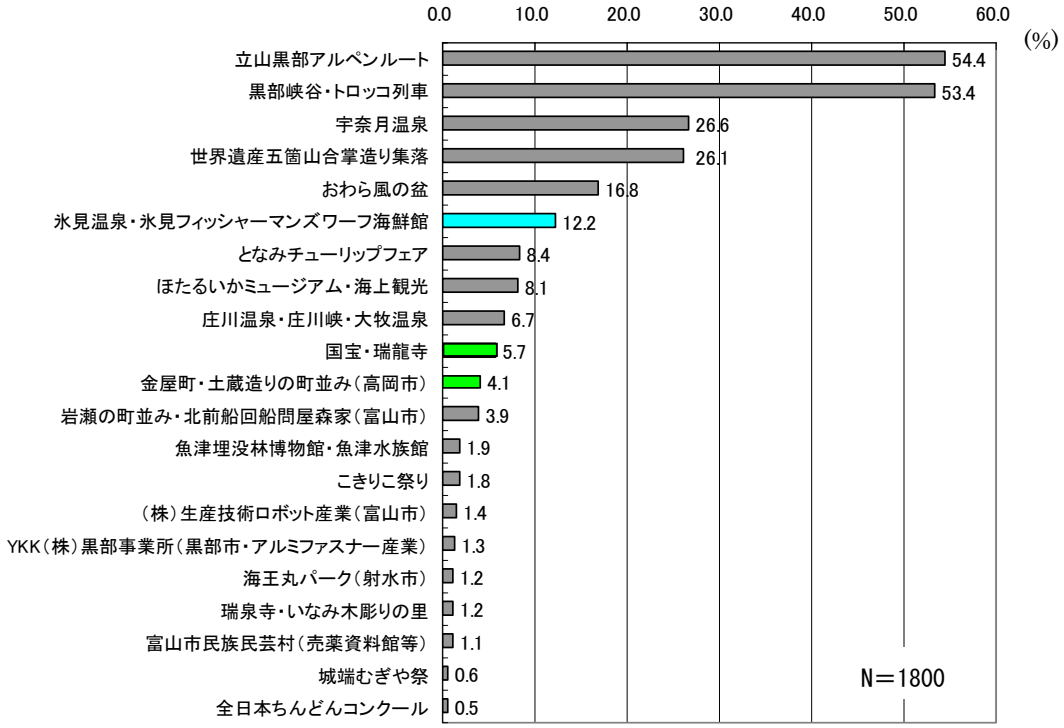


図　今後訪れてみたい地域（全体）

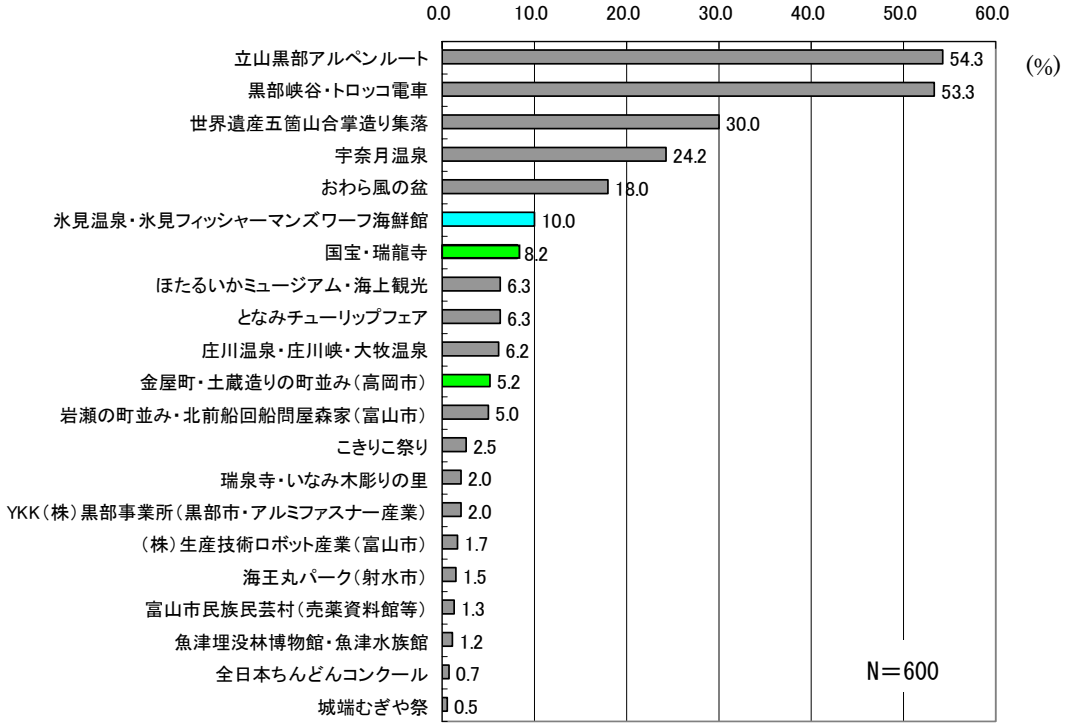


図　今後訪れてみたい地域（首都圏）

資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

(d)新幹線延伸後訪れてみたい地域（三大都市圏）

・新幹線延伸後訪れてみたい地域は、金沢市を挙げる人が多い。

・三大都市圏のマーケットにおいて、**氷見市、高岡市ともに訪問意向は低い。**

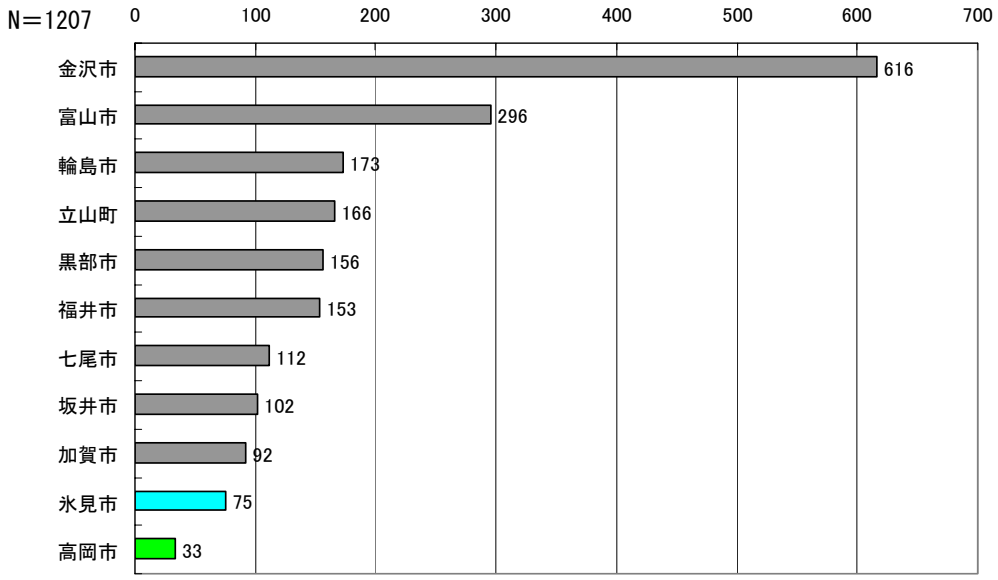


図　新幹線開通後訪れてみたい地域（全体）

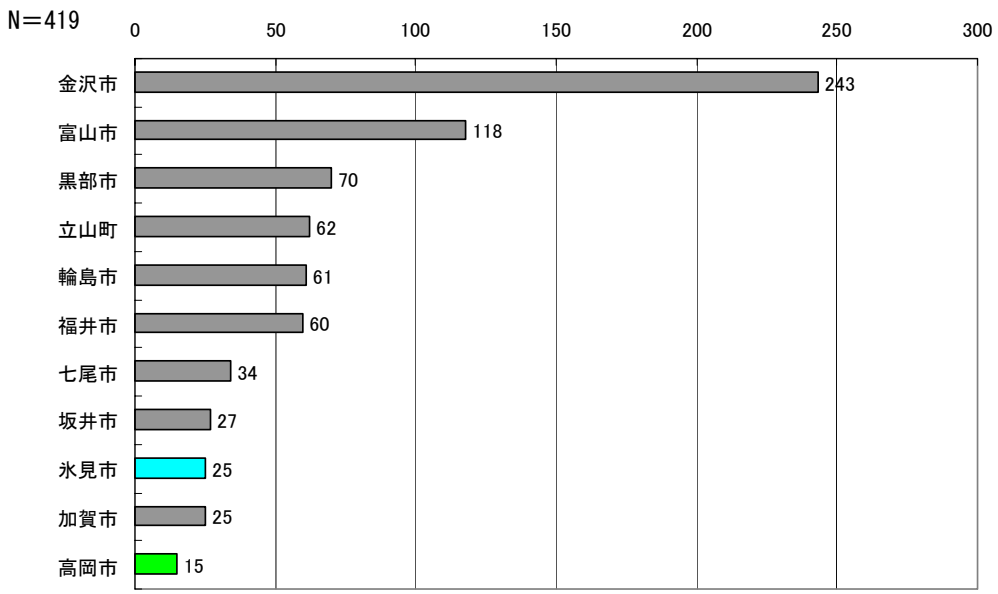


図　新幹線開通後訪れてみたい地域（首都圏）

資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

(e)新幹線開通後宿泊してみたい地域（三大都市圏）

・新幹線開通後宿泊してみたい地域として、金沢市（222)、富山市（143)、七尾市（133）が主に選ばれており、県庁所在地または温泉地である。**氷見市や高岡市は宿泊地としての認知度が低い。**

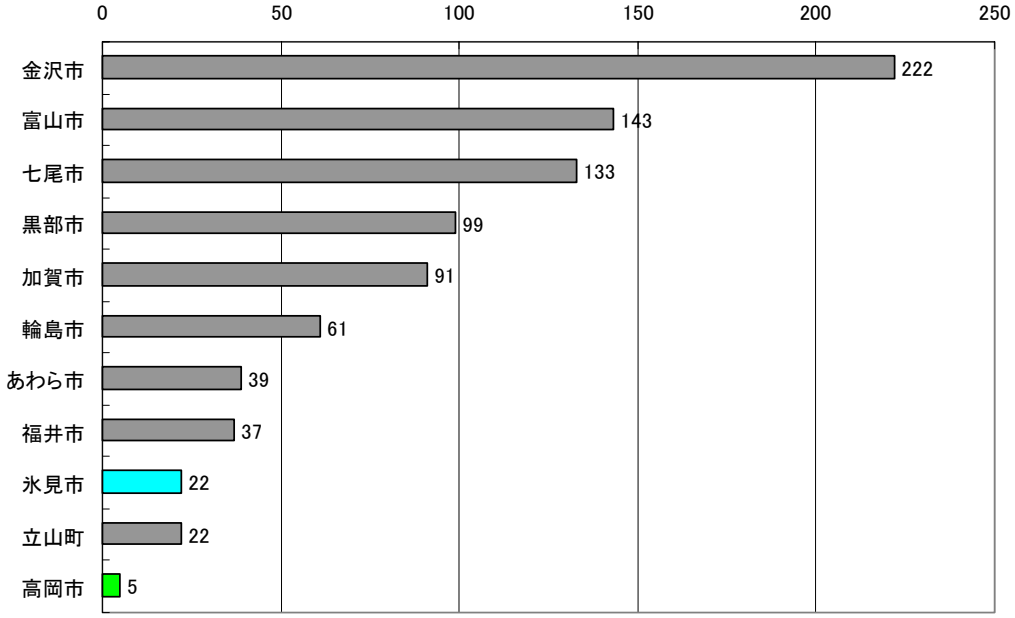


図　新幹線開通後宿泊してみたい地域（全体）

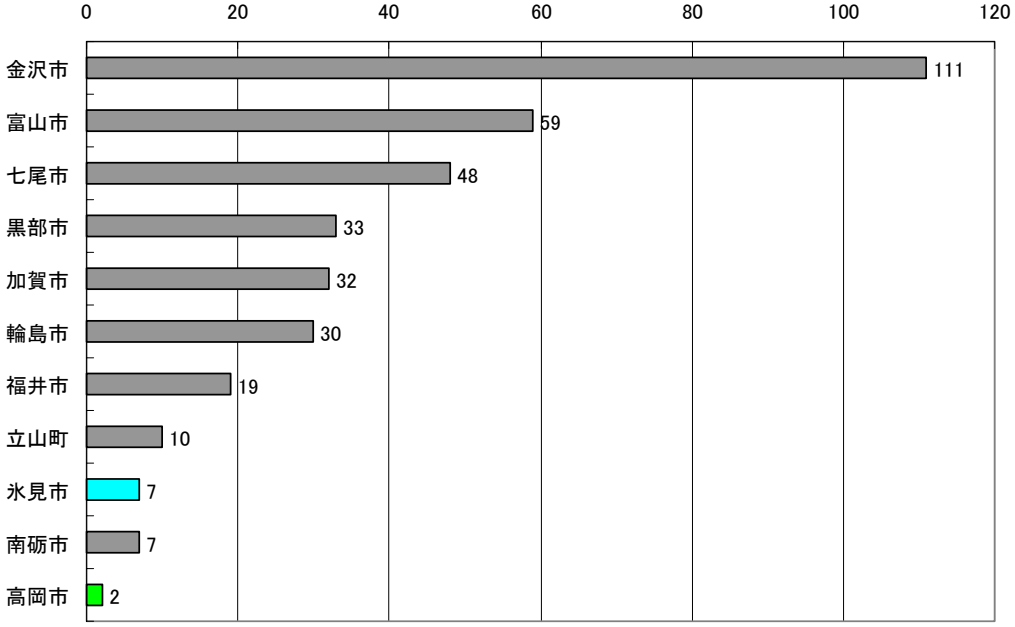


図　新幹線開通後宿泊してみたい地域（首都圏）

⑤ディスカッション結果（まとめ）

論点･テーマ	意見・課題	今後の方策・アイデア
魅力的な着地型プログラムを用意するための取り組み	高岡、氷見ともに着々と進んでいるのではないか。	
	まち歩き、着地型ともに何度もやっていると**マンネリ化**する。	⇒個別の地域だけでブラッシュアップは困難。**他地域の力も借りた定期的な点検**が必要。
	人の確保が難しい。雇用まではなかなか出来ない。	⇒七尾では**旅館の人とかお店の人とか、お客さんが増えるとメリットがある人を集めてガイド**してもらっている。一人のスーパーマンが中心にいるよりもネットワーク型でないと難しい。
	無料であったり有料であったり、申込み方法なども分かりにくい場合が多い。	⇒ＪＲとして着地型を進めてきて分かったことがある。**申込み締め切りが早すぎるとダメ**なこと、**料金と内容のミスマッチ**が多いこと、最初の情報発信をエージェントが行っても、次に**インターネットで検索して何も出てこなければダメな**ことである。
北陸の地域間連携	次はどんなところを紹介すればいいか。北陸のプログラムが集まったデータベースが欲しい。	⇒**お互いがお互いのプログラムを紹介**しあう、案内ネットワークが必要。
	ＪＲが二つの県をつないだ商品を作っても、お互いがお互いを知らないとうまくいかない。	
情報発信方法	**着地型観光の情報発信**はインターネットでもキャンペーンでも難しい。	⇒お客さんの**顧客情報を大切にしている。その人達に次のプログラムを紹介**することでリピーターの確保につながる。
	観光客が欲しいと思う情報が高度化しつつある。	⇒**特定のターゲットであれば、雑誌を絞り込んでＰＲ**すると効果が高い。
高岡・氷見の方向性	**氷見の食と高岡の文化をつなげれば魅力的**になる。ただし観光地としては未成熟でありこれからの取り組みが重要。	
	新高岡駅をハブとし、飛越能８６万人構想で、みがき・つなぐ・つくりこむが必要。	

（２）第２回地域づくり研究会（にいかわ地域）の結果概要

①実施プログラム

10:00	**集合**
10:00～ 11:40	**【バス車中説明】** **●観光圏３市２町の紹介：観光圏協議会事務局　武隈（３分）** **●入善町の紹介：入善町農水商工課　石塚（10 分）** **入善　杉沢の沢スギ見学**（国指定天然記念物・湧水帯の杉林、ボランティアガイド） **【バス車中説明】** **●深層水を活用したあわび養殖について（５分）** **深層水活用施設見学** **【バス車中説明】** **●朝日町の紹介：朝日町産業課　平坂（５分）**
11:40～ 12:30	**魚の駅「生地」　昼食＋見学**
12:30～ 14:20	**生地まち歩き**（ボランティアガイド） **ＹＫＫセンターパーク（13:15 頃～）** **【バス車中説明】** **●魚津市の紹介：魚津市商工観光課　政二（５分）**
14:30～ 17:00	**地域づくり研究会会議（会場：コラーレ）** **●データ分析** **●観光圏の取り組み説明：観光圏協議会事務局　柳田（黒部市商工観光課長）** **●ディスカッション** ①見学いただいた箇所の感想、観光拠点として今後どのような工夫が求められるのか。 ②富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏は何で売るべきか、どうすれば北陸内の周遊地として選ばれるのか。

②観光まちづくり視察の様子

観光圏および観光ボランティアの方から取り組みについてプレゼンテーション

湧水帯にある天然記念物「沢杉」の見学施設の説明を頂く

入善の深層水活用施設を訪ね説明を頂く

観光ボランティアが活躍し参加者が増えている「生地のまち歩き」

生地にたくさんある湧水「お清水」。場所によって味が違うことを確認。

ＹＫＫセンターパークにて産業観光を体験

③富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏の取り組み

■平成 21 年度の取り組み

●富山湾横断観光船　　天候不順で就航率２割（予約は 4000 人強）

●「市場で朝食」事業　　宿泊客に魚市場隣接の施設でとれたての魚貝を食べてもらう。

●越中おわら宇奈月とにいかわの郷土民謡・郷土芸能の夕べ

●産業観光モニターツアー　工場見学・伝統工芸のモニターツアー・着地型商品化をめざす。

●にいかわ案内人養成塾

■今後の取り組み

●「にいかわ」ならではの山・川・海体験型旅行商品の造成

●越中とやまのパタパタまつり　　にいかわの食を発信・ＰＲ

●観光圏ホームページの立ち上げ

●入善フラワーロードの共同展開

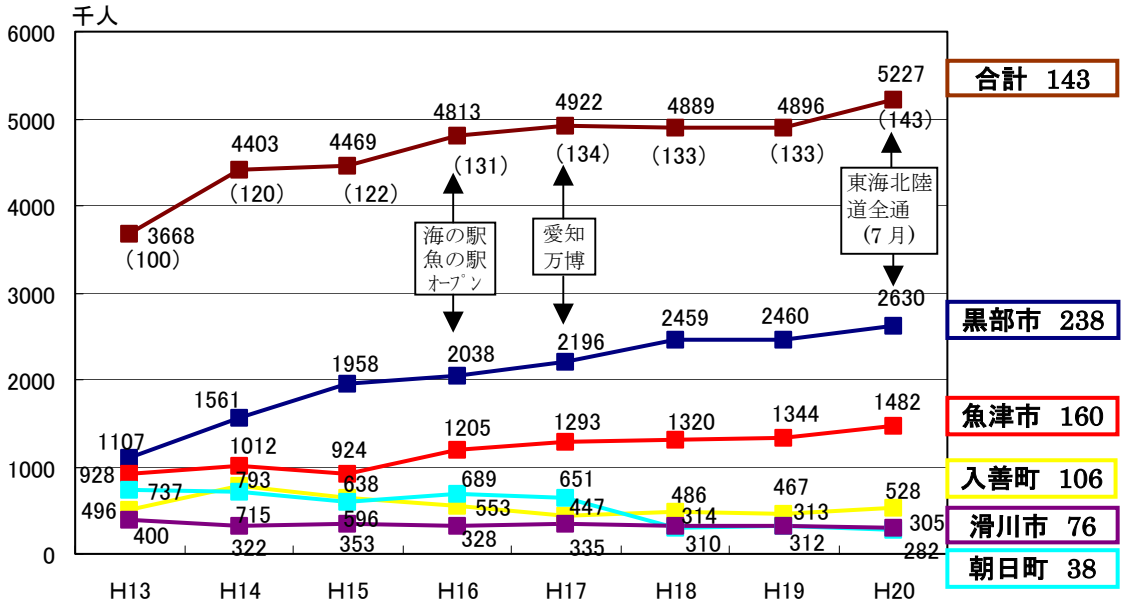
④基礎データ分析（抜粋）

１）観光客数の推移

(a)地域の入込み

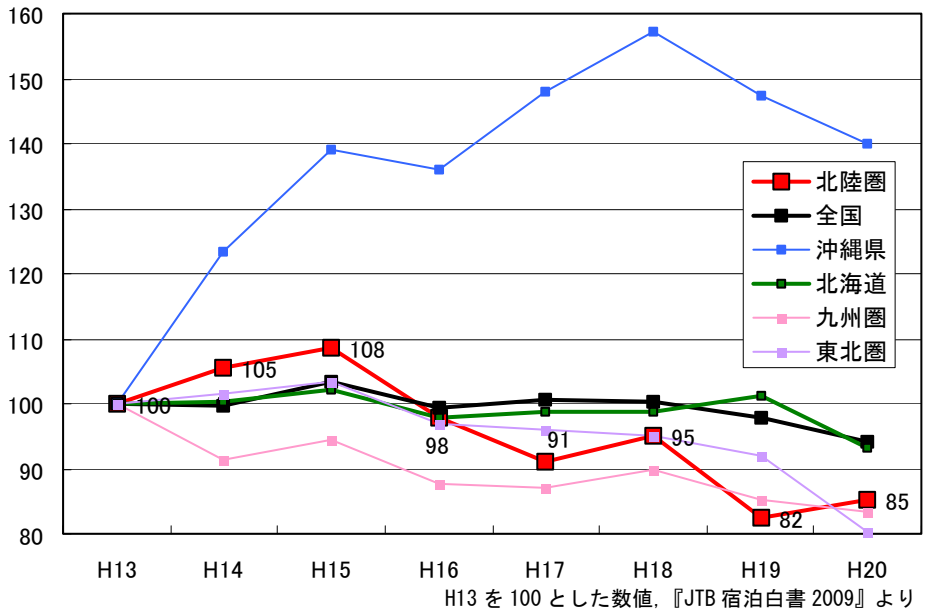
・平成 20 年のにいかわ地域の入込み客数は約 523 万人であり、黒部市が約 263 万人で最も多く、次いで魚津市が約 148 万人である。

・平成 13 年を 100 とした平成 20 年の入込み客数は、北陸圏全体が 85 と落ち込んでいる中、**にいかわ地域では、143 と増加傾向がみられる。**特に、黒部市は 238、魚津市は 160 と大きく増加しており、**平成 16 年の「海の駅蜃気楼（魚津）」、「魚の駅生地（黒部）」のオープン効果が発現**している。一方、滑川市は 76、朝日町は 38 と減少している。



出所：富山県観光・地域振興局観光課

図　にいかわ地域の入込み客数の推移



H13 を 100 とした数値，『JTB 宿泊白書 2009』より

（参考）宿泊者数の推移（広域圏域比較）

(b)主要観光地の入込み

・平成 19 年の主要観光地の入込みをみると、**「黒部峡谷鉄道」が約 45 万人と最も多く**、次いで地元向け温泉の「金太郎温泉（県内率 86%）」が 43 万人、**広域集客型温泉の「宇奈月温泉（県外率 71%）」が 41 万人**と続く。魚の施設である**「魚の駅生地」、「海の駅蜃気楼」はともに 20 万人強**の入込みである。

・広域集客の中心である「黒部峡谷鉄道」と「宇奈月温泉」の入込みの推移をみると、**黒部峡谷鉄道は、鐘釣橋の落石等の自然災害などもあり近年減少傾向**が続いたが、平成 20 年に**東海北陸道の全通もあり増加に転じている**。**宇奈月温泉も減少傾向が続いており**、近年温泉地が苦戦している中ではあるが、**平成 10 年から 2 割強の落ち込み**となっている。

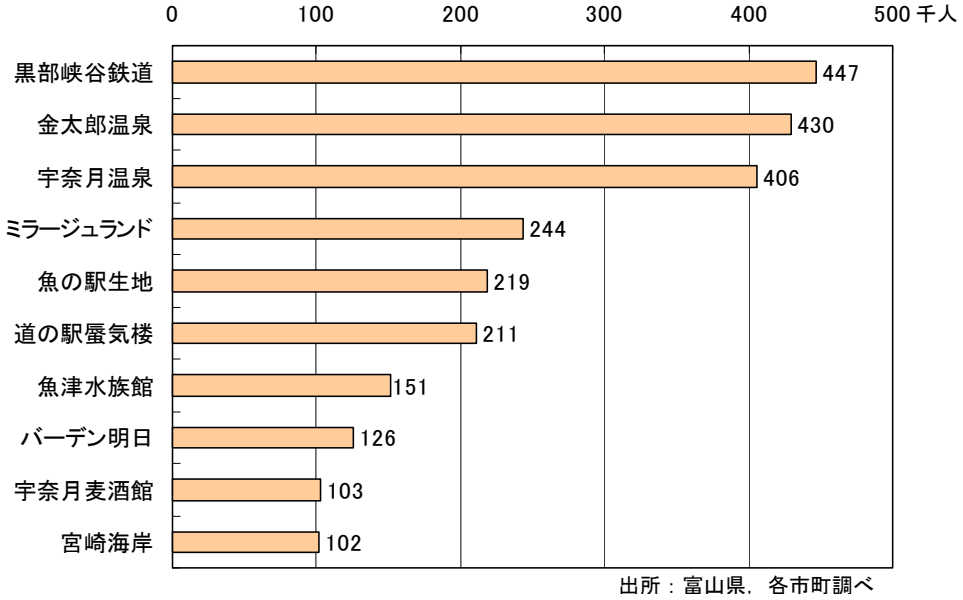


図　にいかわ地域の主要観光地入込み客数（H19）

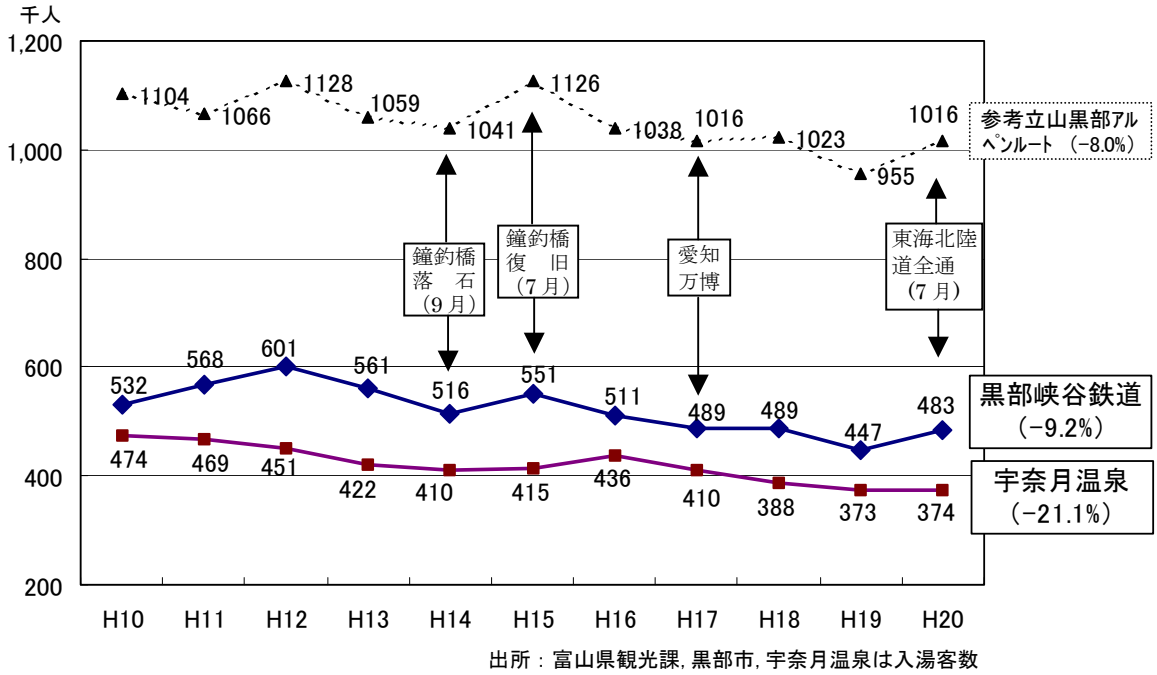
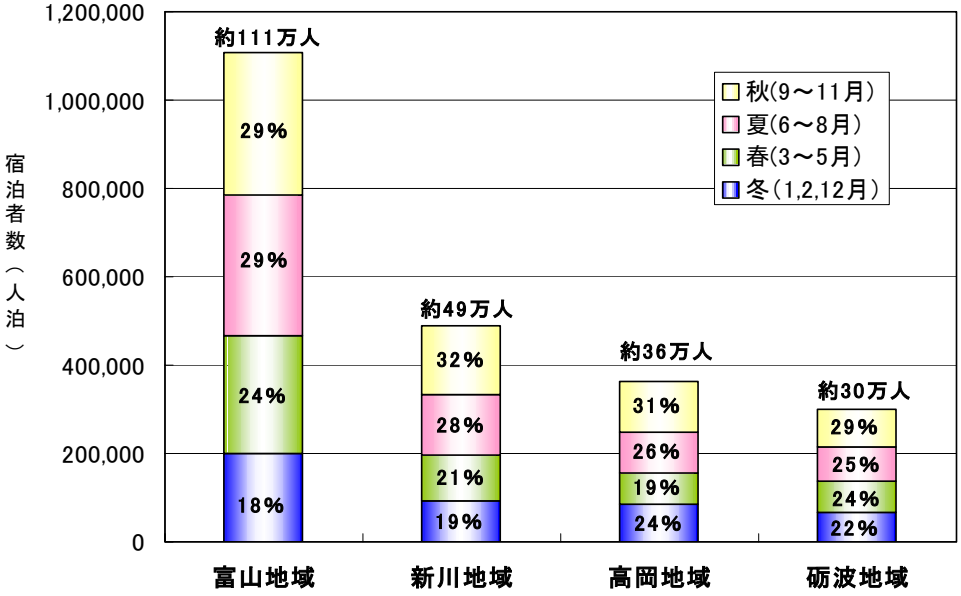


図　黒部峡谷鉄道・宇奈月温泉の入り込み客数の推移

(c)宿泊者数

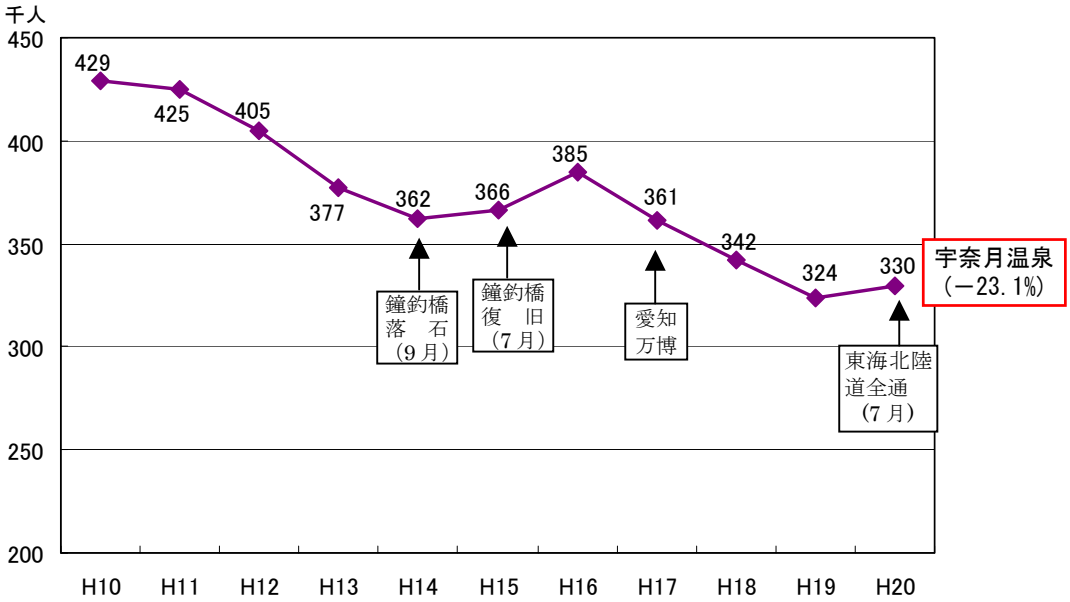
・平成 20 年の**新川地域の宿泊者数は約 49 万人**であり、富山県内の他地域と比較するとビジネス需要の多い富山地域の約半分であるが、高岡地域、砺波地域よりも多く、**県内第 2 位の宿泊地**である。

・宿泊地の中心である**宇奈月温泉の宿泊者数の推移**（H10～H20）をみると、減少傾向に歯止めがかからず **10 年間で 23%の減少**である。平成 20 年は東海北陸道全通の効果もあり、4 年ぶりに増加に転じている。



出所：富山県「地域別宿泊者数の動向（H20.1～12）」
データは国土交通省「平成 20 年宿泊旅行地統計調査」
（従業員数 10 人以上の宿泊施設を対象とした数値）

図　にいかわ地域の宿泊者数（H20）



出所：黒部市調べ

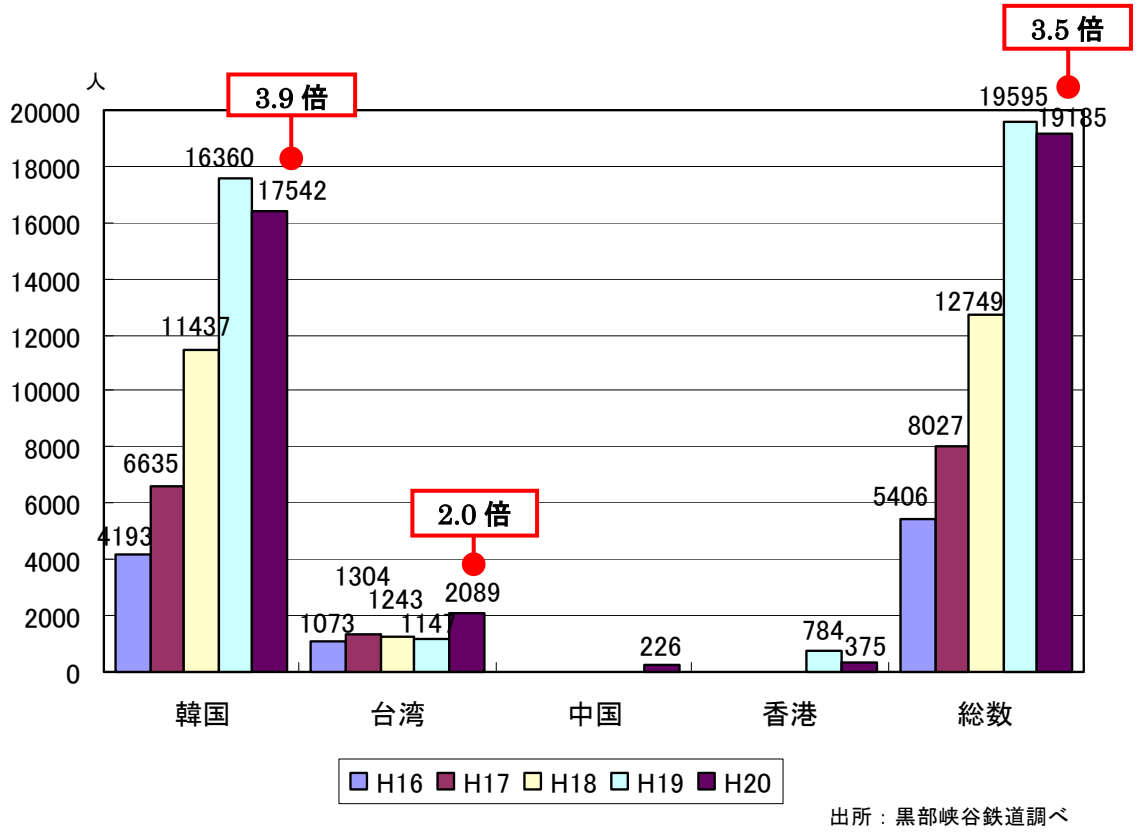
図　宇奈月温泉の宿泊者数の推移

(d)インバウンドの状況

・黒部峡谷鉄道の訪日団体観光客数は**平成 20 年で約１万９千人であり、平成 16 年から約 3.5 倍**に増加している。

・平成 19 年までは増加傾向が強かったが、平成 19 から平成 20 年はやや微減である。

・黒部峡谷鉄道では**韓国からの観光客が多く全体の９割強**を占めている。加えて台湾からの観光客が 1 割程度である。



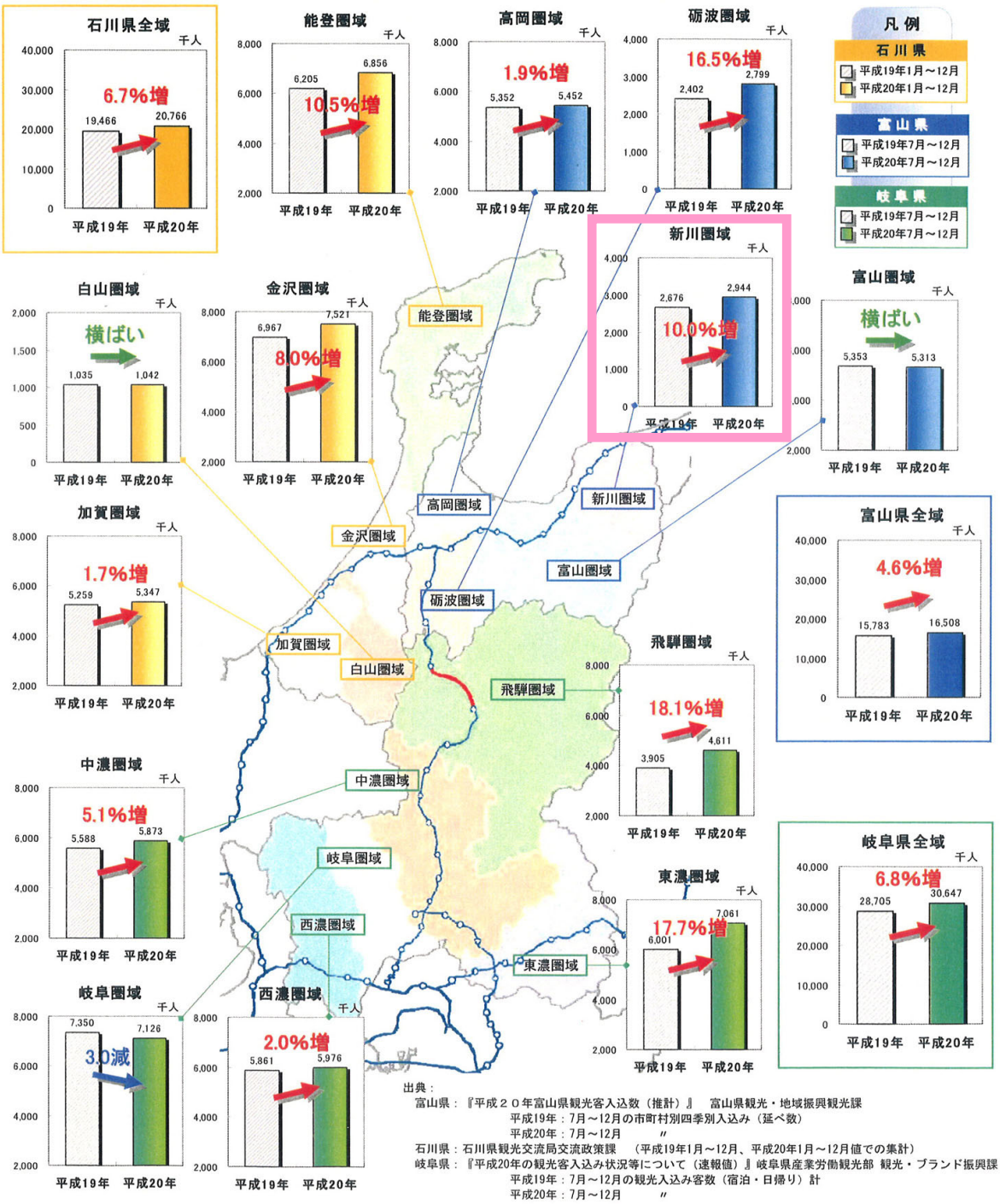
出所：黒部峡谷鉄道調べ

図　黒部峡谷鉄道の訪日団体観光客数の推移

(e)東海北陸自動車道全線開通の効果

・東海北陸自動車道の全通効果として、平成 19 年（開通前）と 20 年（開通後）それぞれの 7～12 月の入込み客数を比べると、**富山県全体では 4.6%の増加、新川圏域では 10.0%の増加であり、開業効果が発現**している。

・特に砺波圏域は直接つながったこともあり、16.5%の増加である。



出所：中日本高速株式会社発表の東海北陸道全通の整備効果

図　東海北陸自動車道開通に伴う観光入込みの変化

(f)ボランティアガイド

・生地のまちあるきを中心とする「黒部観光ボランティアの会」は、近年**ガイド件数、ガイド人数ともに増加しており平成 20 年で年間約９千人に対してガイドを行っている**。入込み客数あたりの案内人数は約 4%と高く、観光ガイドが定着している高岡市との比較においても高いガイド率を示している。

・ガイド形態は、旅行エージェントが申し込み、バスで団体客を送客してくるパターンが多く、**団体ツアー客との連携が進んでいる**。

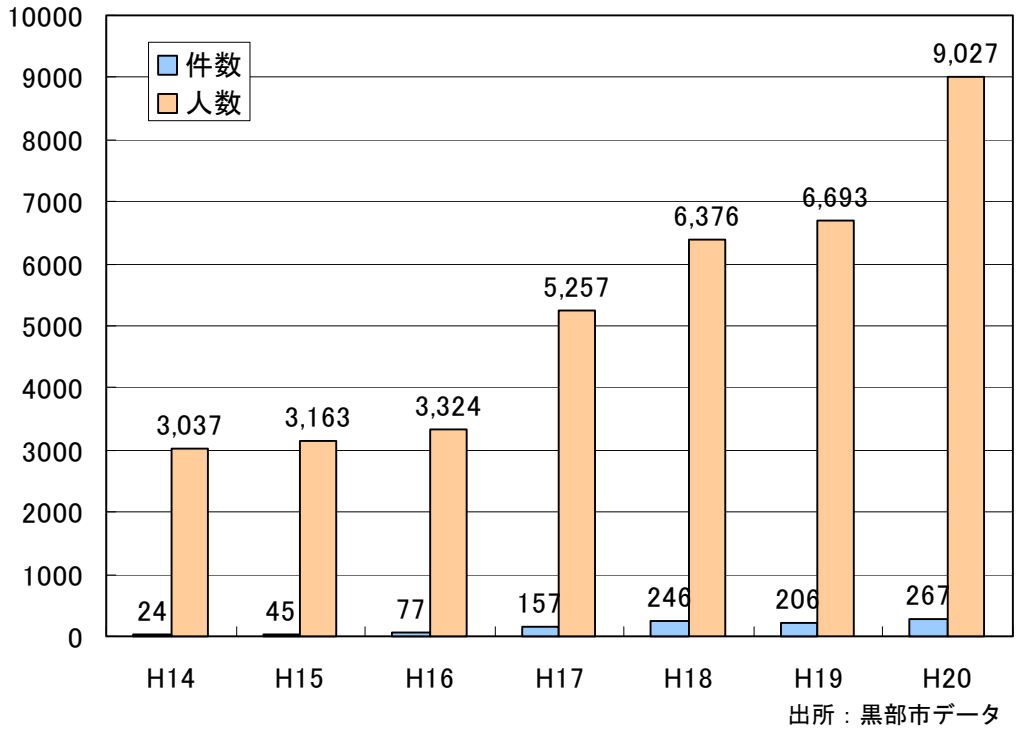


図　黒部観光ボランティアガイドの推移

表　黒部観光ボランティアガイド

	団体数	ガイド人数（人）	案内件数（件）	案内人数（人）	案内人数÷入込み客数
黒部観光ボランティアの会	1	34	267	9,027	4.1%※
高岡市	5	97	3,734	79,411	1.9%

出所：黒部市データ

※黒部観光ボランティアの会の案内人数に対する入込み客数は、魚の駅生地（H19,219 千人）を用いている。

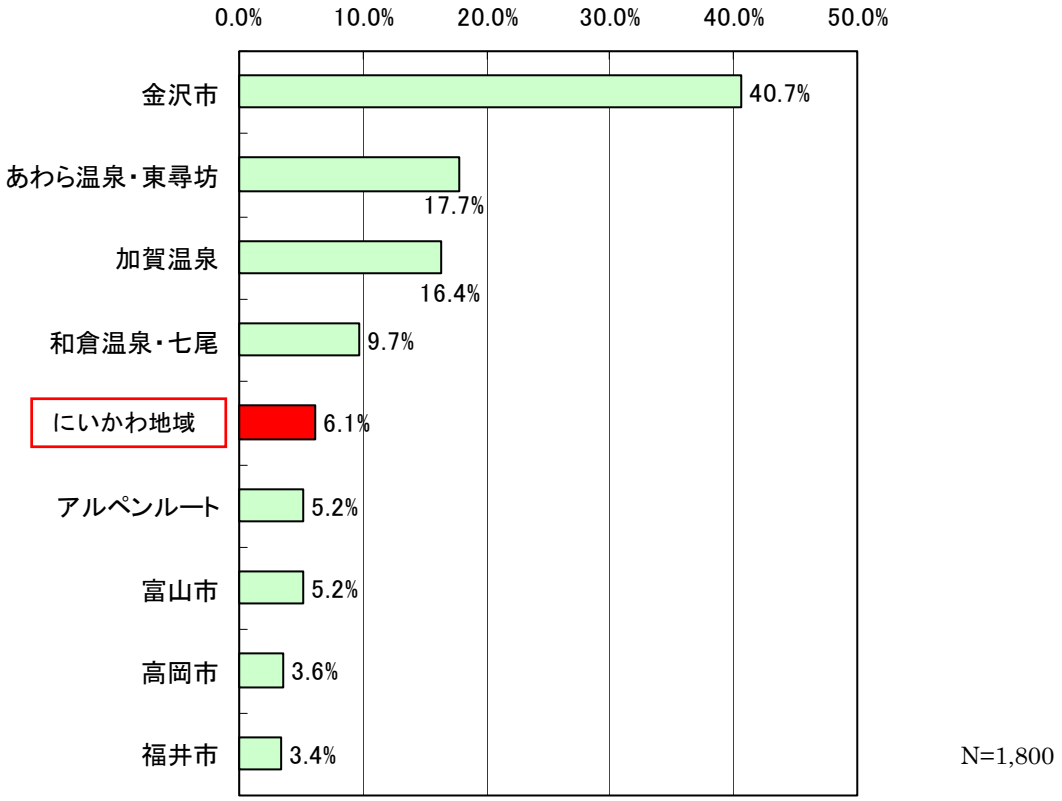
２）にいかわ地域のポジション

(a)北陸三県における訪問率からみたポジション

・三大都市圏の居住者が北陸に観光旅行した際の訪問率注をみると、**にいかわ地域は 6.1%**である。

・集客力の高い金沢（40.7%）、あわら温泉・東尋坊（17.7%）、加賀温泉（16.4%）と比較すると**訪問率向上が望まれる。**

注）訪問率は、対象となる旅行でその地域を訪れた回答者数を、全体の回答者数で割っている。



資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

図　三大都市圏居住者の北陸への旅行における訪問率

注：インターネットアンケート，首都圏・中京圏・関西圏毎に 600 サンプル，2008 年 2 月実施
2006 年以降に北陸三県を観光旅行したことがある日本人を対象に、北陸を訪れた観光旅行のうち最も新しい旅行に対する内容を聞いている

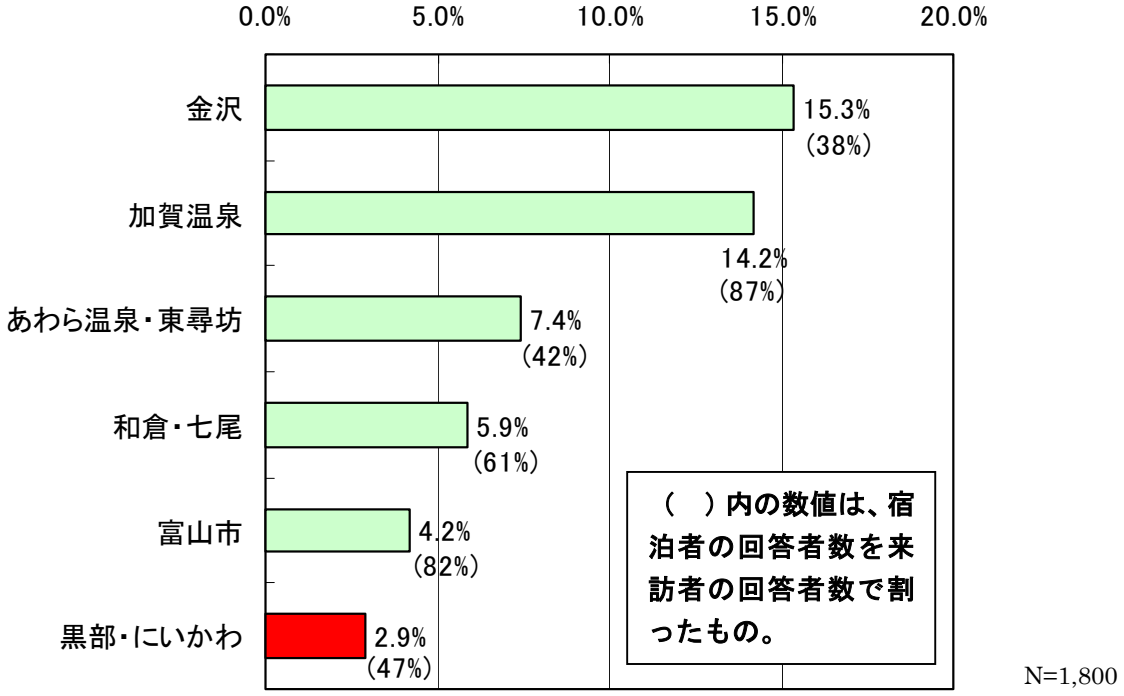
(b)北陸三県における宿泊率からみたポジション

・三大都市圏の居住者が北陸に観光旅行した際の宿泊率注をみると、**にいかわ地域は 2.9%**である。

・集客力の高い金沢（15.3%）、加賀温泉（14.2%）、あわら温泉・東尋坊（7.4%）と比較すると**宿泊地としての選択は低い。**

・また、**来訪者の宿泊率は 47%である**。加賀温泉（87%）と比べて低いのは、黒部峡谷を訪れても宇奈月以外で宿泊される方が多いためであると考えられる。

注）宿泊率は、対象となる旅行でその地域で宿泊した回答者数を、全体の回答者数で割っている。



資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

図　三大都市圏居住者の北陸への旅行における宿泊率

３）来訪者の特性（現在の顧客の構造）

(a)観光目的の流動（北陸からの入込みを除く）

・にいかわ地域への休日の観光目的流動（人の流れ）をみると、**新潟、神奈川、岐阜、大阪、東京**が多い。北陸の他地域と比べ**新潟からの流動が多い特性**がある。

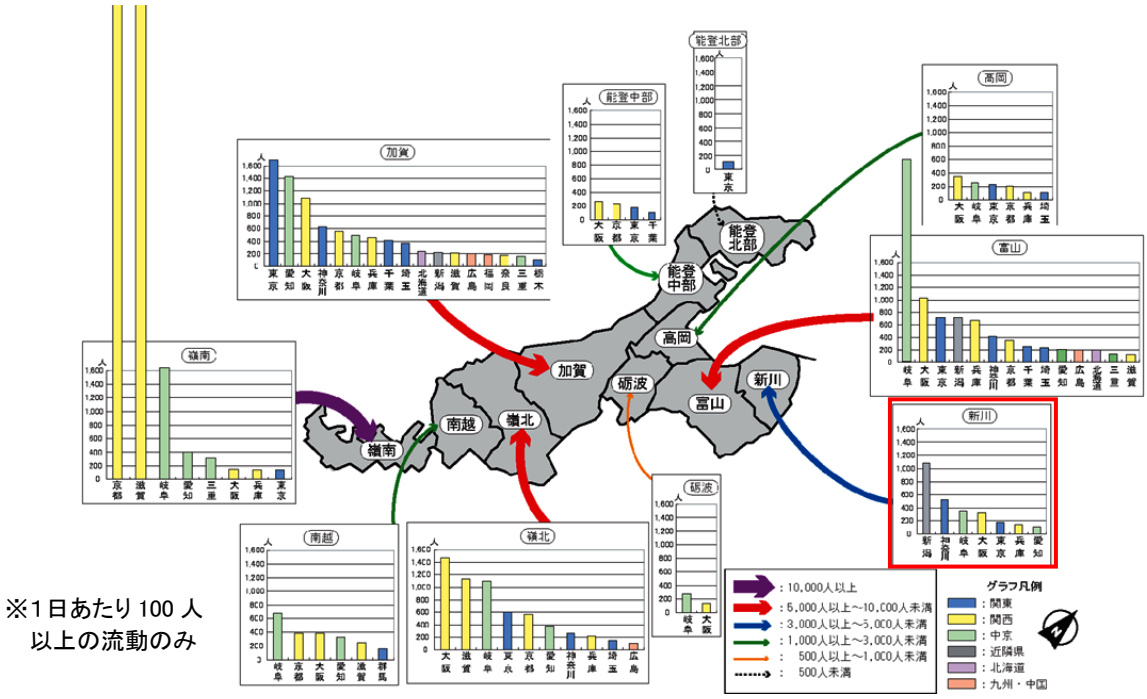


図　休日の北陸三県内の旅行目的地における発地（北陸三県外居住者）

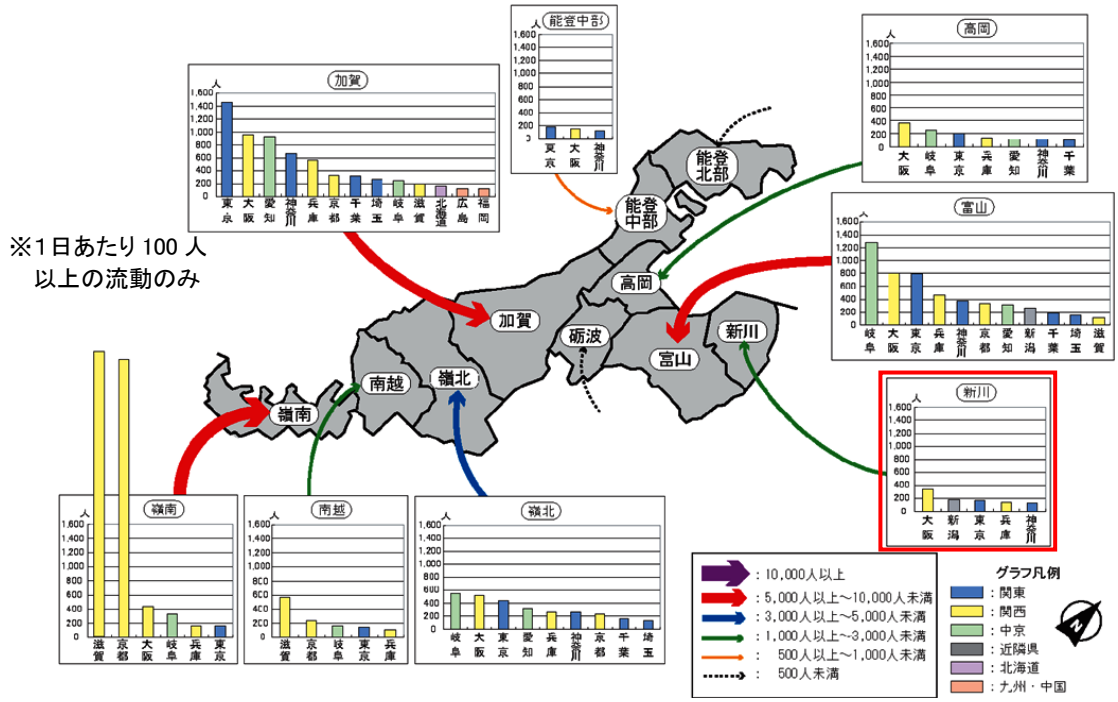


図　平日の北陸三県内の旅行目的地における発地（北陸三県外居住者）

出所　2005 全国幹線旅客純流動調査

(b)来訪者の年齢・同伴者タイプの特性（インターネットアンケートより）

・にいかわ地域の来訪者の年齢特性を全サンプルとの比較でみると、**60 代以降の割合がやや高いが、北陸全体の特性に非常に近い**。

・同伴者タイプの特性を全サンプルとの比較でみると、「ひとり旅」がやや少ないが、全体の特性と類似性が高い。

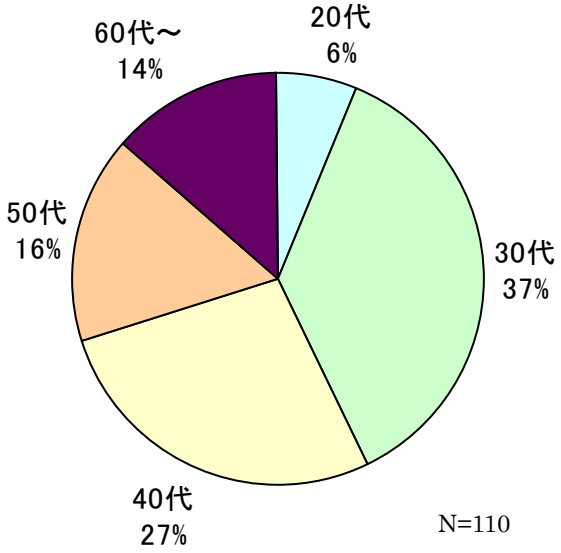
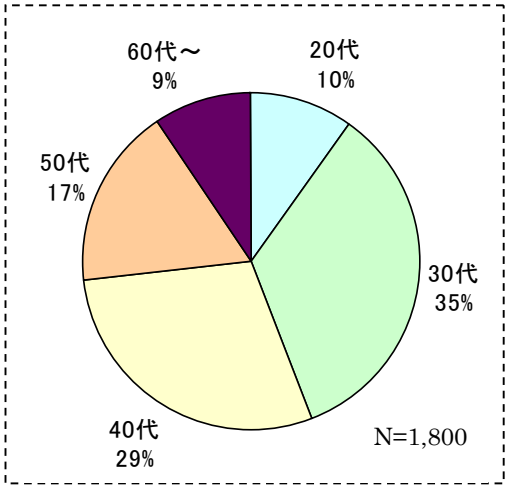


図　にいかわ地域の来訪者の年齢特性



（参考）全サンプルの年齢特性

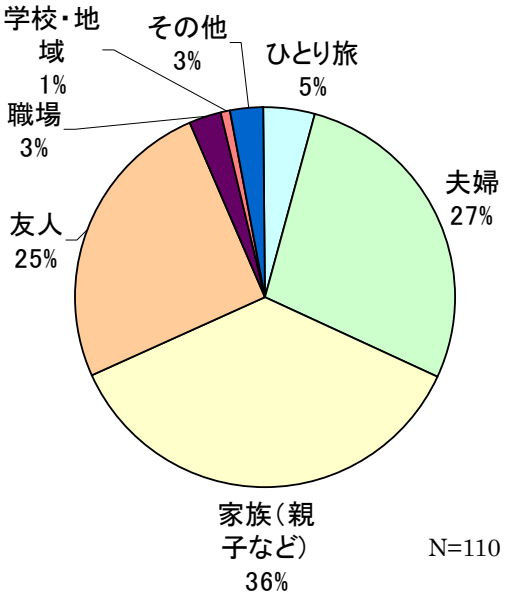
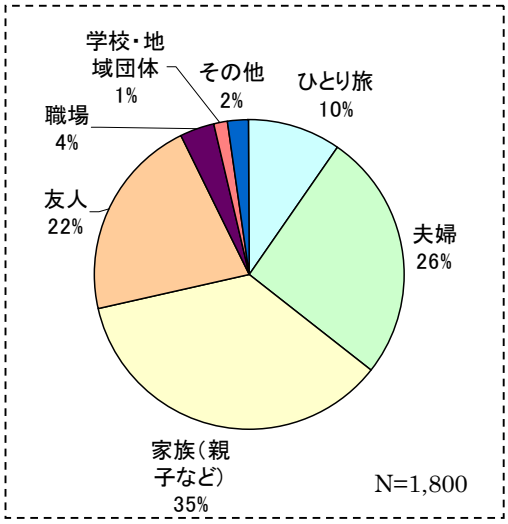


図　にいかわ地域の来訪者の同伴者タイプ



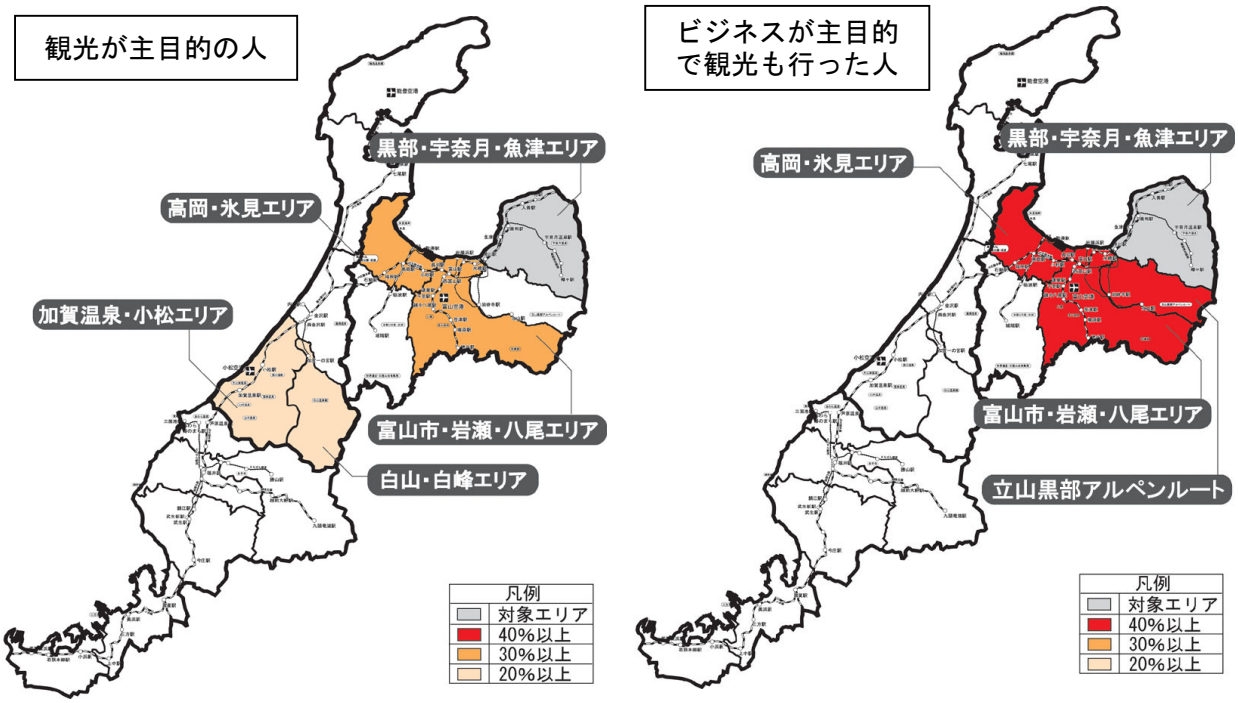
（参考）全サンプルの同伴者のタイプ

資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート
三大都市圏の居住者へのインターネットアンケート調査の結果を用いているため、実際の来訪者の特性とは異なる。

(c)北陸圏内の周遊性

・北陸圏以外の居住者が北陸を訪れた際に、にいかわ地域とあわせてどのエリアを訪れているかをみると、観光が目的の人は**「富山市・岩瀬・八尾エリア」、「高岡・氷見エリア」が 30%以上**であるが、**40%以上の周遊エリアは無く、北陸で最も集客力が高い金沢との周遊が少ない**という特性を持つ。

・ビジネスが主目的で観光も行った人の場合は、「富山・岩瀬・八尾エリア」、「立山黒部アルペンルート」、「高岡・氷見エリア」が 40%以上の周遊率であり、**ビジネス拠点である富山市、高岡市との連携が強い**。



資料：平成 20 年度国土施策創発調査
北陸における移動・旅行に関するアンケート

図　黒部・宇奈月・魚津エリアを訪れた人の他のエリアの周遊率（北陸圏以外の居住者）

注：主要交通結節点でアンケートを配布　調査日平成 20 年 11 月 16 日（日）、20 日（木）
配布数 25,526　（回収：北陸圏外の居住者 1,570、北陸圏内の居住者 2,237）

４）認知度

(a)市区ブランドランキング

・2008 年のブランドランキングをみると**黒部市が 89 位、で 2006 年の 104 位からやや上昇**している。ランキングが近い都市は、**岡山市、鳥取市、高松市、北九州市**など知名度がある都市が並んでいる。

・**魚津市は 191 位であり、2006 年の 152 位から順位を下げ**ている。

表　400 以内の北陸圏の地域

2008順位	地域名	2006順位
9	金沢市	11
26	輪島市	50
34	加賀市	68
76	富山市	124
89	黒部市	104
130	越前市	219
137	福井市	369
154	氷見市	183
191	魚津市	152
214	小浜市	477
218	敦賀市	265
246	七尾市	276
250	鯖江市	331
320	小松市	265
353	あわら市	380
369	高岡市	265
394	珠洲市	349
394	羽咋市	359

地域ブランド戦略サーベイ
・株式会社日経リサーチ「地域ブランド戦略サーベイ」より引用
・独自性、愛着度、購入意向、訪問意向、居住意向から算出した総合指標を用い、地域をランキングしている。
※全国 802 の市区を対象とする。

表　黒部市のランキング周辺地域

2008順位	地域名	2006順位
84	岡山市	70
85	鳥取市	144
86	稚内市	89
86	高松市	114
88	銚子市	134
89	黒部市	104
90	丹波市	155
90	北九州市	36
92	彦根市	24
92	志摩市	116
94	指宿市	93

表　魚津市のランキング周辺地域

2008順位	地域名	2006順位
186	大津市	212
186	宇和島市	121
188	気仙沼市	125
188	うるま市	176
190	富士吉田市	66
191	魚津市	152
191	妙高市	204
193	室蘭市	166
193	つくば市	110
195	豊見城市	171
196	つがる市	289
196	浦添市	181

(b)観光地ブランドランキング（北陸内のポジション）

・宇奈月温泉が 129 位に入っており、北陸の観光地の中でもブランド力が高い。

2008順位	地域名	県名	2006順位
100	永平寺	福井県	545
115	五箇山	富山県	508
119	和倉温泉	石川県	506
129	宇奈月温泉	富山県	499
136	白山	石川・岐阜県	490
138	芦原温泉	福井県	483

(c)特産品ブランドランキング（北陸内のポジション）

・野菜部門で**黒部米が 70 位**に、果物部門で**入善ジャンボ西瓜が 38 位**に入っており、食が魅力のひとつになっている。また、両産品とも 2006 年にはランキング外であったことから、ブランド化が進んだといえる。

表　野菜部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
46	加賀野菜	石川県	32
55	加賀太きゅうり	石川県	37
61	能登大納言	石川県	―
69	福井産ハナエチゼン	福井県	―
70	黒部米	富山県	―

表　果物部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
38	入善ジャンボ西瓜	富山県	―

表　水産部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
6	越前がに	福井県	9
41	氷見ぶり	富山県	39
46	若狭かれい	福井県	41

表　畜産部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
56	能登牛	石川県	―

表　菓子部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
19	羽二重餅	福井県	―

表　郷土料理部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
13	富山ます寿し	富山県	11
54	若狭浜焼き鯖	福井県	34
72	福井ソースカツ丼	福井県	44
74	越前おろしそば	福井県	42
75	三國バーガー	福井県	―
80	氷見うどん	富山県	51

地域ブランド戦略サーベイ

・株式会社日経リサーチ「地域ブランド戦略サーベイ」より引用。

・独独自性、愛着度、プレミアム、推奨意向から算出した総合指標算出した総合指標を用い、地域をランキングしている。

５）今後の期待度

(a)北陸新幹線金沢延伸の効果

・首都圏からの効果は、**黒部で約１時間強の短縮**である。
・特に長野―北陸間の時間短縮効果は大きく、**黒部－長野間は延伸後 30 分強でアクセス可能**となり、2 時間以上の時間短縮効果を見込むことができる。
・関西圏－長野は、現在東海道新幹線経由であるが、金沢延伸後は北陸本線（サンダーバード）→金沢乗換→北陸新幹線ルートに変り、**北陸と長野が一つの周遊圏となる。それにより関西圏から北陸・長野周遊、首都圏から長野・北陸周遊**が新しく生まれる可能性がある。
・北陸内の時間短縮効果も大きく、三県の一体性が高まる。
・一方時間短縮により、特にビジネス客においては、**東京～北陸が日帰り圏内となり北陸での宿泊数は減少**する恐れがある。

表　北陸新幹線金沢延伸による時間短縮効果

	区間	現状	新幹線延伸後	短縮効果
首都圏より	黒部－東京間	約 3 時間 10 分	約 2 時間 00 分注	約 70 分
	富山－東京間	約 3 時間 10 分	約 2 時間 10 分	約 60 分
	金沢―東京間	約 3 時間 50 分	約 2 時間 30 分	約 80 分
長野より	黒部―長野間	約 2 時間 40 分	約 35 分注	約 2 時間 05 分
	富山―長野間	約 2 時間 50 分	約 45 分	約 2 時間 05 分
	金沢―長野間	約 3 時間 25 分	約 60 分	約 2 時間 25 分
関西圏～長野	大阪―長野	約 4 時間 40 分 東海道新幹線経由	約 3 時間 30 分 北陸本線経由	約 1 時間 10 分
北陸内	金沢―黒部	約 1 時間 5 分	約 25 分	約 40 分
	金沢―富山	約 40 分	約 15 分	約 25 分

出所：北陸新幹線建設促進同盟会資料より
注：新幹線延伸後の新黒部駅までの時間は、富山市までの所要時間に 10 分差し引いて算出している。

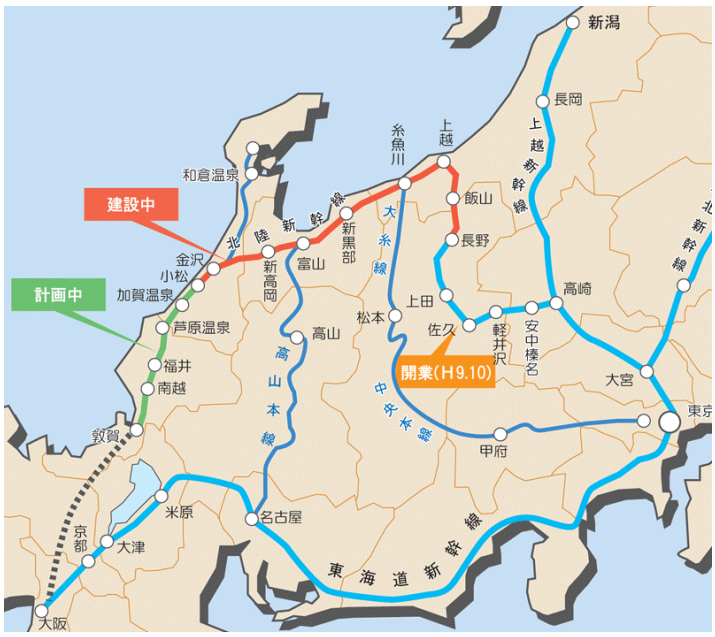


図　北陸新幹線の整備状況

(b)今後訪れてみたい地域（三大都市圏）

・今後訪れてみたい地域として**黒部峡谷・トロッコ列車が半数以上**の人に選ばれており、立山黒部アルペンルートと並んで富山県の中では最も多く選ばれている。

・次いで**宇奈月温泉が約 26%、ほたるいかミュージアム・海上観光が約 8%**でありエリア内に選択されている観光拠点が多い。

・首都圏に限定した場合でも、傾向はほぼ同様である。

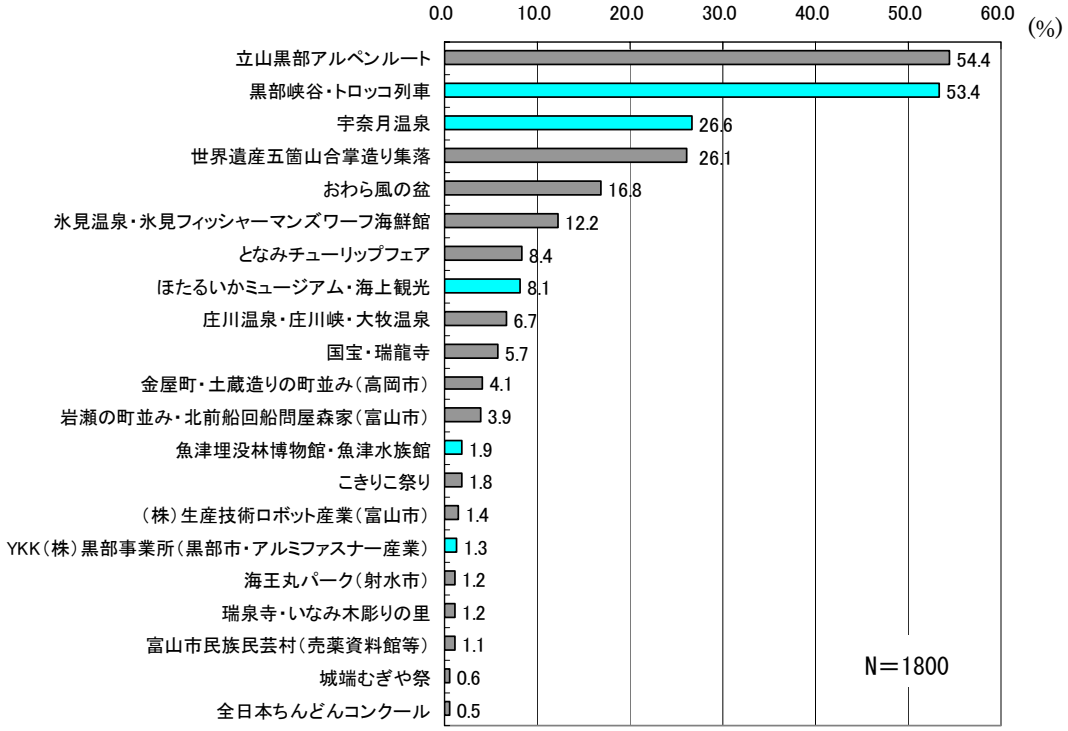


図　今後訪れてみたい地域（全体）

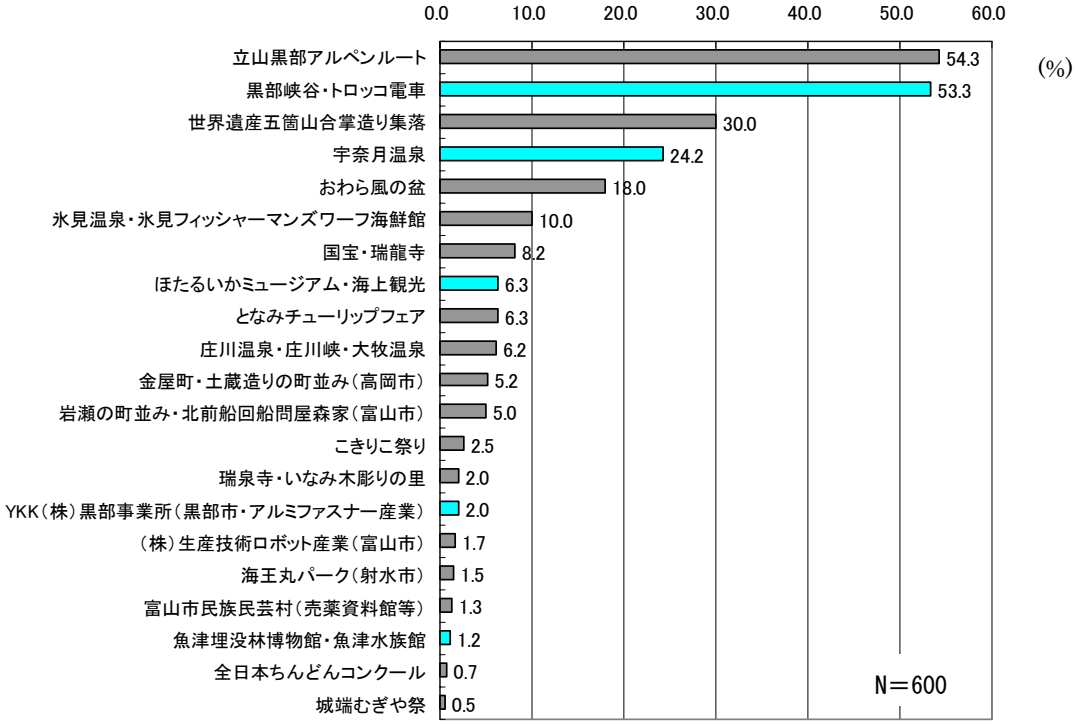


図　今後訪れてみたい地域（首都圏）

資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

(c)新幹線延伸後訪れてみたい地域（三大都市圏）

・新幹線延伸後訪れてみたい地域は、金沢市を挙げる人が突出して多い。

・三大都市圏のマーケットにおいて、**黒部市の訪問意向は、輪島市、立山町、福井市と並んで第３位グループ**を形成している。

・首都圏のマーケットにおいても同様の傾向が現われている。

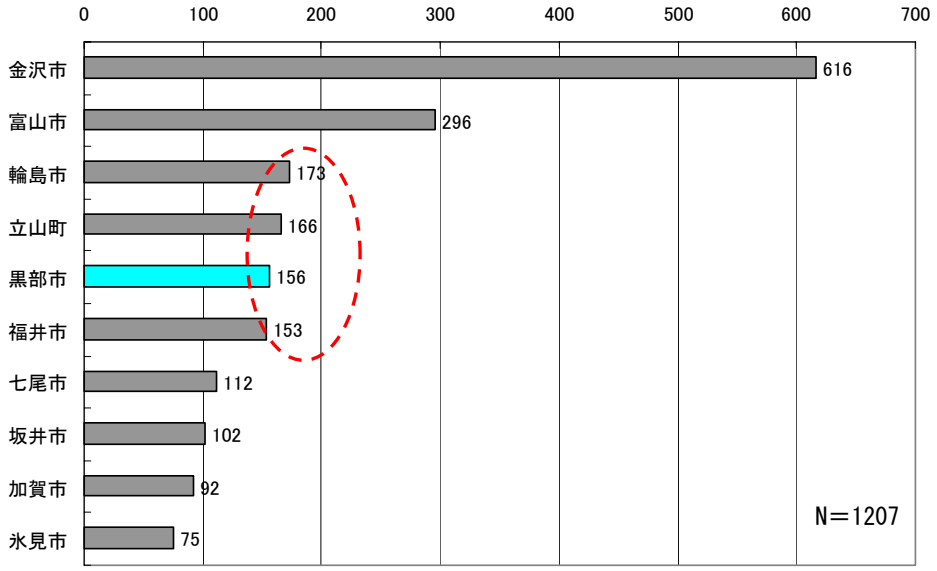


図　新幹線開通後訪れてみたい地域（全体）

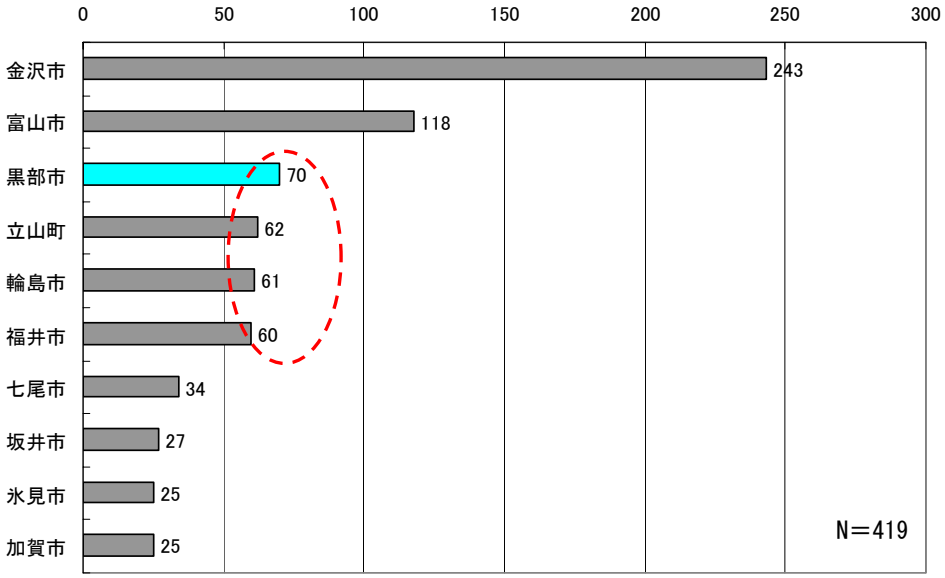


図　新幹線開通後訪れてみたい地域（首都圏）

資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

(d)新幹線開通後宿泊してみたい地域（三大都市圏）

・新幹線開通後宿泊してみたい地域として、金沢市（222）、富山市（143）、七尾市（133）が主に選ばれており、県庁所在地または温泉地である。次いで黒部市（99）、加賀市（91）が続くことから、**黒部市は宿泊地としてある程度認知されている。**

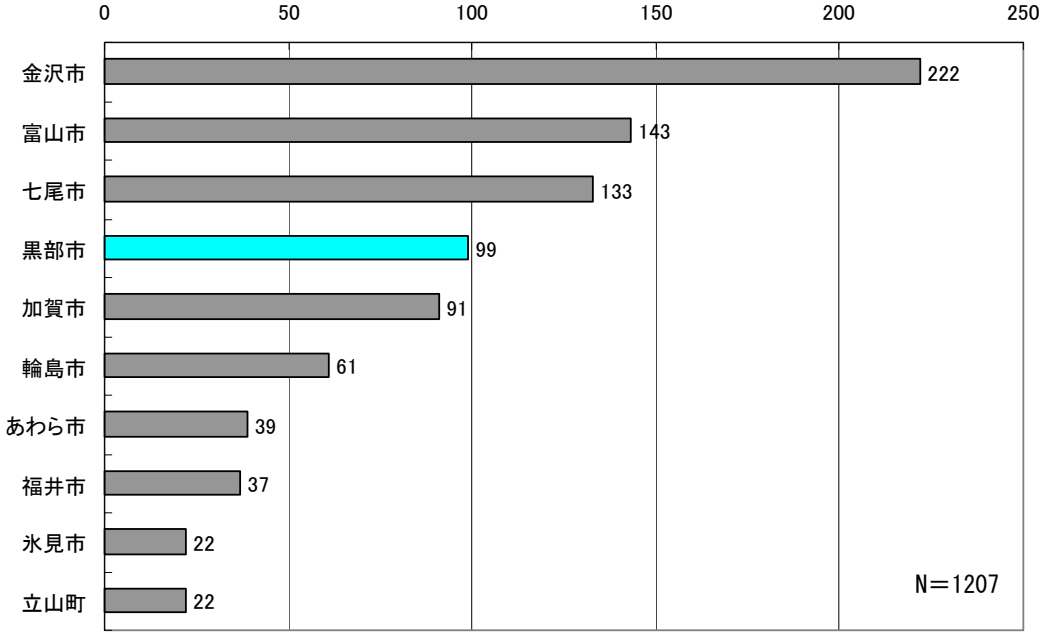


図　新幹線開通後宿泊してみたい地域（全体）

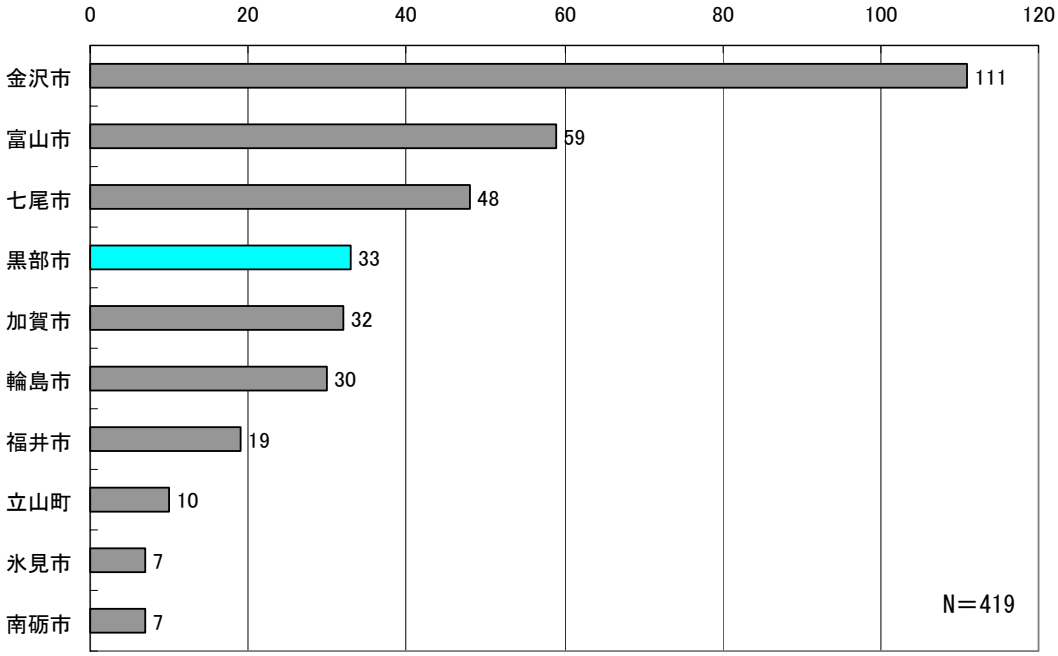


図　新幹線開通後宿泊してみたい地域（首都圏）

資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

⑤ディスカッション結果（まとめ）

論点･テーマ	意見・課題	今後の方策・アイデア
着地型観光の取り組み等	清水は生活に密着した資源。**生活観光はリピーターにつながりやすい**。ボランティアガイドも活発で着地型観光が行政と民間が一体になって進んでいると感じた。 生活観光は観光客が来るほどくずれてしまう。**どの程度の誘客を期待してよいのか**悩んでいる。	⇒沢スギ、洞杉も観光客が大勢来ないようにしている。どうしても見たいという人が歩いて来て見学するとよい。エコツアー等でナチュラリストが案内するなど、**価値をわかってもらう仕組みづくりが必要。** ⇒通年型で入込み客数を分散するという方法もある。
	ガイド活動をしていると、いろなタイプのお客さんがいる。自然のあるがままの魅力を伝えたいのだが、中には二日酔いの方もいる。どう理解すればよいのか。	⇒まちが快適であることが基本。まずは、**「何のために観光をやっているか」について共通した認識**を持たなければならない。
観光圏としての域内連携	地元の人は灯台下暗しで、身近にある資源に気付いていない。そのため、来訪者に対するおもてなしもできない。**一定の人の議論のみで末端にまで至っていない**という点がよくない。	⇒生活観光の取り組みを始めて、**お客さんからの反応で自分の意識を向上できるようになってきた。**おもてなしはその人が持つ気持ちであり、「私が私が」と主張するような人はあまりよくない。おもてなしのできる人を育てることが必要である。 ⇒情報が集まっていて案内をするのが「案内所」であるが、**自分で情報を集めるようになると人と人がつながるようになり、観光のことをいろいろ考える拠点に**なっている。 **「観光情報センター」をにいかわ地域につくったらどうか。**それにより宿泊業組合と連携し、ボランティアガイドとつながり、出版事業者とのネットワーク強化も可能になる。
	地域の皆さんがにいかわに何があるのかがまだわかっていない。内の人に見てもらうことで、エリアの誇りを持って地域のみんながセールスマンになるような取り組みが必要である。	⇒**今日のような機会を各地域で催すのはよいこと**である。 地域のイメージをどのようにつくっていくかについては、**地域の人が地元資源に対して掘り起す機会が必要**である。

（つづき）

論点･テーマ	意見・課題	今後の方策・アイデア
地域イメージ、ブランド構築	現時点では**イメージづくりが重要**である。それをブランド化していければよい。	⇒地域の魅力は何か。**ここにしかないものをつくること**が必要である。 ⇒雪国観光圏は、スノーカントリーとして**共通のロゴを使用**しており、雪祭りと連携して日によって各地で何かの催しが開催されている。
	エリア名は活動に大きく影響する。黒部はネームとしてのバリューがある。にいかわ地区という名前ではイメージができない。	**⇒「にいかわ地域」と聞いて「黒部峡谷」につながるような取り組みが必要ではないか。** **⇒黒部の認知度があるが、にいかわ観光圏を指すということとは違う。にいかわは歴史ある名前である。どちらを用いるかは検討するとよい。**
観光資源の活用	「高熱隧道」で知られるトロッコ列車の先がある。関西電力を説得して何とか活用できないか。	⇒トロッコの先が観光開発できればよいが現実は難しい。立山黒部アルペンルートとの連携を高めれば、長野、立山、黒部の周遊ができる。
	魚津や滑川の魚の連携は何か進めているのか。カワハギ、平目、ズワイガニなどいろいろな水産物があるが、食のつながりはどうなっているのか。	
	観光圏域内で 2 泊したいとなると、滞在促進地区の宇奈月と魚津でという発想になるが､宇奈月で 2 泊、魚津に 2 泊のほうが訴求力がある可能性もある。決めるのはお客さんである。	

（３）第３回地域づくり研究会（能登半島）の結果概要

①実施プログラム

10:00	**集合**
午前中 ～13：20	**３グループに分かれて、「能登旨美オンパク　うまみん　特別編」を体験** 〇古代米のフルコース ～餅つき体験と古代米料理～ 〇七尾湾　冬の味覚・能登なまこを満喫する！ ～このわたづくり体験とナマコづくし～ 〇能登・七尾　一本杉通り　語り部処体験ツアー
13:30～ 16:30	**地域づくり研究会会議（会場：七尾産業福祉会館）** ●取り組み状況のプレゼンテーション ①着地型観光「能登旨美オンパクうまみん」の取り組み ②珠洲における着地型観光の推進状況 ③輪島における食を活かした観光振興 ④能登半島観光圏の現状と課題 ⑤基本データの整理 ●ディスカッション 論点　①能登半島観光圏として食を活かした着地型観光を広げていくための方策（本日の視察をふまえて） ②能登半島観光圏の課題に対する意見交換

能登旨美オンパク うまみん 特別編　視察プログラム

プログラム　その１

古代米のフルコース

～餅つき体験と古代米料理～

縄文時代の御飯の化石が発見された「おにぎりの里」で、赤米や黒米、緑米などを使った餅つきを体験し、他に食べられないオリジナル古代米料理を味わっていただきます。

★会　　場　すみよし亭（中能登町金丸 1070　電話 0767-72-2382）
★内　　容　古代米物語　　谷喜義（谷農園）
　　餅つき体験　　杵、臼取りを体験
　　古代米料理

プログラム　その２

七尾湾　冬の味覚・能登なまこを満喫する！

～このわたづくり体験とナマコづくし～

日本海に突き出た能登半島。内海と言われる「七尾湾」は、半島からの豊かな養分を含んだ水が注ぎ込む波穏やかな海です。ここで水揚げされる能登なまこの腸から作られる珍味「このわた」づくりに挑戦。その後、なまこ料理専門店で、ナマコづくしのお食事をどうぞ。

★会　　場　なまこや工場・海ごちそう（七尾市石崎町　電話 0767-62-2993）
★内　　容　石崎漁港見学　杉原さん（すぎ省水産）
　　このわた体験　園山さん（なまこや）
　　なまこ料理

プログラムその３

能登・七尾　一本杉通り　語り部処体験ツアー

能登半島・七尾の内浦街道沿いの商家が建ち並ぶ一本杉通りで、語り部処という旅人をもてなす取り組みが始まっています。今回のツアーでは、ガイドとともに語り部処めぐりをしながら街中散策を楽しんでみます。

★会　　場　一本杉通り・語り部処めぐり
★内　　容　沈金体験（マイ塗箸づくり）　　新城礼子さん
　　いしり亭（いしりの語り部）＋いしり膳で食事

②「能登旨美オンパク　うまみん　特別編」の様子

１）古代米のフルコース　～餅つき体験と古代米料理～

赤米、黒米、緑米の特性や、古代米と当地の関係など古代米物語の説明

古代米を使った餅つき体験

つきたての御餅に餡をつめるなどお菓子づくりを進める。

最後は古代米づくしの料理を食べる古代米フルコース

２）七尾湾　冬の味覚・能登なまこを満喫する！　～このわたづくり体験とナマコづくし～

石崎漁港を見学し、水揚げされた海産物の説明を受ける。

とれたてのナマコをさばきながら、ナマコの特徴についてお話を頂く。

ベテランののおばちゃんに教えてもらいながらのこのわたづくり。

最後になまこづくしの昼食を食べて終了。

３）能登・七尾　一本杉通り　語り部処体験ツアー

語り部処が連なる一本杉通りを案内を受けながら歩く。

１時間弱の沈金体験―最初に体験内容の説明を受ける。

箸への沈金は 30 分～1 時間程度でできる。語り部処に体験を組み合わせていく試み。

その後、町会長のところで抹茶挽き体験をしながら、まちづくりの話を伺う。

③基礎データ編

１）観光客数の推移

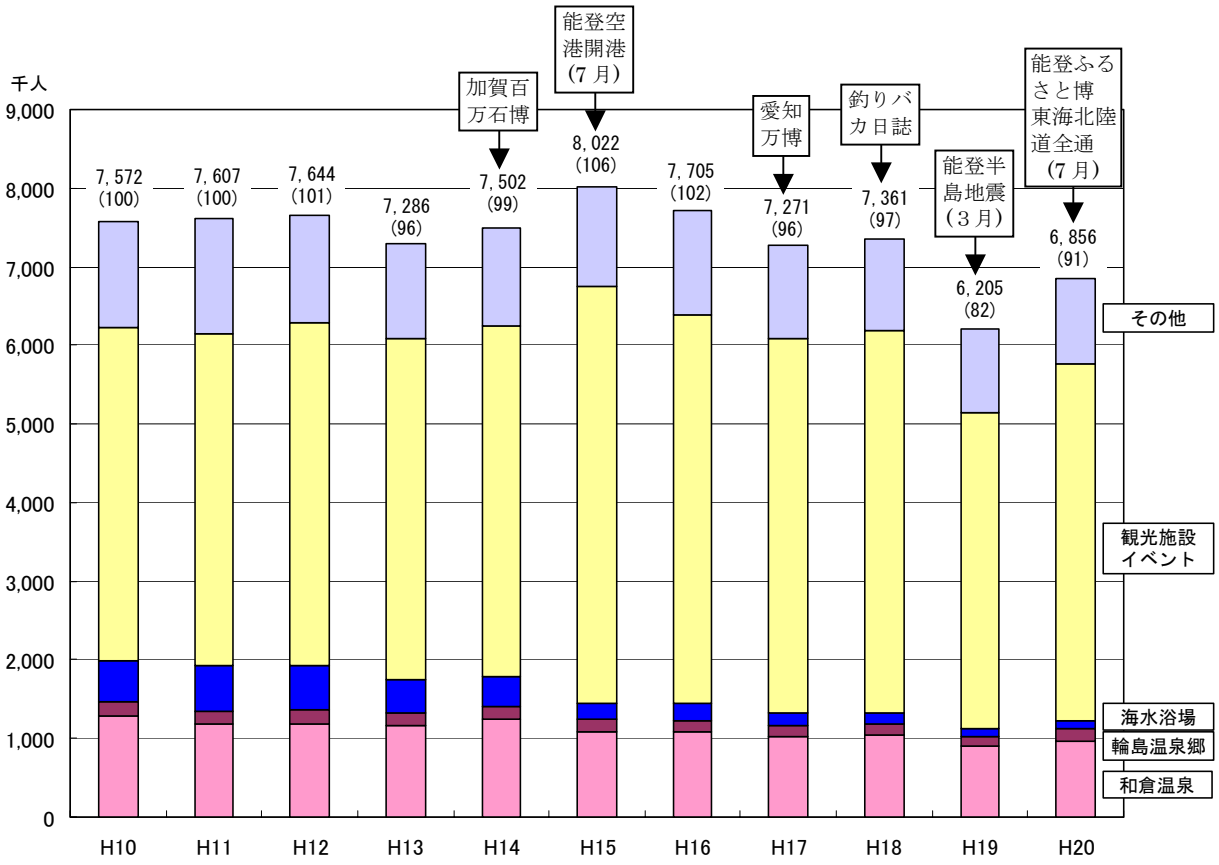
(a)地域の入込み

・平成 20 年の能登地域の入込み客数は約 686 万人である。

・平成 10 年を 100 とした平成 20 年の入込み客数は 91 であり、約 1 割減少している。

・平成 10 年以降の推移をみると平成 14 年まではほぼ横ばいであり、**能登空港が開港した平成 15 年に増加し、その後も堅調に推移していたが平成 19 年の能登半島地震により入込みが大きく減少**した。

・ただし**平成 20 年は、能登ふるさと博の開催、東海北陸道全通などにより入込みが持ち直し**つつある。



出所：統計からみた石川の観光

図　能登地域の入込み客数の推移

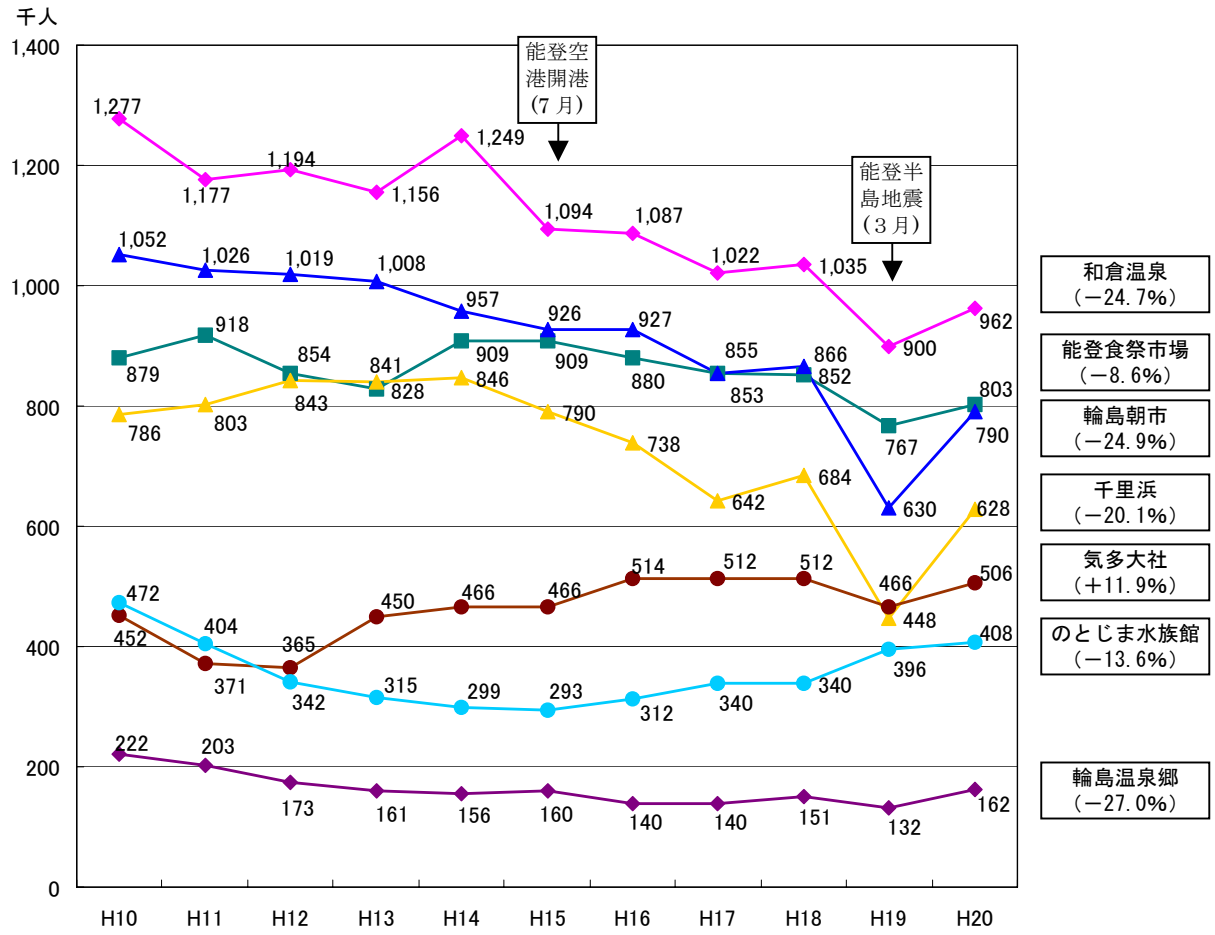
(b)主要観光地の入込み

・能登地域の主要観光地の入込みをみると、**和倉温泉が約 96 万人、能登食祭市場が約 80 万人、輪島朝市が約 79 万人**であり集客力が高い。

・このうち**和倉温泉、輪島朝市は平成 10 年から 20 年の 10 年間で約 25%入込み客が減少**しており苦戦している。能登半島地震の影響もみられるが、それ以前からも減少傾向が続いている。

・能登食祭市場は堅調に推移していたが、能登半島地震の影響で落ち込み、回復していない。

・上位 3 つの観光地に次いで多いのは、千里浜（約 63 万人）、気多大社（約 51 万人）、のとじま水族館（約 41 万人）であり、気多大社、のとじま水族館は近年増加傾向にある。



出所：統計からみた石川の観光

図　能登地域の主要観光地入込み客数の推移

(c)宿泊者数

・平成 20 年の**能登地域の宿泊者数は約 181 万人**であり、石川県内では加賀地域、金沢地域の約 250 万人に次ぐ宿泊拠点となっている。

・宿泊者数の推移（H13～20）をみると、能登地域全体では能登空港開港の平成 15 年をピークに近年減少傾向が続き、平成 19 年の能登半島地震でさらに落ち込み、平成 20 年は回復がみられる。和倉温泉は微減傾向で推移しており、能登地域の約半分の宿泊者数である。

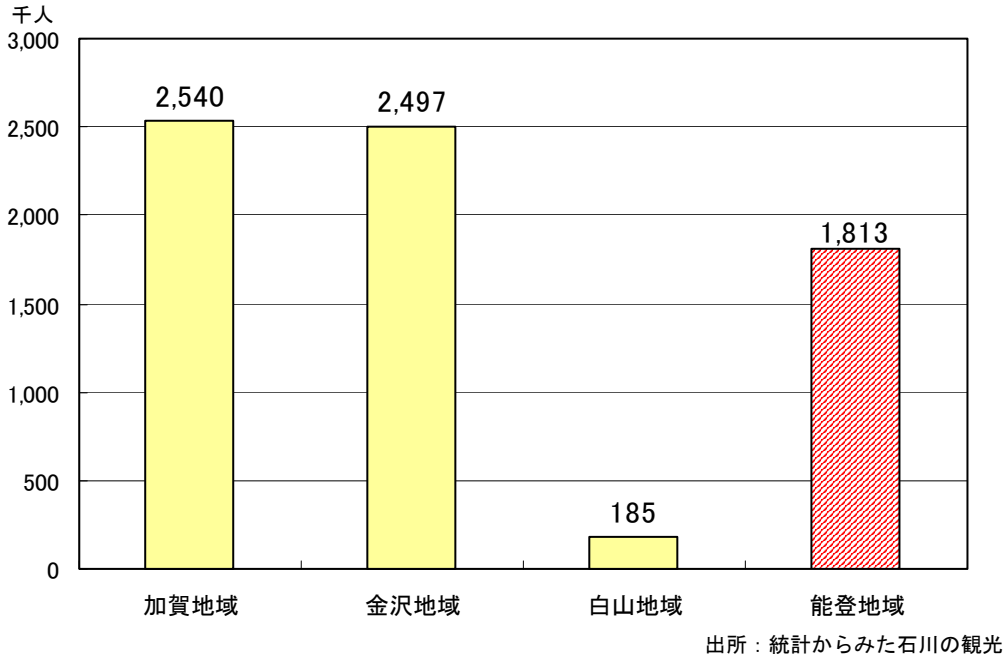


図　能登地域の宿泊者数（H20）

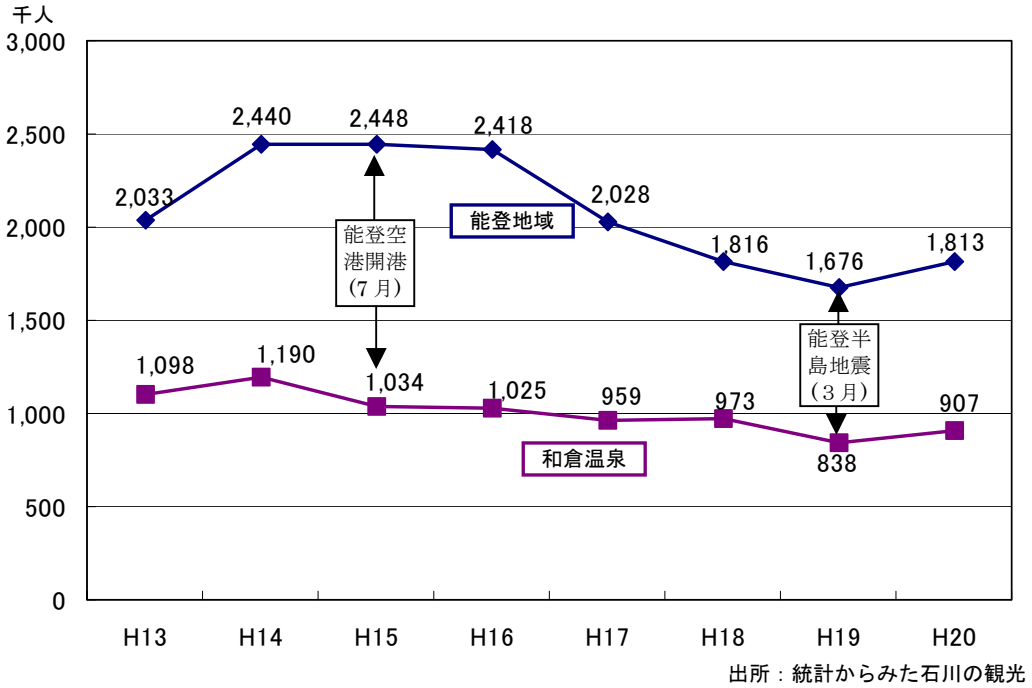


図　能登地域の宿泊者数の推移

(d)インバウンドの状況（石川県全体）

・石川県の外国人宿泊者数は、平成 20 年で約 19 万人であり、平成 15 年からの 5 年間で約 4 倍と大幅に増加している。

・発地別でみると、台湾が 47%と約半分を占め、次いで韓国（11%）、欧州（10%）が多い。

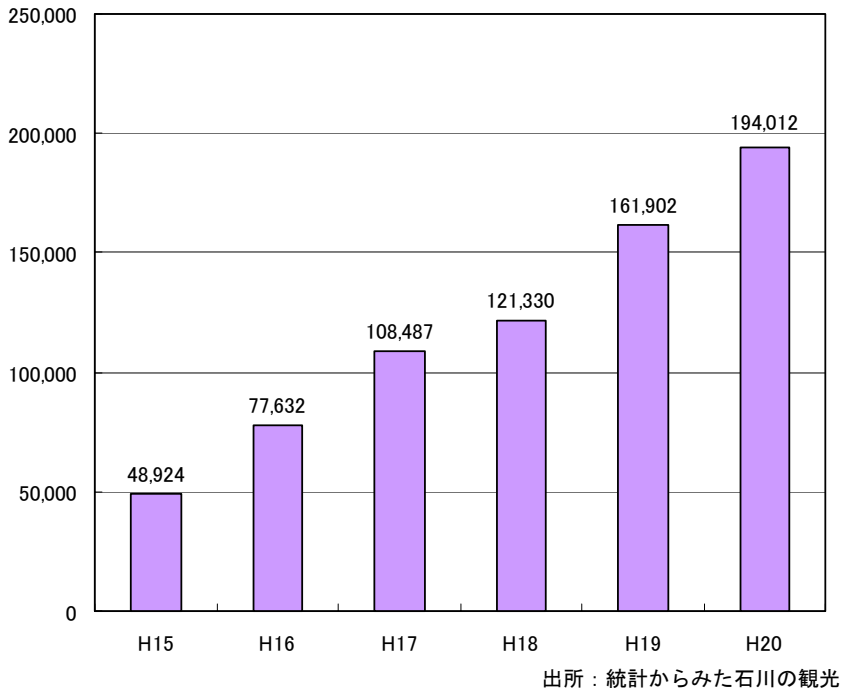


図　外国人宿泊客数の推移（石川県）

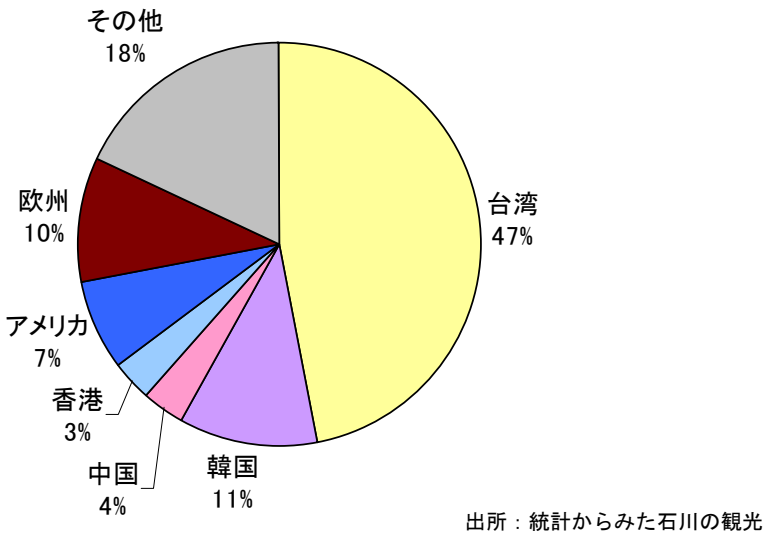
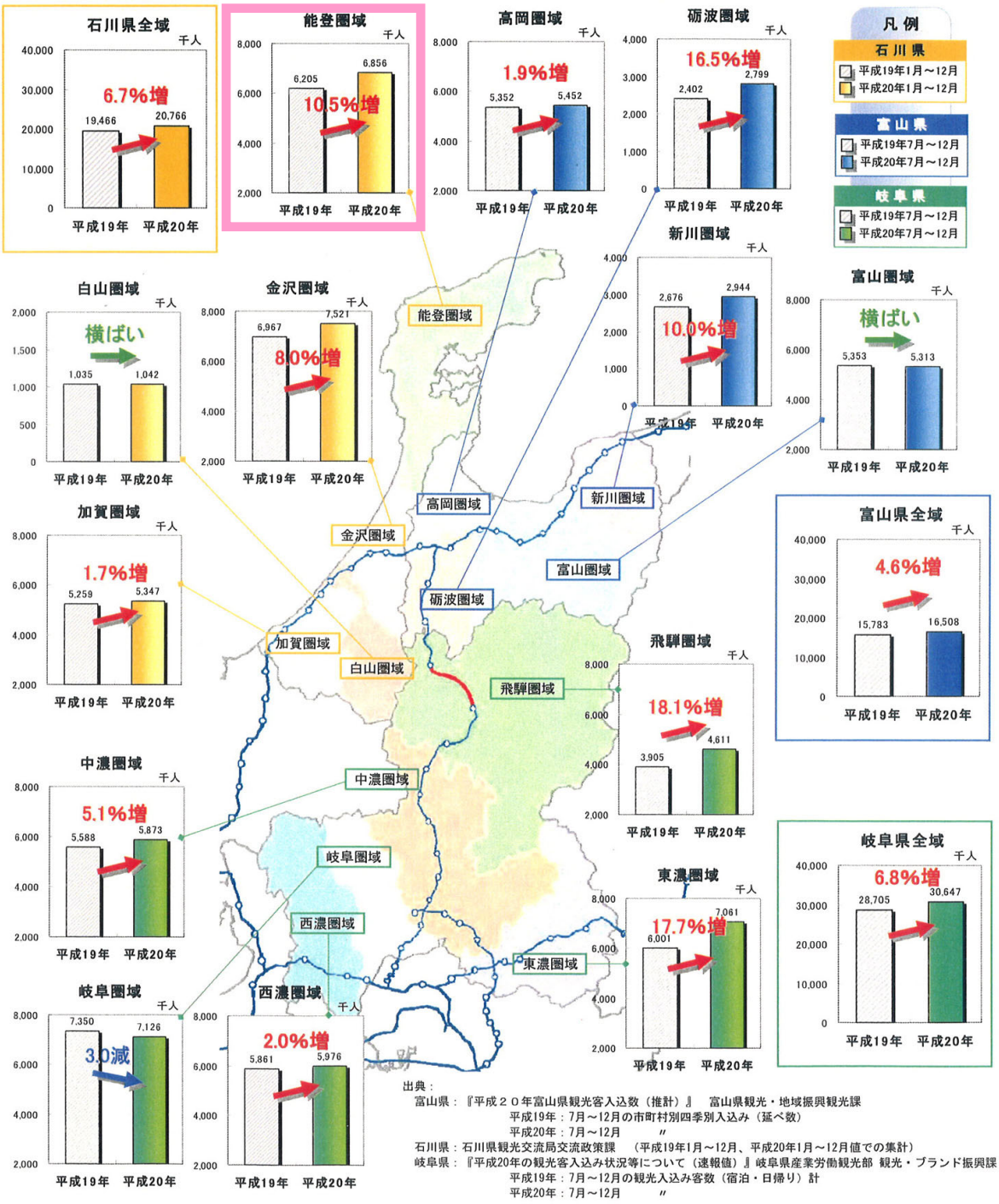


図　外国人宿泊客の発地（H20・石川県）

(e)東海北陸自動車道全線開通の効果

・東海北陸自動車道の全通効果として、平成 19 年（開通前）と 20 年（開通後）それぞれの 7～12 月の入込み客数を比べると、**<u>石川県全体では 6.7%の増加、能登圏域では 10.5%の増加であり、開業効果が発現</u>**している。

・能登圏域の増加率は石川県内では最も高く、東海北陸道～能越道を使った来訪が増えていると考えられる。



出所：中日本高速株式会社発表の東海北陸道全通の整備効果

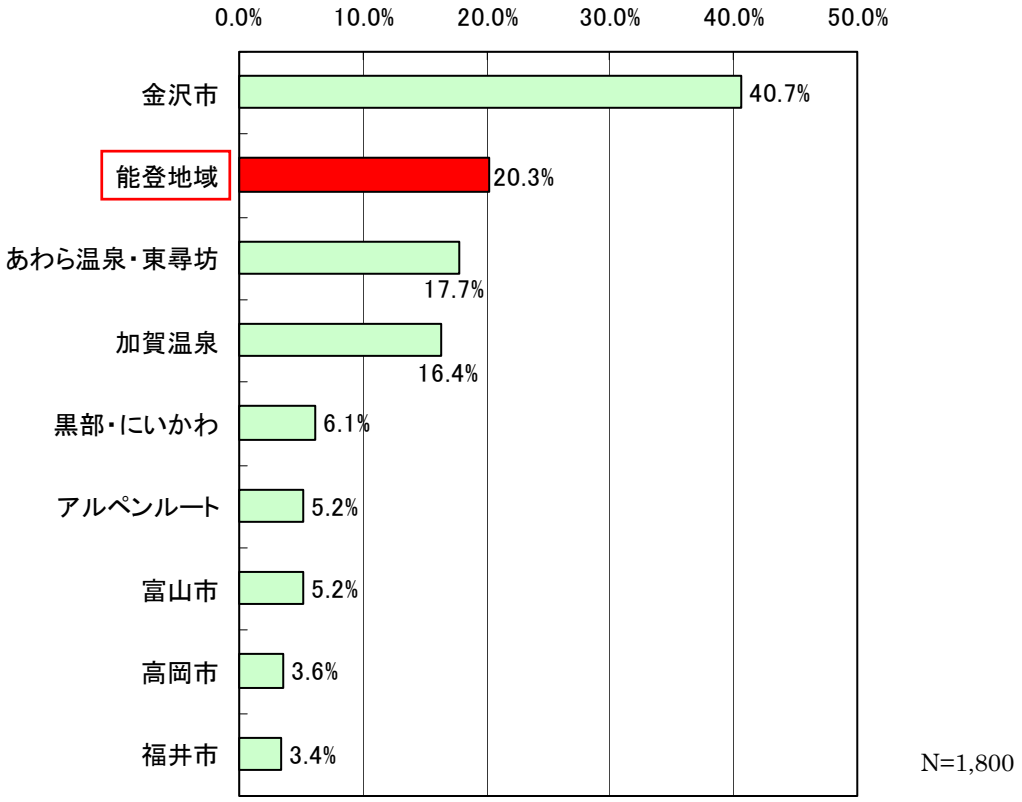
図　東海北陸自動車道開通に伴う観光入込みの変化

２）能登半島地域のポジション

(a)北陸三県における訪問率からみたポジション

・三大都市圏の居住者が北陸に観光旅行した際の訪問率注をみると、**能登地域は 20.3%**であり、金沢市に次いで訪問率が高い。

注）訪問率は、対象となる旅行でその地域を訪れた回答者数を、全体の回答者数で割っている。



資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート※

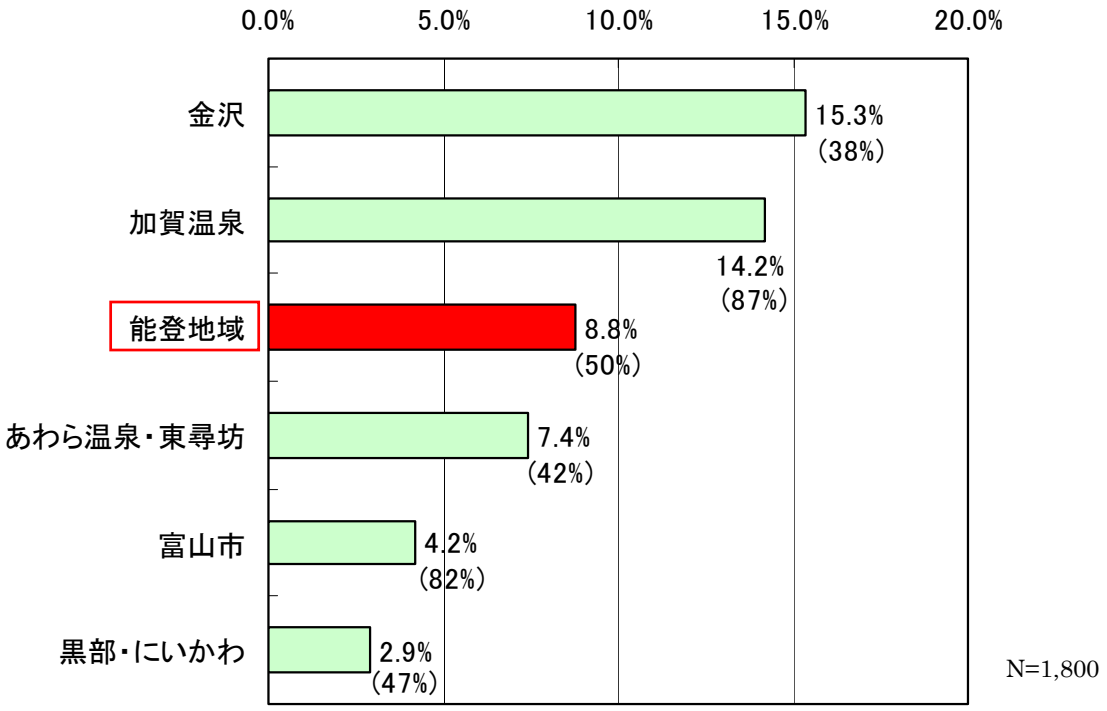
図　三大都市圏居住者の北陸への旅行における訪問率

注：インターネットアンケート，首都圏・中京圏・関西圏毎に 600 サンプル，2008 年 2 月実施
2006 年以降に北陸三県を観光旅行したことがある日本人を対象に、北陸を訪れた観光旅行のうち最も新しい旅行に対する内容を聞いている

(b)北陸三県における宿泊率からみたポジション

・三大都市圏の居住者が北陸に観光旅行した際の宿泊率[注]をみると、**能登地域は 8.8%**である。
・訪問率では加賀温泉より高かったが、宿泊率では加賀温泉の 14.2%に対して 5 ポイント強低い。

注）宿泊率は、対象となる旅行でその地域で宿泊した回答者数を、全体の回答者数で割っている。



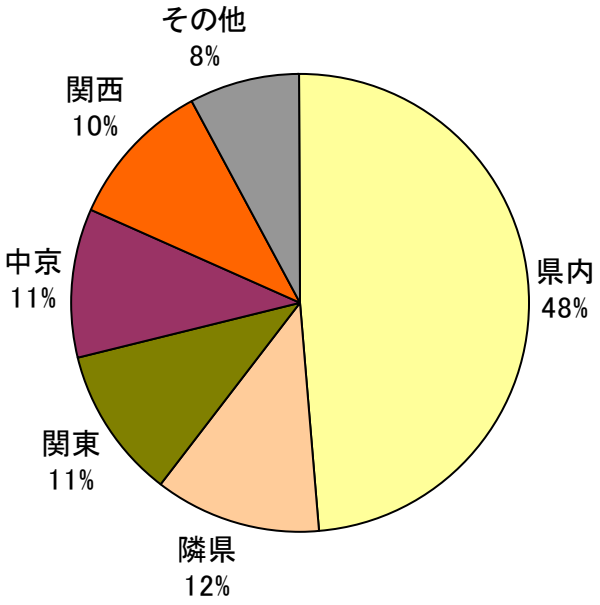
資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

図　三大都市圏居住者の北陸への旅行における宿泊率

３）来訪者の特性（現在の顧客の構造）

(a)観光目的の流動

・能登地域の発地別観光入込み客数をみると、県内が約半数であるが、隣県、関東、中京、関西がそれぞれ 10%強で並んでいる。
・マーケットの大きさを考慮すると、**関東からの入込み割合が小さい**といえる。



出所：統計からみた石川の観光

図　能登地域の発地別観光入込み客数

注）隣県：富山県、福井県
関東地域：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、栃木県、茨城県、群馬県
中京地域：愛知県、岐阜県、静岡県、三重県
関西地域：大阪府、京都府、兵庫県、和歌山県、奈良県、滋賀県

(b)来訪者の年齢・同伴者タイプの特性（インターネットアンケートより）

・能登地域の来訪者の年齢特性を全サンプルとの比較でみると、**50 代・60 代以降の割合が全体より 6 ポイント高く、高齢者の構成がやや高い**。

・同伴者タイプの特性を全サンプルとの比較でみると、「家族」がやや高いが、全体の特性と類似性が高い。

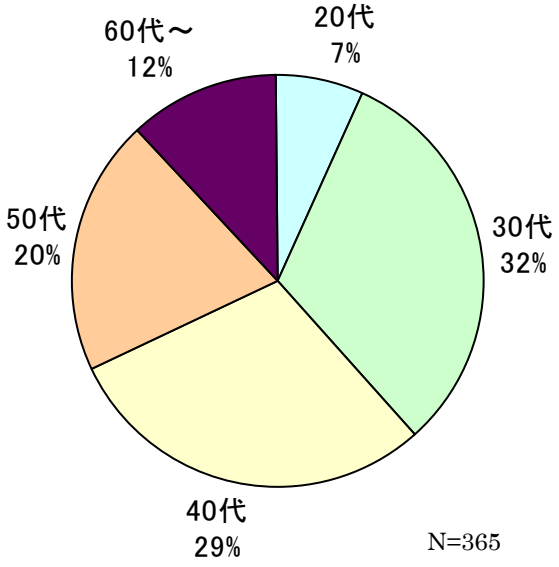
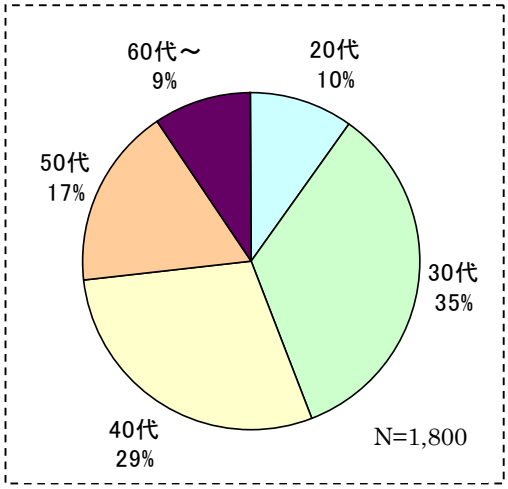


図　能登地域の来訪者の年齢特性



（参考）全サンプルの年齢特性

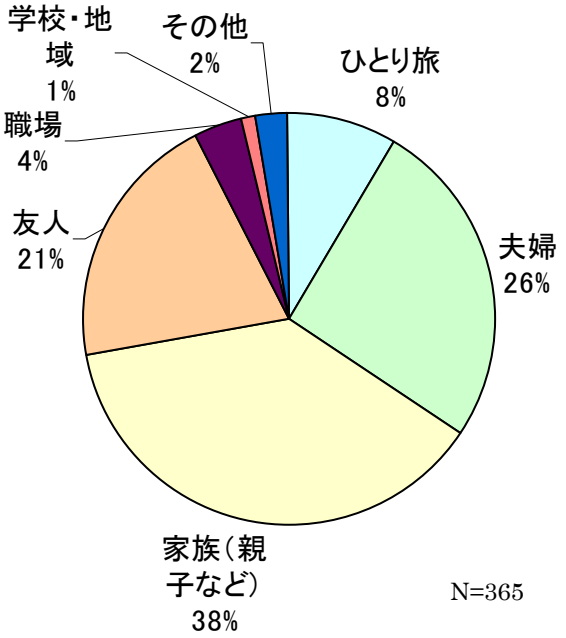
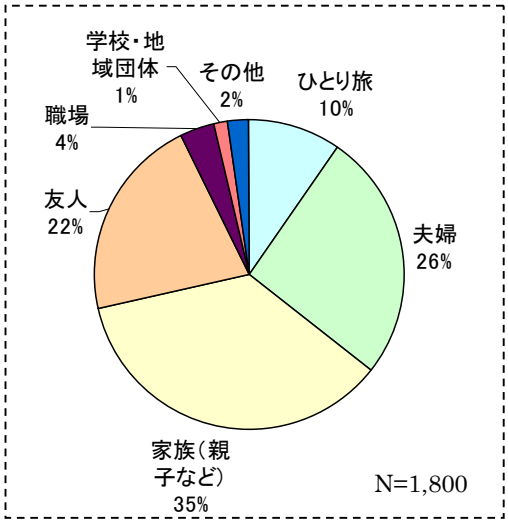


図　能登地域の来訪者の同伴者タイプ

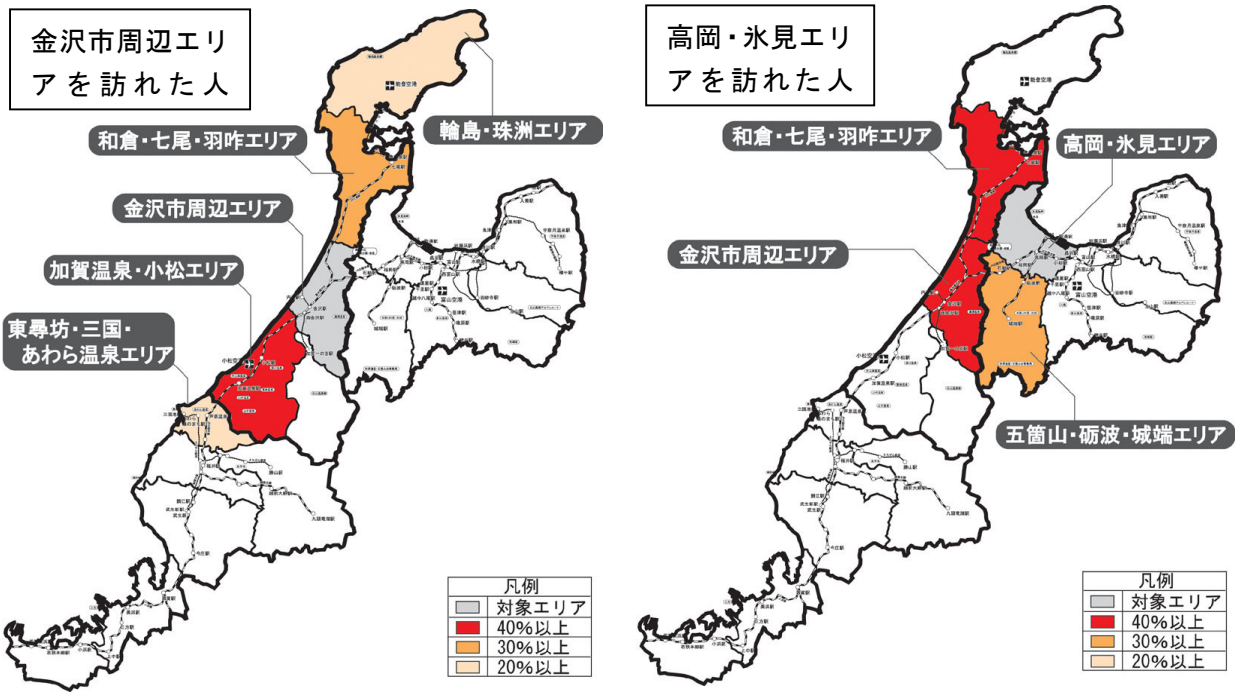


（参考）全サンプルの同伴者のタイプ

資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート
三大都市圏の居住者へのインターネットアンケート調査の結果を用いているため、実際の来訪者の特性とは異なる。

(c)北陸圏内の周遊性（観光目的）

・観光目的で北陸を訪れた人の周遊特性をみると、金沢市周辺を訪れた人、高岡・氷見エリアを訪れた人が、能登地域を周遊する割合が高い。
・金沢市周辺を訪れた人は、和倉・七尾・羽咋エリアを訪れる割合が 30%台、輪島・珠洲エリアを訪れる割合が 20%台であり、金沢と能登を併せて訪れている人が一定の割合でみられる。
・また、高岡・氷見エリアを訪れた人は、和倉・七尾・羽咋エリアを訪れる人が 40%以上であり周遊性が高いが、輪島・珠洲エリアまで行く人は少ない。



資料：平成 20 年度国土施策創発調査
北陸における移動・旅行に関するアンケート※

図　金沢市周辺エリア、高岡・氷見エリアを観光で訪れた人の周遊率（北陸圏以外の居住者）

注：主要交通結節点でアンケートを配布　調査日平成 20 年 11 月 16 日（日）、20 日（木）
配布数 25,526　（回収：北陸圏外の居住者 1,570、北陸圏内の居住者 2,237）

４）認知度

(a)市区ブランドランキング

・2008 年のブランドランキングをみると**輪島市が 26 位で 2006 年の 50 位から上昇**しておりブランド力が高い。ランキングが近い都市は、**鹿児島市、倉敷市、沖縄市、奄美市**など知名度がある都市が並んでいる。

・**七尾市は 246 位であり、2006 年の 276 位からやや上昇し**ている。

表　400 以内の北陸圏の地域

2008順位	地域名	2006順位
9	金沢市	11
26	輪島市	50
34	加賀市	68
76	富山市	124
89	黒部市	104
130	越前市	219
137	福井市	369
154	氷見市	183
191	魚津市	152
214	小浜市	477
218	敦賀市	265
246	七尾市	276
250	鯖江市	331
320	小松市	265
353	あわら市	380
369	高岡市	265
394	珠洲市	349
394	羽咋市	359

地域ブランド戦略サーベイ
・株式会社日経リサーチ「地域ブランド戦略サーベイ」より引用
・独自性、愛着度、購入意向、訪問意向、居住意向から算出した総合指標を用い、地域をランキングしている。
※全国 802 の市区を対象とする。

表　輪島市のランキング周辺地域

2008順位	地域名	2006順位
20	仙台市	14
21	大阪市	29
22	広島市	23
23	沖縄市	28
23	倉敷市	16
25	鹿児島市	33
26	輪島市	50
26	奄美市	53
28	宝塚市	30
29	旭川市	34
30	由布市	53
31	芦屋市	46

表　七尾市のランキング周辺地域

2008順位	地域名	2006順位
239	能代市	393
239	遠野市	162
239	武蔵野市	258
239	佐久市	221
239	伊那市	240
244	上田市	201
244	長門市	440
246	七尾市	276
246	塩尻市	247
246	中津川市	327
246	甲州市	270
250	鯖江市	331
250	生駒市	251

(b)観光地ブランドランキング（北陸内のポジション）

・和倉温泉が 119 位に入っており、北陸の観光地の中でもブランド力が高い。

2008順位	地域名	県名	2006順位
100	永平寺	福井県	545
115	五箇山	富山県	508
119	和倉温泉	石川県	506
129	宇奈月温泉	富山県	499
136	白山	石川･岐阜県	490
138	芦原温泉	福井県	483

(c)特産品ブランドランキング（北陸内のポジション）

・野菜部門で**能登大納言が 61 位**に、畜産部門で**能登牛が 56 位**に入っており、食が魅力のひとつになっている。また、両産品とも 2006 年にはランキング外であったことから、ブランド化が進んだといえる。

表　野菜部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
46	加賀野菜	石川県	32
55	加賀太きゅうり	石川県	37
61	能登大納言	石川県	―
69	福井産ハナエチゼン	福井県	―
70	黒部米	富山県	―

表　果物部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
38	入善ジャンボ西瓜	富山県	―

表　水産部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
6	越前がに	福井県	9
41	氷見ぶり	富山県	39
46	若狭かれい	福井県	41

表　畜産部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
56	能登牛	石川県	―

表　菓子部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
19	羽二重餅	福井県	―

表　郷土料理部門のブランドランキング

2008順位	産品名	県名	2006順位
13	富山ます寿し	富山県	11
54	若狭浜焼き鯖	福井県	34
72	福井ソースカツ丼	福井県	44
74	越前おろしそば	福井県	42
75	三國バーガー	福井県	―
80	氷見うどん	富山県	51

地域ブランド戦略サーベイ

・株式会社日経リサーチ「地域ブランド戦略サーベイ」より引用。

・独独自性、愛着度、プレミアム、推奨意向から算出した総合指標算出した総合指標を用い、地域をランキングしている。

５）今後の期待度

(a)北陸新幹線金沢延伸の効果

・首都圏からの効果は、**七尾で約 80 分の短縮**である。
・特に長野―北陸間の時間短縮効果は大きく、**金沢－長野間は延伸後約 1 時間でアクセス可能**となり、**北陸と長野が一つの周遊圏となる。それにより関西圏から北陸・長野周遊、首都圏から長野・北陸周遊**が新しく生まれる可能性がある。
・北陸内の時間短縮効果も大きく、三県の一体性が高まる。
・一方時間短縮により、特にビジネス客においては、**東京～北陸が日帰り圏内となり北陸での宿泊数は減少**する恐れがある。

表　北陸新幹線金沢延伸による時間短縮効果

	区間	現状	新幹線延伸後	短縮効果
首都圏より	七尾－東京間	約 4 時間 50 分	約 3 時間 30 分注	約 80 分
	富山－東京間	約 3 時間 10 分	約 2 時間 10 分	約 60 分
	金沢―東京間	約 3 時間 50 分	約 2 時間 30 分	約 80 分
長野より	七尾―長野間	約 4 時間 25 分	約 2 時間注	約 2 時間 25 分
	富山―長野間	約 2 時間 50 分	約 45 分	約 2 時間 05 分
	金沢―長野間	約 3 時間 25 分	約 60 分	約 2 時間 25 分
関西圏～長野	大阪―長野	約 4 時間 40 分 東海道新幹線経由	約 3 時間 30 分 北陸本線経由	約 1 時間 10 分
北陸内	金沢―黒部	約 1 時間 5 分	約 25 分	約 40 分
	金沢―富山	約 40 分	約 15 分	約 25 分

出所：北陸新幹線建設促進同盟会資料より
注：新幹線延伸後の七尾駅までの時間は、金沢までの所要時間に 60 分足して算出している。

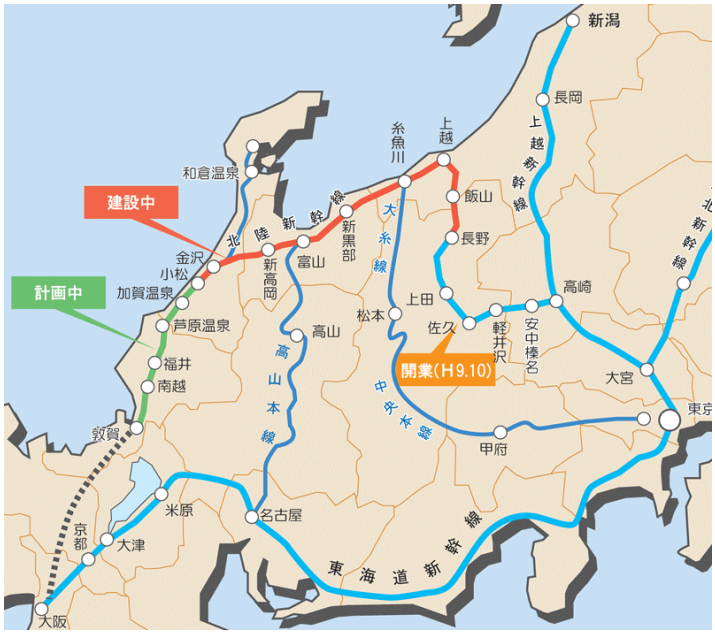


図　北陸新幹線の整備状況

(b)奥能登地域における旅行者移動の課題

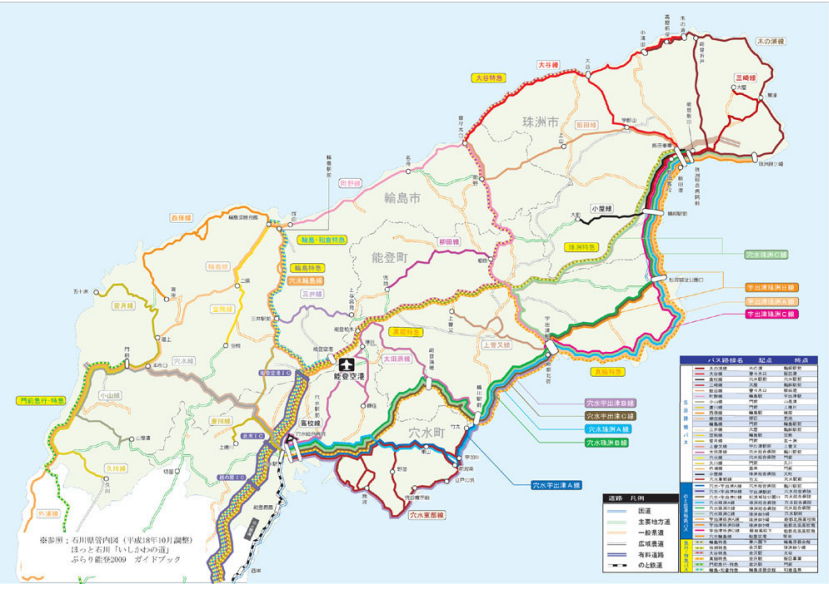
（平成 21 年度「奥能登地域における広域交通活性化プログラム調査・中間報告資料案」より）

※奥能登地域は、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町の２市２町

■奥能登地域における公共交通の現況

奥能登地域において運行されている公共交通機関は、①主に市町域内の移動サービスを供する公共交通（生活路線バス）、②市町域を超えて奥能登地域内の移動サービスを供する公共交通（一部の生活路線バス、のと鉄道転換バス、ふるさとタクシー）、③奥能登地域とその他の地域の移動サービスを供する公共交通（能登空港航空機、特急バス・急行バス、のと鉄道）、④その他（タクシー）がある。

奥能登地域の観光資源は広範囲に分布しているが、観光資源はほぼ公共交通機関のルート沿いにある。



図．奥能登地域における公共交通ネットワーク

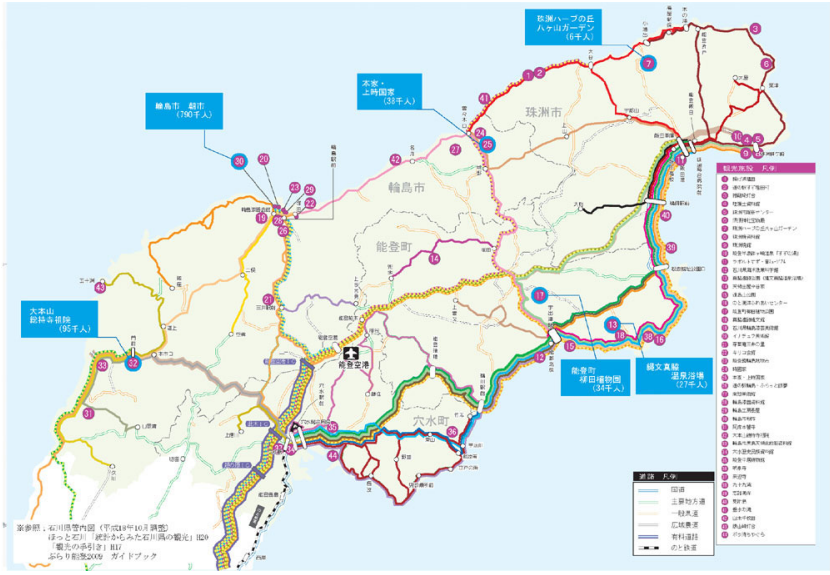


図　奥能登地域における主な観光地と公共交通ネットワーク

①主に市町域内の移動

■生活路線バス
- 輪島市域内7路線　・珠洲市域内6路線
- 穴水町域内3路線　・能登町域内2路線（市町域を超えるものを除く）
- 平日運行本数 164 本　休日 76 本（半数以下）

②市町域を超える奥能登地域内の移動

■一部の生活路線バス
- 3つの路線（町野線、穴水線、太田原線）

■のと鉄道転換バス
- 穴水珠洲間（穴水珠洲線、穴水宇出津線、宇出津珠洲線）と、穴水輪島間（穴水輪島線）
- 穴水珠洲間は穴水珠洲を 3 時間以上で結ぶ
- 穴水輪島間は穴水輪島を 30 分で結ぶ

■ふるさとタクシー
- 能登空港の羽田便発着にあわせて、能登地域（羽咋郡以北）と能登空港を結ぶ

③奥能登地域とその他の地域の移動

■能登空港（航空機）
- 能登－羽田往復2便と国内・国外チャーター便

■特急バス・急行バス
- 輪島特急（金沢輪島）は上下合計 22 便/1 日。
- 珠洲特急（金沢珠洲）は 8 便/1 日
- 宇出津真脇特急（金沢・宇出津・飯田）は 4 便/1 日
- 門前特急・急行バス（金沢門前）は 12 便/1 日

・■のと鉄道
- 上下各 17 本/1 日運行（上下合計 34 本）

④その他

■タクシー
- 19 事業者（27 営業所）
- 車両数 102 台

■ 奥能登地域における旅行者移動の課題

課題１．奥能登とその他の地域（主に金沢）を結ぶ公共交通の充実が求められている。 課題２．奥能登地域内の周遊を可能とする公共交通が求められている。 課題３．公共交通機関同士が連携し、周遊やすい環境が求められる。

課題1. 奥能登とその他の地域（主に金沢）を結ぶ公共交通の充実が求められている。

・奥能登へ入る際の交通手段の約半数は「自家用車」。航空機で直接奥能登へ入る人を除けば、「特急バス」の利用も多い。（交通拠点・主要観光地・宿泊地等来訪者アンケートより）

・特急バス利用者は、そのほかの交通手段がないために特急バスを選択している。（特急バス利用者アンケートより）

・特急バスのダイヤや運行本数に対する不満が高い。増便を求める意見のほか、ＪＲとの連絡や最終便を遅くしてほしいという意見などがみられる。（特急バス利用者アンケートより）

・金沢と輪島を結ぶ輪島特急は、上下線ともおおむね１時間に１本が運行されており、比較的利便性が高い。珠洲や宇出津など金沢と奥能登の他地域を結ぶ特急バスは、門前特急・門前急行（６往復）、珠洲特急（４往復）、宇出津真脇特急（２往復）、大谷特急（１往復）となっている。

課題2. 奥能登地域内の周遊を可能とする公共交通が求められている。

・自家用車で奥能登入りした来訪者は自家用車を使って、航空機で奥能登入りした来訪者はレンタカーや団体観光バスを使って、輪島市街地（輪島朝市など）や輪島市外縁部（総持寺祖院、千枚田、曽々木海岸、時国家など）や、珠洲市（すず塩田村、禄剛崎、見附島など）等、広範囲を移動しており、訪問施設数も多い。

・一方、特急バスを使って奥能登入りした来訪者は、輪島市街地以外など平均 1.2 箇所しか訪れておらず、広域移動していない。

・これらの来訪者が、訪問したかった・立ち寄りたかったが行けなかった場所・施設として、自家用車やレンタカー、団体観光バスによって訪問されている場所・施設が挙がっており、行きたいけれど行けない場所や施設があることが確認されている。

（交通拠点・主要観光地・宿泊地等来訪者アンケートより）

課題3. 公共交通機関同士が連携し、周遊やすい環境が求められる。

・公共交通を利用する旅行者が奥能登観光を行うためには、複数の公共交通機関を乗り継ぐことになる。このため、旅行者が奥能登地域を周遊するためには、複数の交通機関が容易につながることが求められる。

・のと鉄道や特急バスなどの公共交通機関で奥能登を訪れたのち、他の公共交通機関（路線バス、タクシーなど）が接続されるダイヤであるほか、複数の公共交通機関の情報が入手しやすいことが望まれる。

・また、複数の公共交通を利用するたびに発生する料金の割高感を軽減させる仕組みなども求められる。

表．奥能登来訪者が訪問したかった・立ち寄りたかったが行けなかった場所や施設（N=43）

行けなかった施設・場所			件数	行けなかった理由	どこから
奥能登	輪島市	輪島朝市	1	大雪のため時間がかかり着いた頃終わっていた	金沢市
		千枚田	4	時間がない	門前じんのびの湯
				悪天候	輪島市街地
				積雪のため	輪島市街地
				時間がないから	輪島朝市
		下時国家	2		輪島市街地
		曽々木海岸	1	路線バスの時間があわない	禄剛崎灯台
		輪島漆芸美術館	1	遠そうだから	輪島朝市
		総持寺祖院（もんぜんのお寺）	3	大雪の為	輪島市街地
				気象条件がよくなかった為	輪島朝市
				時間がないから	輪島朝市
		能登空港	2	実家に約束の時間があり、時間がなく訪問出来なかった。往路は外浦廻りで行けなかった。	能登空港近くの道路
				時間が無かった	穴水町市街地
	珠洲市	禄剛埼灯台	4	道がよくわからなかった	鉢ヶ崎ビーチホテル
				雪のため	塩田村
				天候が良くなかったから！	垂水の滝
				悪天候	珠洲市
		木の浦	1	交通の便が悪い	珠洲
		見附島	3	雪のため	宿泊先より歩いて
				次の目的地まで時間がかかりそうだったから	能登町矢波
		珠洲焼資料館	1	一泊二日のため余裕がない	旅館
		須須神社	1	一泊二日のため余裕がない	旅館
		岬自然歩道	1	一泊二日のため余裕がない	旅館
		珠洲市の名所	1	雪道と天気	輪島
		蛸島	1	交通の便が悪い	珠洲市
		揚げ浜塩田	1	路線バスの時間があわない	禄剛崎灯台
	能登町	恋路海岸	2	雪が多かったから	ラブロ恋路
				路線バスのスケジュールと能登空港への時間調整不可	穴水駅
		九十九湾・恋路海岸	1	冬期通行止めの道路を通ろうとしていた。時間がなかった。	道の駅桜峠
	穴水町	ボラ待ちやぐら	1		穴水駅
		穴水町	1	道路に案内板が見当たらなかった	能登有料終点
		穴水駅	1	特急バスがいかない	飯田市街地
		かき料理店	1	悪天候（雪）	穴水駅
	その他	奥能登めぐり	1	大雪のため	穴水駅
奥能登以外		千里浜	2	雪の為	兼六園
		能登演劇堂	1	悪天候	能登中島駅
		能登島	1	悪天候	
		兼六園	1	雪で思ったより時間が掛かり飛行機に間に合わなかった	輪島朝市
		ヤセの断崖	1	能登半島は１日では周遊出来ない。	輪島朝市
		七尾食彩市場（道の駅）	1	特急バスの時間に間に合わない為	和倉温泉

赤文字は、交通に関連するもの

資料：交通拠点・主要観光地・宿泊地等来訪者アンケートより

表．特急バス利用者が訪問したかった・立ち寄りたかったが行けなかった場所や施設

行けなかった施設・場所			件数	行けなかった理由	どこから
奥能登	輪島市	時国家	1	交通の便が悪く時間的に無理だった	輪島市街地
		総持寺	1	交通の便が悪く時間的に無理だった	輪島市街地
	珠洲市	見附島	1		穴水駅
	能登町	宇出津	1	バスの本数が少なかったから	七尾駅
奥能登以外		七尾城跡	1	交通の便が悪く、1つ訪問するだけで1日を使ってしまう。	
		七尾市内	1	連絡が悪い	

資料：特急バス利用者アンケートより

■奥能登地域における旅行者のための交通整備の方向性（仮）

方向性1. 奥能登と金沢を結ぶ公共交通の充実（2次交通）

１－① 特急バスの利用促進を図り、利用者増をめざすことでサービス水準を高める

・輪島特急（金沢－輪島）は比較的充実しているが、ダイヤその他の改善点を追求して利便性を高めて利用促進を図り、利用者増をめざす。

・利用者増が実現されれば、運行本数のさらなる充実を図る。

１－② 能登空港などを基点とした広域交通の確保

・奥能登の各地域との分岐点となる箇所（能登空港など）を基点とし、比較的充実している輪島特急のダイヤに接続する枝線を運行することで、奥能登各地域と金沢との広域交通を充実させる。（平成 21 年度珠洲市・能登町による「ふるさとバス運行実験」参照）

方向性2. 奥能登地域内の周遊を可能とする公共交通の整備（3次交通）

２－① 奥能登各地域の拠点と主要観光地を結ぶ公共交通の確保

・輪島市街地（ふらっと訪夢など）から総持寺祖院（門前地区）や千枚田・曽々木海岸・時国家や、珠洲市街地（すずなり館）から禄剛崎、すず塩田村など、比較的距離があるものの路線バスで訪れることが困難な観光地を結ぶ公共交通を確保する。

・大きな需要が見込めない場合には、予約制や小型車両による運行などで効率化を図ることが望ましい。

２－② 奥能登各地域の拠点を基点とする予約制着地型周遊ツアーの開発

・奥能登地域の観光資源は広範囲に分布しているため、地元が企画する着地型ツアー（体験やガイド付きツアーなど）も広範囲に及ぶ。そのため、奥能登地域を周遊する交通手段込みの周遊ツアーを、着地型ツアーとして開発することが考えられる。（平成 20 年珠洲市による「ふるさと再発見観光ツアー実験」を参照）

方向性3. 公共交通機関の連携の強化による周遊環境の整備（2次－3次交通の連携）

３－① 複数の交通機関が一体となった料金プランの設定

・特急バス＋貸切観光タクシーやレンタカー、路線バスなど、金沢からの交通機関と奥能登地域内の交通機関とが一体となったお得な料金プランを設定し、利便性を高める。（「駅から観タくん」参照）

３－② 複数の交通機関が一体となった運営によるわかりやすさの実現

・奥能登における複数の交通機関が互いに交通情報の提供を行うほか、予約を一元化するなどし、わかりやすく利用しやすい環境をととのえる。

(c)今後訪れてみたい地域（三大都市圏）

・今後訪れてみたい地域として**輪島（朝市、温泉）が兼六園（金沢城）に次いで多く**の人に選ばれている。

・次いで**和倉温泉が約 24%であり、輪島と合わせて温泉地が上位**に選ばれている。

・首都圏に限定した場合でも、傾向はほぼ同様である。

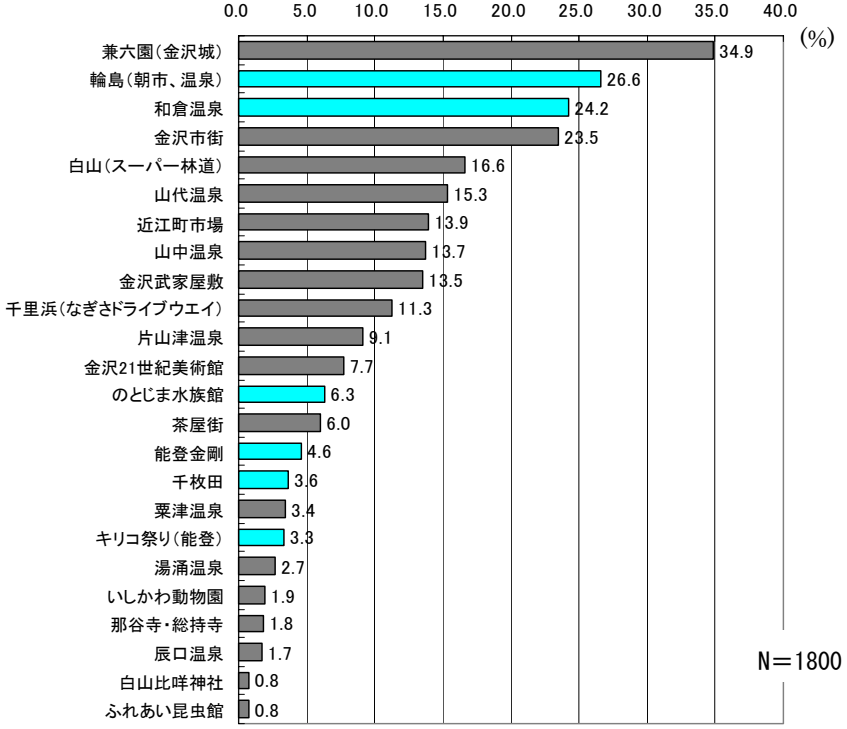


図　今後訪れてみたい地域（全体）

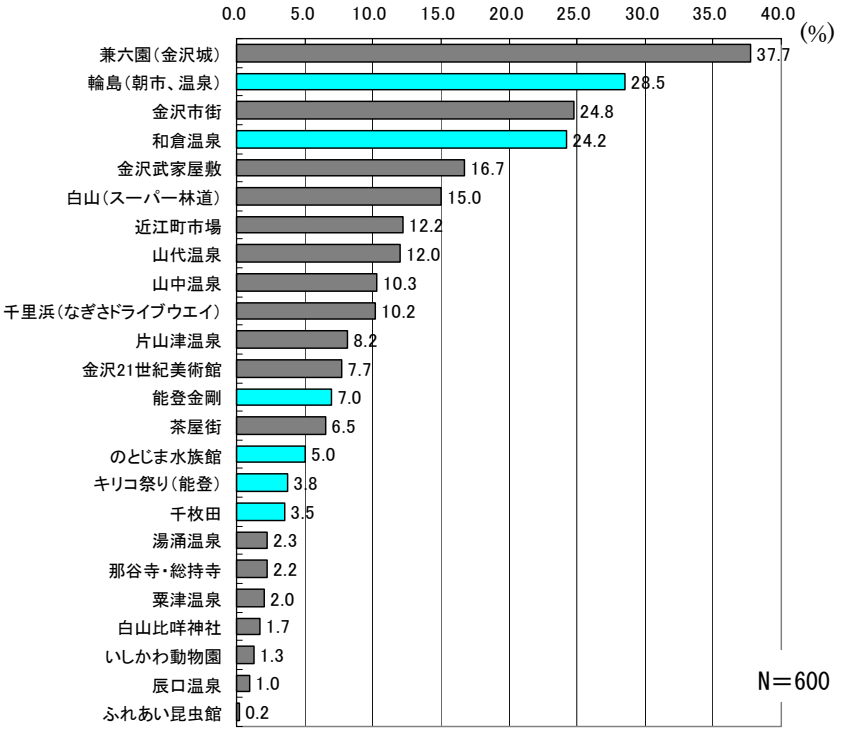


図　今後訪れてみたい地域（首都圏）

資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

(d)新幹線延伸後訪れてみたい地域（三大都市圏）

・新幹線延伸後訪れてみたい地域は、金沢市を挙げる人が突出して多い。

・三大都市圏のマーケットにおいて、**輪島市の訪問意向は、立山町、黒部市、福井市と並んで第３位グループ**を形成している。**七尾市の訪問意向は、坂井市、加賀市、氷見市と並んで第４グループを形成している。**

・首都圏のマーケットにおいても同様の傾向が現われている。

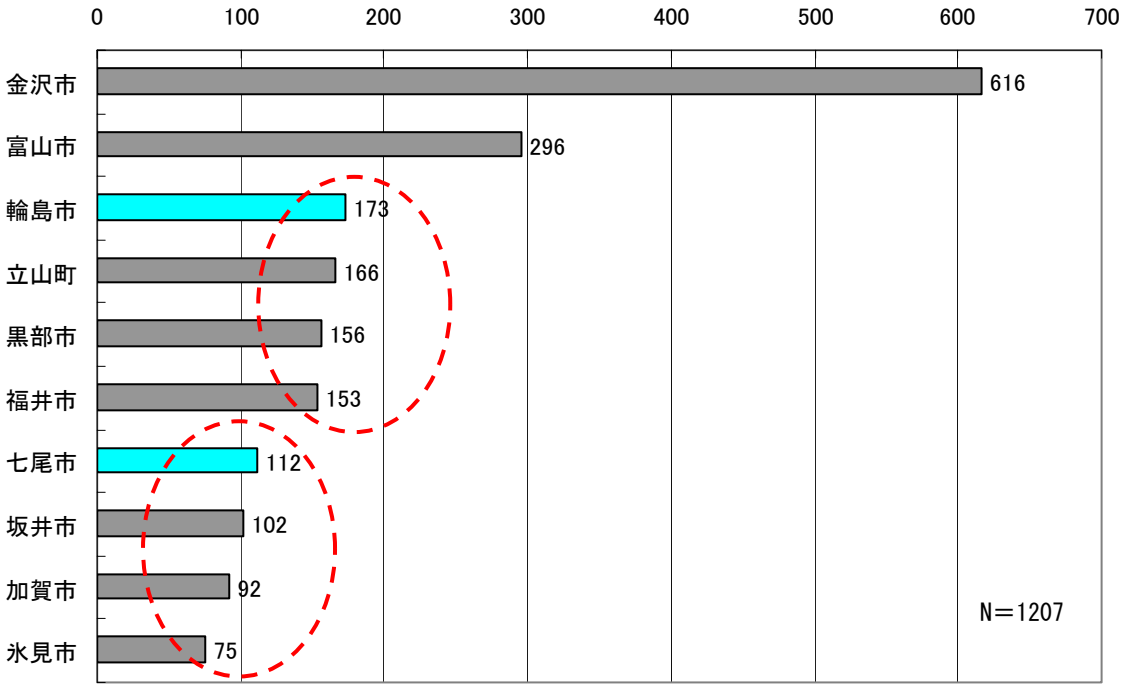


図　新幹線開通後訪れてみたい地域（全体）

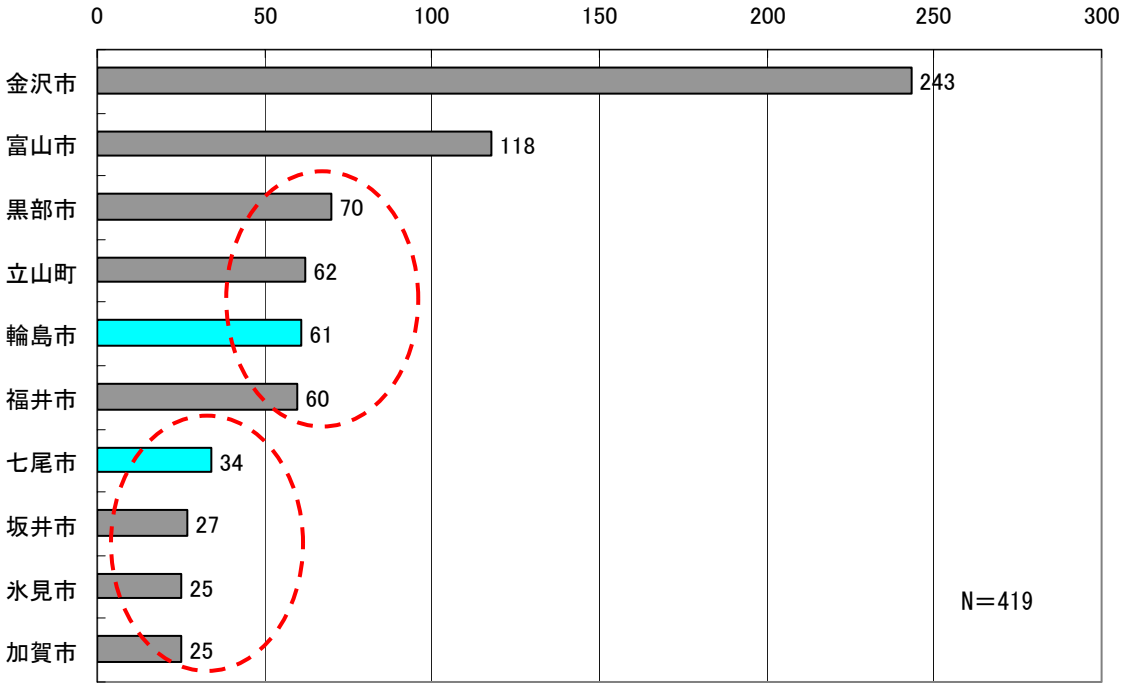


図　新幹線開通後訪れてみたい地域（首都圏）

資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

(e)新幹線開通後宿泊してみたい地域（三大都市圏）

・新幹線開通後宿泊してみたい地域として、金沢市（222）、富山市（143）に次いで、七尾市（133）が選ばれている。また、輪島市（61）も選ばれており、**七尾市、輪島市とも宿泊地としてある程度認知されている。**

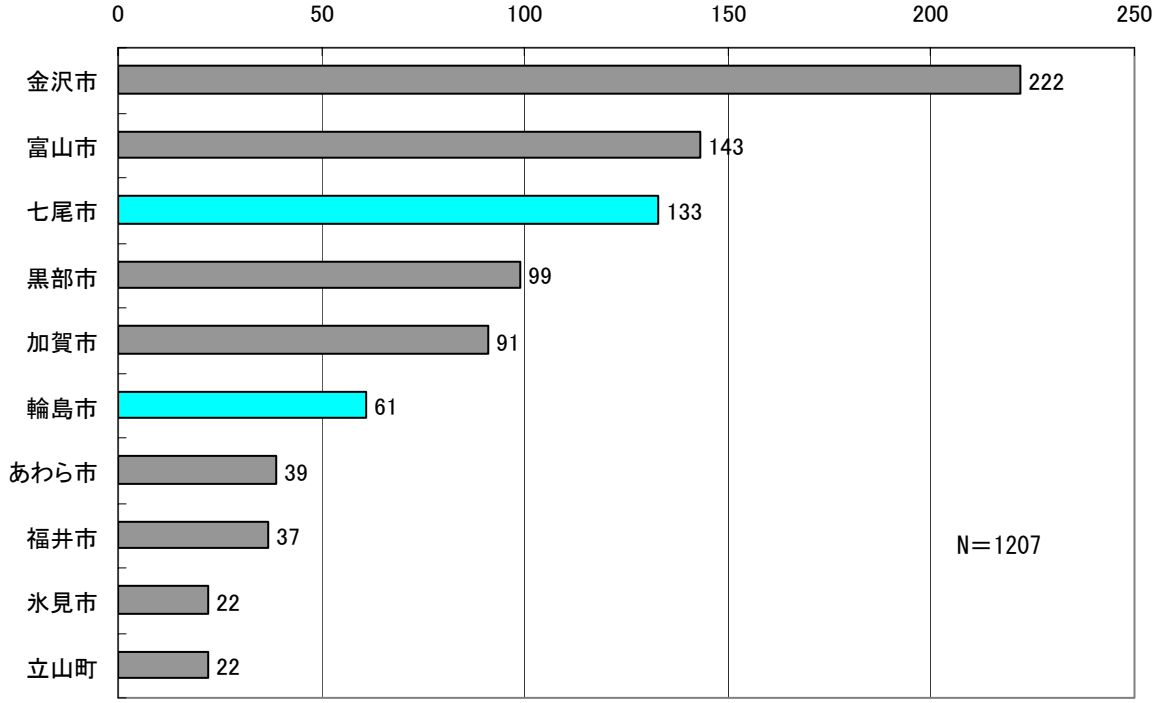


図　新幹線開通後宿泊してみたい地域（全体）

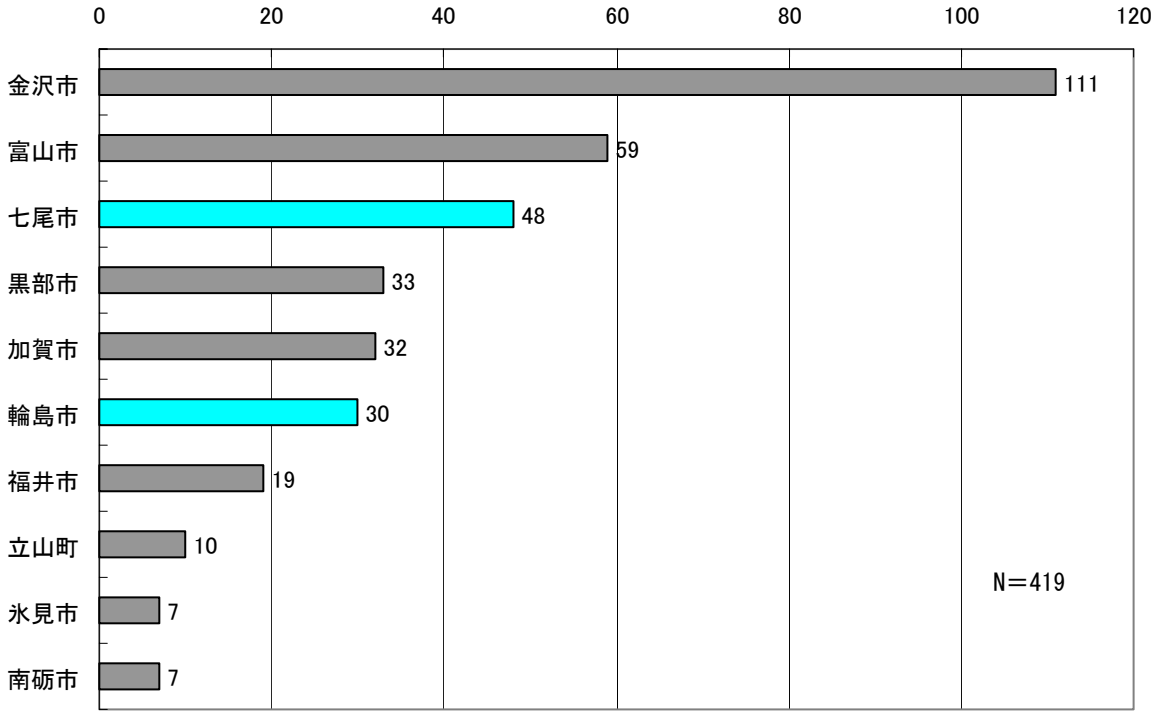


図　新幹線開通後宿泊してみたい地域（首都圏）

資料：平成 19 年度国土施策創発調査国内旅行者アンケート

④ディスカッション結果（まとめ）

論点･テーマ	意見・課題	今後の方策・アイデア
能登全体の着地型観光の振興	**「能登旨美オンパク　うまみん」の取り組みを軸**に、能登全体に広げていく方法がとれないか。	⇒**能登でたくさんのプログラムがつくれる**。奥能登の素材をピックアップするので、連携して「うまみん」に加えて欲しい。
	着地型観光を進める際には**「人材育成」が大きな課題**。	⇒**地元紙・地元誌に取り上げてもらう**ことで、近隣のリピーターが増えている。
	地元の人を巻き込むことが課題	⇒地元の人向けのプログラムとして**「暮らしとつながる」ものがあると、参加**してもらえる。
	事務局の負担が大きくなる点が課題。	⇒いい支援策があるとよい。
		⇒先に**お金が無い中でなんとかやってしまうと、あとからお金をもらうのが大変**になる。
		⇒コミュニティビジネス向けの補助事業の活用も可能性がある。
	情報発信が難しい。	⇒いいプログラムは教えて欲しい。ＪＲグループでの連携、情報誌に載せることも可能。
能登半島の二次交通・三次交通確保が必要	接続ダイヤ、情報の一元化など**個人、小グループへの対応**が求められる。	⇒**観光圏の実験事業**で、いろいろやってみたらどうか。
	現在、車の人が圧倒的に多いため、なかなか二次交通に取り組む体制になりにくい。	⇒**高岡・氷見からの二次交通**があれば、七尾を核とする能登半島観光圏は強くなる。
		⇒各自治体がもっている**コミュニティバスの相互利用**も検討したらよい。
		⇒着地型観光プログラム**「うまみん」で、交通をからめたプログラム化**を検討してみたらどうか。
総合案内機能が必要	案内所だけつくっても、パンフレットが並んでいるだけになると意味が無い。	⇒入ってきた情報や、実施した着地型プログラムの**情報を、もう一度分解して再構築する作業が必要**である。
		⇒**駅やホテルのコンシェルジュ機能を高め**、そこからいい着地型プログラムに参加してもらえるような仕組みづくりを実施したい。

４－３ 北陸地域づくり研究会の効果と課題

・「北陸地域づくり研究会」の実施結果をふまえ当初の目的に対する効果と課題について整理を行う。

目的１　新幹線延伸による首都圏等からの集客拡大を念頭に、魅力あふれる地域づくりを目指し、各地域における観光振興に関して議論を深め、**新幹線延伸までに取り組むべき地域の課題を整理**する。

【効果】

・取り組むべき課題の整理やその対応策についての意見交換は、第 1 回研究会から実施されていたが、会を重ねる毎に具体的な方策提案が生まれている。

・例えば、着地型観光の推進策としては、第 1 回・第 2 回研究会では「他地域の力も借りた定期的な点検が必要」、「交流人口増加によりメリットがある人が参加し人材不足を解消」、「価値を分かってもらうしくみづくりが必要」などの方策が出されたが、第 3 回研究会では「うまみんを軸に能登半島全体で取り組む」、「各地域の人が、プログラムになりそうな情報を持ち寄ってみる」など、協議内容が具体化している。

・開催地が直面している問題について、地元のキーマンと北陸のキーマンが議論することにより次のアクションにつながるようなアウトプットが生まれており、研究会の大きな効果といえる。

【課題】

・既に地元において議論され尽くしている課題に対して、一般論的な議論を行っても課題解決に結びつかないため、具体的な論点を設定したうえで、現地をみんなで確認しディスカッションできるようなプログラムづくりが重要である。

目的２　地域づくり研究会の委員のみならず、各開催地域において地域づくりに尽力しているキーマン等の参加を募り、**人材育成・ネットワークづくりの実践的な場とする。**

【効果】

・北陸三県のキーマン同士のネットワーク構築という面では、北陸地域づくり研究会の委員を核とする人脈が生まれており、いろいろな情報交換、ディスカッションができる体制ができつつある。

・一方開催地においては、高岡・氷見、にいかわ地域、能登半島地域のそれぞれで、隣の市の取り組みをよく知らない、キーマン同士のネットワークが弱いという現状も分かった。各地で研究会を開催することにより、自らの地域の再確認や、地元同士のネットワーク・情報交換が進む効果も確認されている。

【課題】

・現在構築されつつある「北陸地域づくり研究会」のネットワークを活かし、北陸新幹線金沢延伸までに各地で研究会を開催することにより、それぞれの地域の活性化を進めていくことが重要である。

・さらに、各キーマンが観光まちづくりに対する学習を進めるため、外部講師を招き、それぞれのアクションプランのブラッシュアップを行うことができる「北陸観光大学」のような取り組みも求められる。

5 北陸の観光地域づくり戦略・全体スケジュール

５－１　全体戦略の整理

・今年度の「北陸地域づくり研究会」の開催をふまえ、全体戦略の整理を行う。

観光まちづくりの現状

〇北陸全体での観光連携が弱く、観光圏の中でも隣の市町村の取り組みに対する認知度が低いなど、情報が流通していない。
〇新しいニーズに対応した着地型観光は、一部の地域で実践されているものの、北陸全体ではプログラムが少ない。

観光地域づくりの方向性

〇観光圏事務局や着地型観光のキーマン等が、デスティネーション・マネジメント・センター（ＤＭＣ＝観光まちづくり事業体）の運営を学び、実践するためのより高度な研究会＝「北陸ＤＭＣマネージャー養成講座（仮称）」を開催し、北陸におけるベストプラクティスの拡大を目指す。
〇観光まちづくりキーマンが、北陸各地で開催する「北陸地域づくり研究会」を継続し、観光まちづくりの実践を促進するとともに、各地の人材ネットワークの形成を図る。

実　施　方　策

北陸ＤＭＣマネージャー養成講座

方針：観光圏や着地型観光のキーマンがより高度な観光まちづくりを進めるための研修を継続的に行い、北陸のベストプラクティスの拡大を目指す。

〇目的：北陸の観光まちづくりキーマンのレベル向上により、活き活きとした観光まちづくりの推進を図る。
〇参加：北陸の観光まちづくりキーマン
〇内容：日本観光協会と全国地域オペレーター創造ネットワークが開催する「観光まちづくり事業体の事業運営人材研修」の内容等を参考に、少人数で深い学習を行う養成講座を実施する。

北陸地域づくり研究会

方針：北陸地域づくり研究会の継続により、各地の観光まちづくりの実践を促進し、人材ネットワークの形成を図る。

〇目的：北陸新幹線金沢開業までに、魅力的な観光まちづくりを実践する地域を増やす。
〇参加：北陸の観光まちづくりキーマン
開催地の観光まちづくり関係者
〇内容：各地の観光拠点、着地型プログラムの見学・体験
現状のデータ、取り組み内容の整理
各地の論点に従い意見交換
⇒実践すべき内容の共有

５－２ 実施方策の整理

北陸ＤＭＣマネージャー養成講座

方針：観光圏や着地型観光のキーマンがより高度な観光まちづくりを進めるための研修を継続的に行い、北陸のベストプラクティスの拡大を目指す。

ＤＭＣマネージャー養成講座内容

参 加 者	北陸の観光まちづくりキーマン（20 名程度） ※北陸地域づくり研究会委員を中心とするメンバー
開催回数	年４回程度
内　　容	毎回ＤＭＣの成功事例地域から講師を呼び、生の声でＤＭＣに必要な内容、実践のポイントを学ぶ。 連続したカリキュラムとして、１～２年で一通りの内容が学べるように内容を構成する。
研修項目	○着地型観光の開発・販売 ○観光イベントのコーディネート ○ＤＭＣの経営基礎 ○着地型観光プレイヤーの人材育成 ○観光マーケティング、顧客管理の基礎 ○情報発信の実践方法　　等
そ の 他	カリキュラム修了者は「北陸ＤＭＣマネージャー」として認定するなど、資格に準じる内容を付与する。 講座受講者のネットワーク化を図ることにより、北陸の観光連携を強化する。

注）ＤＭＣ：観光まちづくり事業体（ＤＭＣ＝Destination Management Company または Destination Management Center），地域内のヒトやモノをコーディネートし、地域外のリクエストに応じるランドオペレーター機能を持つ観光まちづくりの組織体

北陸地域づくり研究会

方針：北陸地域づくり研究会の継続により、各地の観光まちづくりの実践を促進し、人材ネットワークの形成を図る。

北陸地域づくり研究会

参 加 者	北陸の観光まちづくりキーマン 開催地の観光まちづくり関係者
開催回数	年４～６回程度
内　　容	■事前準備 ①開催地での現在の問題点・研究会論点の整理 ②現地視察・着地型プログラムの選定 ③参加してもらいたい各地の観光まちづくり関係者への呼びかけ ■研究会の開催 ①現地視察・着地型プログラムの体験 ②現況データ、取り組み内容の情報共有 ③各地の問題点、論点に基づく意見交換 ④今後実践すべき内容の共有
そ の 他	開催地における人材交流、ネットワーク形成を促し、一体的な取り組みの推進を図る。

現地視察の様子（高岡・氷見開催）

着地型プログラムの体験（能登開催）

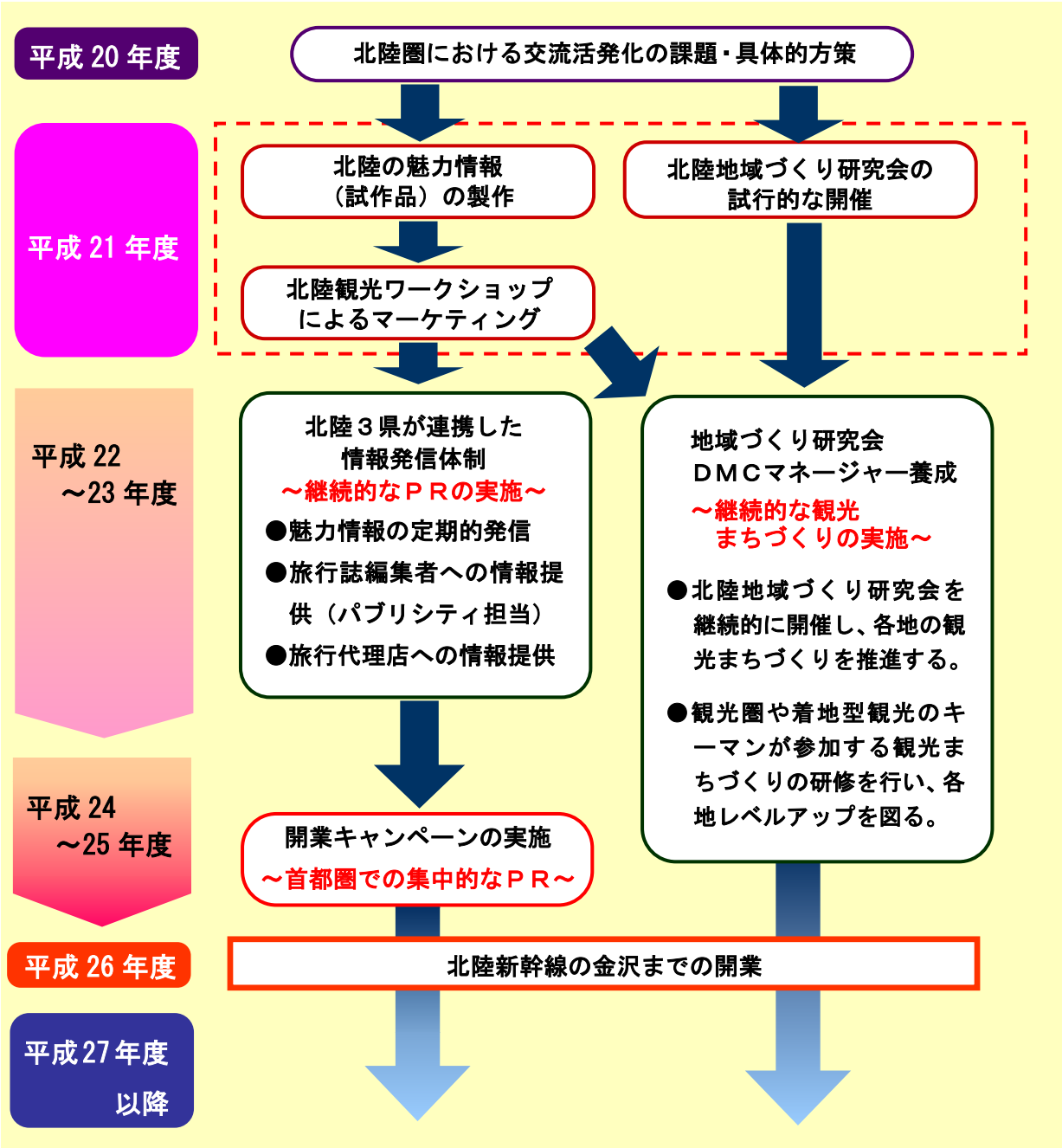
取り組み内容の情報共有（にいかわ開催）

意見交換（にいかわ開催）

５－３ 今後のスケジュール

・今年度は、北陸の魅力情報（試作品）の製作を行い、北陸観光ワークショップを東京で開催することにより首都圏のマーケットニーズの把握を行った。

・その結果、首都圏では平成 26 年度に予定されている北陸新幹線の金沢までの開業に対する認知度は低く、来訪経験が無い人にとっては北陸自体の認知度が低いことが確認される一方、魅力情報等の発信がイメージや来訪意欲の向上に効果的であることが分かった。

・平成 24、25 年に実施されると考えられる「開業キャンペーン」に向け、北陸３県が連携して情報発信体制を整え、継続的なＰＲを行うことが効果的である。

・今年度はもう一つの柱として、北陸地域づくり研究会の試行的な開催も行った。平成 26 年度までに魅力的な観光まちづくりが進んでいるためには、地域づくり研究会を継続的に開催するとともに、各地のキーマンのレベルアップを進めていくことが必要である。